

やぎ さわ ふる たて      やぎ さわ なか た  
八木沢古館      八木沢中田遺跡

やぎ さわ こま ごめ 1  
八木沢駒込Ⅰ遺跡

—市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書—

2006.3

岩手県宮古市教育委員会



## 序 文

宮古市では現在580箇所の遺跡が確認されております。遺跡にはかつて宮古に住んでいた先人たちの生活の跡が残っており、宮古市民の貴重な財産であると言えます。それらの遺跡をさらに後世へ伝えていくことが私たちの大事な責務であり、また開発工事などが原因で発掘調査を実施した遺跡について「発掘調査報告書」として広く市民に公開していくことも大事な使命といえるでしょう。

本発掘調査報告書は、八木沢地区で進められてきた市道岸ノ前ラントノ沢線道路改良工事に伴い実施された発掘調査の結果をまとめたものです。八木沢古館、八木沢中田遺跡、八木沢駒込Ⅰ遺跡の3遺跡が道路工事範囲内に所在するため、平成7年度から平成15年度まで継続して調査が行われてきました。

調査の結果、落とし穴・土坑・溝跡などが検出され、縄文土器・弥生土器・近世の銅銭などが出土しました。遺物の数は僅少でしたが、先人達の生活の痕跡を垣間見ることができました。

これらの調査結果が八木沢地区のみならず宮古市におけるさらなる歴史研究の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査にあたって御協力いただきました関係機関の方々に深く謝意を表します。

平成18年3月

宮古市教育委員会

教育長 中屋定基

## 例 言

- 1 本報告書は、「市道岸ノ前ラントノ沢線道路改良工事」に伴う緊急発掘調査の報告書である。
- 2 本書には、平成7年度から平成15年度にかけて実施された岩手県宮古市八木沢第5地割字寺ヶ沢、第6地割字中田に所在する八木沢古館、宮古市八木沢第6地割字中田、第7地割字ラントノ沢に所在する八木沢中田遺跡、宮古市八木沢第8地割字駒込、第7地割字ラントノ沢に所在する八木沢駒込Ⅰ遺跡及び遺跡隣接地の発掘調査の結果を収録した。
- 3 調査主体は宮古市教育委員会（教育長 中屋定基）である。八木沢古館（第1～3次調査）・八木沢駒込Ⅰ遺跡（第2次調査）は工藤剛司、八木沢駒込Ⅰ遺跡（第1次調査）は橋本晃一、八木沢中田遺跡（第1・2次調査）は安原誠、八木沢駒込Ⅰ遺跡（第3次調査）・遺跡隣接地は長谷川真が担当した。本報告書の作成は長谷川が担当し、その他担当職員がこれを補佐した。
- 4 調査座標は任意とし、レベル数値は標高値を表す。図中の方位は磁北を示す。
- 5 本報告書の遺構・遺物図版の縮尺率は、原則として土器は1/3、小型の石器は2/3、銭貨は1/1とし、各図版にスケールと縮尺率を示した。写真図版の縮尺率は、銭貨は1/1、その他は1/2である。
- 6 土色及び土質の観察は「新版標準土色帖 2001年度版」（小山正忠・竹原秀雄編著）を基準として表示した。
- 7 本文中及び挿図中で使用した略号は次のとおりである。  
SK：土坑、P：ピット（小穴）、T：トレンチ、SD：溝跡
- 8 本書に収録した遺跡の調査記録及び出土資料は、宮古市教育委員会で保管している。

# 目 次

序文	
例言	
目次 図版目次 写真図版目次	
序章 調査の概要	1
第1章 調査に至る経緯と周辺環境	2
第1節 調査に至る経緯と調査概要	
第2節 調査方法	
第3節 地理的環境	
第4節 歴史的環境	
第2章 八木沢古館	11
第1節 八木沢古館（第1次調査）	
第2節 八木沢古館（第2・3次調査）	
第3章 八木沢中田遺跡	33
第1節 八木沢中田遺跡（第1次調査）	
第2節 八木沢中田遺跡（第2次調査）	
第4章 八木沢駒込Ⅰ遺跡	43
第1節 八木沢駒込Ⅰ遺跡（第1次調査）	
第2節 八木沢駒込Ⅰ遺跡（第2次調査）	
第3節 八木沢駒込Ⅰ遺跡（第3次調査）	
第4節 試掘調査	
第5章 まとめ	69
報告書抄録	74

# 図版目次

第1図 遺跡位置図	4	第15図 八木沢古館（第2・3次調査）全体図	20
第2図 市道岸ノ前ラントノ沢線道路改良工事計画図	5	第16図 八木沢古館（第2・3次調査）基本土層図	21
第3図 地形分類図	6	第17図 2号落とし穴・12・13号土坑 平面図・断面図	22
第4図 周辺の遺跡分布図	8	第18図 1号溝状遺構 平面図・断面図	24
第5図 八木沢古館 位置図	11	第19図 遺構外出土遺物	24
第6図 八木沢古館（第1次調査）調査地点	11	第20図 八木沢中田遺跡 位置図	33
第7図 八木沢古館（第1次調査）全体図	12	第21図 八木沢中田遺跡（第1・2次調査）調査地点	33
第8図 八木沢古館（第1次調査）基本土層図	13	第22図 八木沢中田遺跡（第1次調査）全体図・基本土層図	34
第9図 1号落とし穴 平面図・断面図	14	第23図 1号土坑・1号ピット 平面図・断面図	35
第10図 1～5号土坑 平面図・断面図	15	第24図 八木沢中田遺跡（第2次調査）全体図	36
第11図 6～9号土坑 平面図・断面図	16	第25図 八木沢中田遺跡（第2次調査） 基本土層図・1号溝状遺構 断面図	37
第12図 10・11号土坑 平面図・断面図	18	第26図 遺構外出土遺物	38
第13図 遺構外出土遺物	18	第27図 八木沢駒込Ⅰ遺跡 位置図	43
第14図 八木沢古館（第2・3次調査）調査地点	19		

第28図	八木沢駒込Ⅰ遺跡(第1・2次調査)調査地点	43	第38図	八木沢駒込Ⅰ遺跡(第3次調査) Gトレンチ 平面図・断面図	54
第29図	八木沢駒込Ⅰ遺跡(第1次調査)全体図	44	第39図	5・6号土坑 平面図・断面図	55
第30図	八木沢駒込Ⅰ遺跡(第1次調査)基本土層図	45	第40図	遺構外出土遺物(1)	55
第31図	1～4号土坑 平面図・断面図	46	第41図	遺構外出土遺物(2)	56
第32図	遺構外出土遺物	47	第42図	試掘調査 調査地点	57
第33図	八木沢駒込Ⅰ遺跡(第2次調査)A区全体図・断面図	48	第43図	試掘調査 全体図・基本土層図	58
第34図	八木沢駒込Ⅰ遺跡(第2次調査)B区全体図・断面図	49	第44図	7・8号土坑 平面図・断面図	59
第35図	八木沢駒込Ⅰ遺跡(第3次調査)調査地点	50	第45図	遺構外出土遺物	59
第36図	八木沢駒込Ⅰ遺跡(第3次調査) A～Eトレンチ 平面図・断面図	52	第46図	宮古市内における主な弥生時代後期土器	72
第37図	八木沢駒込Ⅰ遺跡(第3次調査) Fトレンチ①② 平面図・断面図	53			

## 写真図版目次

### カラー写真

①落とし穴	1	②出土した弥生土器	1	38 第2次調査出土遺物	40
③溝跡	1	④土坑	1	39 第1次調査区 遠景	61
1 第1次調査区 遠景	25			40 第1次調査区 調査状況	61
2 第1次調査区 遠景	25			41 1号土坑 堆積状況	62
3 南北トレンチ 堆積状況	26			42 1号土坑 完掘状況	62
4 東西トレンチ 堆積状況	26			43 2号土坑 堆積状況	62
5 1号落とし穴 堆積状況	26			44 2号土坑 完掘状況	62
6 1号落とし穴 完掘状況	26			45 3号土坑 完掘状況	62
7 1・2号土坑 完掘状況	26			46 4号土坑 完掘状況	62
8 3号土坑 完掘状況	26			47 第1次調査出土遺物	62
9 4号土坑 完掘状況	26			48 第2次調査区 遠景	63
10 5号土坑 完掘状況	26			49 第2次調査区 調査状況	63
11 6号土坑 完掘状況	27			50 A区 調査状況	64
12 7号土坑 完掘状況	27			51 A区 堆積状況	64
13 8号土坑 完掘状況	27			52 A区 堆積状況	64
14 9号土坑 完掘状況	27			53 A区 堆積状況	64
15 10号土坑 完掘状況	27			54 B区 調査状況	64
16 11号土坑 完掘状況	27			55 B区 堆積状況	64
17 第1次調査出土遺物	27			56 第2次調査出土遺物	64
18 第2次調査区 遠景	28			57 第3次調査区 遠景	65
19 第2次調査区 遠景	28			58 第3次調査 調査前状況	65
20 南北トレンチ 堆積状況	29			59 Aトレンチ 掘り下げ状況	65
21 第3次調査 掘り下げ状況	29			60 Bトレンチ 掘り下げ状況	65
22 2号落とし穴 堆積状況	29			61 Bトレンチ拡張部分 遺構検出状況	65
23 2号落とし穴 完掘状況	29			62 Cトレンチ 掘り下げ状況	66
24 12号土坑 完掘状況	29			63 Dトレンチ 掘り下げ状況	66
25 13号土坑 完掘状況	29			64 Eトレンチ 堆積状況	66
26 1号溝状遺構 検出状況	29			65 Fトレンチ 掘り下げ状況	66
27 1号溝状遺構 完掘状況	29			66 Gトレンチ 掘り下げ状況	66
28 第2次調査出土遺物	30			67 5号土坑 完掘状況	66
29 第1・2次調査区 遠景	39			68 6号土坑 礫出土状況	66
30 第1次調査区 調査前状況	39			69 6号土坑 完掘状況	66
31 1号土坑 堆積状況	39			70 第3次調査出土遺物	67
32 1号土坑 完掘状況	39			71 試掘調査区 遠景	68
33 1号ピット 完掘状況	39			72 Aトレンチ 掘り下げ状況	68
34 第2次調査区 遠景	40			73 Bトレンチ 掘り下げ状況	68
35 第2次調査区 調査状況	40			74 Aトレンチ 堆積状況	68
36 1号溝跡 堆積状況	40			75 7号土坑 完掘状況	68
37 1号溝跡 完掘状況	40			76 8号土坑 完掘状況	68
				77 試掘調査出土遺物	68

## 序章 調査の概要

### 調査の概要

本発掘調査報告書は市道岸ノ前ラントノ沢線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の結果を報告するものです。発掘調査した遺跡は「八木沢古館」「八木沢中田遺跡」「八木沢駒込Ⅰ遺跡」の3遺跡で、「八木沢中田遺跡」は今回の発掘調査で発見され、新たに登録された遺跡になります。

「八木沢古館」は中世（鎌倉時代～戦国時代）の城館跡で、敵から身を守るための堀跡や建物があつたと考えられる平場の跡が残っています。今回の調査では、城館に伴う遺構や遺物は検出されませんでした。縄文時代の落とし穴2基、土坑13基、溝状遺構1基が見つかりました。また、弥生土器や石鏃などが出土しました。

#### ① 落とし穴



落とし穴は細長い形をしており、深さは約1mもあります。シカやイノシシなどの動物をとるために掘られたもので、縄文時代のものと思われます。

「八木沢中田遺跡」からは溝跡と土坑が見つかりました。右の写真は溝跡になります。尾根の上に作られていました。

「八木沢駒込Ⅰ遺跡」からは土坑が8基見つかりました。しかし、土器などの遺物が出土していないため時期は不明です。

土坑とは、人為的に掘られた穴のことで、貯蔵用、埋葬用、ゴミ捨て用など様々な用途が考えられています。

#### ② 出土した弥生土器



弥生時代の終わりごろ（約2,000年前）の土器になります。

#### ③ 溝跡



#### ④ 土坑



## 第1章 調査に至る経緯と周辺の環境

### 第1節 調査に至る経緯と調査概要

#### (1) 調査に至る経緯

発掘調査は市道岸ノ前ラントノ沢線道路改良工事に伴い実施されたものである。市道岸ノ前ラントノ沢線は河南中学校の北にある岸前橋を基点とし県立大学宮古短期大学の北側を通り、八木沢地区ラントノ沢のJR山田線踏切地点までの約2.3kmの区間で、金浜・高浜地区を通る国道45号の迂回路として計画された。平成元年度から用地買収などの事業が開始され、平成17年3月に全工事が終了した。

市道岸ノ前ラントノ沢線の道路改良工事の施工範囲には、八木沢丘陵の縁辺にある枝状にのびる尾根が含まれており、それらの尾根を掘削し法面を構築する工事が計画された。尾根上には遺跡が濃密に分布しているため、工事によって消滅する遺跡の調査及び隣接地における試掘調査について建設課と協議を行ない、平成7年度から発掘調査が開始された。調査は工事の進捗状況に合わせて平成15年度まで継続的に実施され、対象となる遺跡は八木沢古館、八木沢中田遺跡、八木沢駒込I遺跡の3遺跡で、そのうち八木沢中田遺跡は平成12年度の試掘調査によって発見され、新たに登録された遺跡である。

#### (2) 調査概要

市道岸ノ前ラントノ沢線道路改良工事に係る発掘調査は以下の地点において実施した。

#### 八木沢古館 (遺跡コード L G43-0357)

調査名	調査年次	調査地区	調査期間	調査面積	調査担当	遺構・遺物
第1次調査	平成7年度 (1995年)	宮古市大字八木沢第5地割字 寺ヶ沢2番2、2番5	(試掘)950628~950823 (本調査)960301~960327	250㎡	工藤剛司	落とし穴1基 土坑11基 縄文土器
第2次調査	平成9年度 (1997年)	宮古市大字八木沢第5地割字 寺ヶ沢71番、第6地割字中田 1番2、1番4	970501~970711	300㎡	工藤剛司	落とし穴1基 土坑2基 弥生土器、石鏃
第3次調査	平成10年度 (1998年)	宮古市大字八木沢第5地割字 寺ヶ沢71番2、第6地割字中 田1番2、1番3、1番6	980717~980929	75㎡	工藤剛司	溝状遺構1基 弥生土器

#### 八木沢中田遺跡 (遺跡コード L G43-0364)

調査名	調査年次	調査地区	調査期間	調査面積	調査担当	遺構・遺物
第1次調査	平成12年度 (2000年)	宮古市大字八木沢第6地割字 中田77番2	001026~001122	70㎡	安原誠	土坑1基 ピット1基 銭(寛永通寶)
第2次調査	平成13年度 (2001年)	宮古市大字八木沢第6地割字 中田77番2、第7地割字ラン トノ沢18番1	010425~010621	250㎡	安原誠	溝跡1条



## 八木沢駒込Ⅰ遺跡 (遺跡コード L G43-1206)

調査名	調査年次	調査地区	調査期間	調査面積	調査担当	遺構・遺物
第1次調査	平成7年度 (1995年)	宮古市大字八木沢第7地割字 ラントノ沢55番7、60番5	950620～950704	280㎡	橋本晃一	土坑4基 石製品、銭
第2次調査	平成9年度 (1997年)	宮古市大字八木沢第7地割字 ラントノ沢50番2、51番、52 番、53番1、54番1、56番2、 57番2、60番5、64番3	961018～961212	280㎡	工藤剛司	鉄滓
第3次調査	平成15年度 (2003年)	宮古市大字八木沢第7地割字 ラントノ沢52番2、64番3、 48番2、33番1	030408～030519	177㎡	長谷川真	土坑2基 縄文土器、弥生 土器、石鏃
試掘調査	平成14年度 (2002年)	宮古市大字八木沢第7地割字 ラントノ沢17番2	020826～021018	183㎡	長谷川真	土坑2基 縄文土器

## (3) 調査体制 (平成7～16年度)

調査主体 宮古市教育委員会 教育長 佐藤勇逸 (～平成9年度)

中屋定基 (平成9年度～)

調査総括	浦野光廣	宮古市教育委員会社会教育課長	(～平成9年度)
	中洞惣一	社会教育課長	(平成10年度)
	沼崎幸夫	社会教育課長	(平成11・12年度)
	伊藤賢一	生涯学習課長	(平成13～15年度)
	佐々木剛	生涯学習課長	(平成16年度)
事務担当	瀬川康平	生涯学習課長補佐兼文化係長	(平成10～13年度)
	小本 完	生涯学習課長補佐兼文化係長	(平成14年度)
	佐藤慎一郎	生涯学習課長補佐兼文化係長	(平成15年度～)
調査員	竹下将男	生涯学習課主査	
	高橋憲太郎	生涯学習課主任文化財調査員	
	鎌田祐二	生涯学習課主任文化財調査員	
	加納由美	生涯学習課主任文化財調査員	
	橋本晃一	社会教育課主事	(～平成7年度)
	工藤剛司	社会教育課埋蔵文化財調査員	(～平成11年度)
	安原 誠	生涯学習課文化財調査員	
	長谷川真	生涯学習課文化財調査員	(報告書担当)
	阿部 豊	生涯学習課埋蔵文化財調査員	
	江口邦泰	生涯学習課埋蔵文化財調査員	

調査の実施にあたり、次の方々から多大な御協力を頂きました。記して感謝申し上げます。(敬称略)

発掘調査作業員 今津東一 扇田正義 大沢裕明 大下義文 小野寺青治郎 川目嘉郎  
 北村茂樹 北村忠治 小成裕信 佐伯裕則 坂本晃 佐々木彰 佐々木茂実  
 佐々木力 佐々木信晴 佐々木英生 斎藤貞子 佐野利男 島田義道  
 菅原テルミ 杉田セキ子 鈴木恵美子 鈴木祥一 高橋貞兆 田沢和徳  
 舘下久雄 中居磯雄 中居勝二 中澤ヒテ 中嶋正裕 中田隆 西村敏光  
 福士祐二 藤谷晶子 古舘友三 三浦力 水本正男 向井八夫 柳澤秀平  
 山内勝雄 山内専太郎 山根保行 吉田昭

資料整理作業員 久保田加代子 佐藤晴美 城内務 鈴木恵美子 福士祐二 松屋喜一郎  
 三浦功

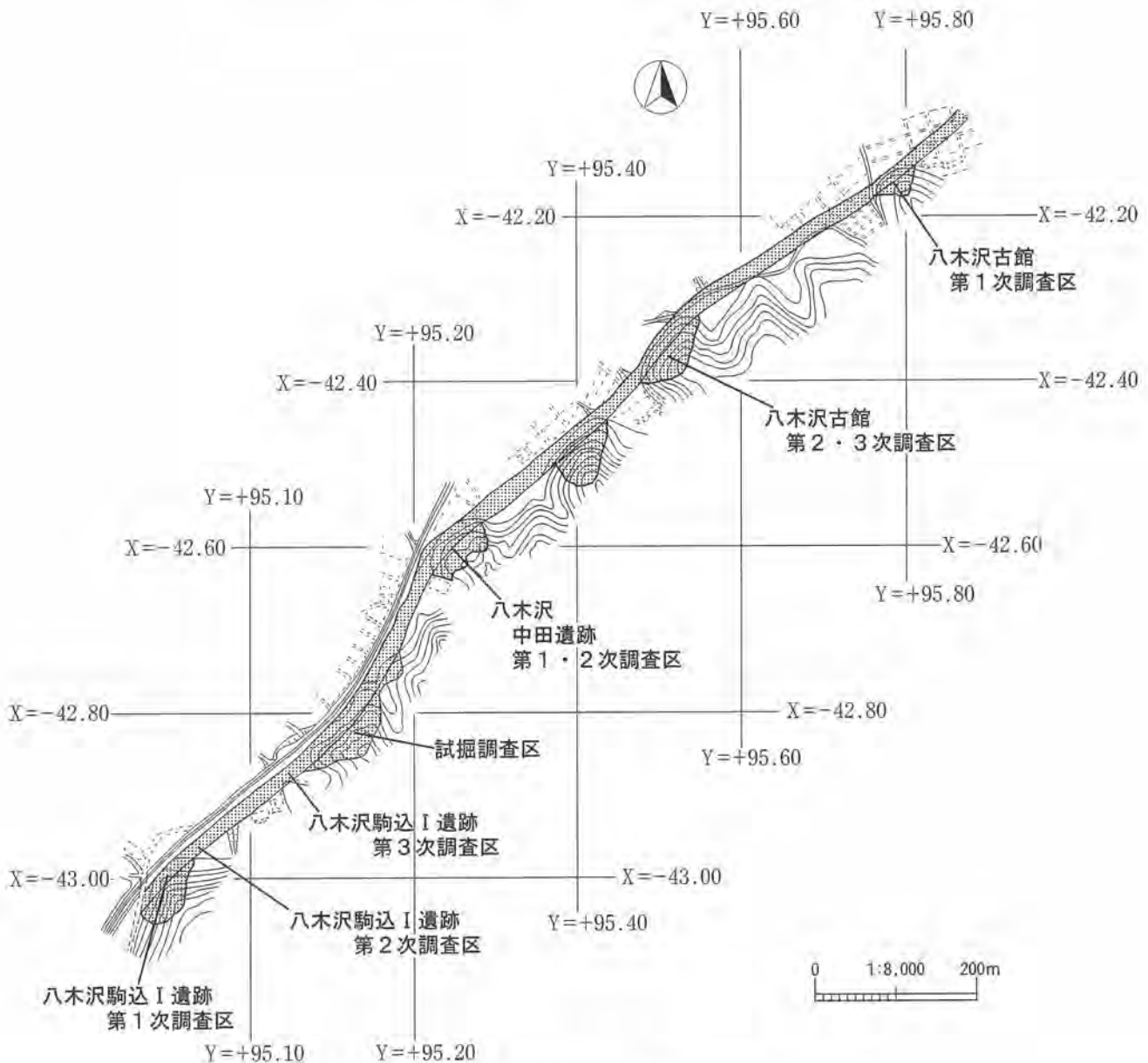


第1図 遺跡位置図

## 第2節 調査方法

市道岸ノ前ラントノ沢線は、岸前橋からラントノ沢にあるJ R山田線の踏切までの全長約2.3kmの間であるが、そのうち法面工事や盛り土工事に伴い遺跡にかかる区間は約1.3kmである。対象となる遺跡は前述のとおり東側から八木沢古館、八木沢中田遺跡、八木沢駒込I遺跡の3遺跡で、法面工事に伴うという性格上、発掘調査地点は尾根先端の斜面部や尾根上に位置しており、主にトレンチによる調査を行なっている。遺構が検出された場合にはさらにトレンチを拡張するという方法で調査を進めた。座標は全ての地点において道路工事の測量杭などを基準とし、任意に設定したものである。

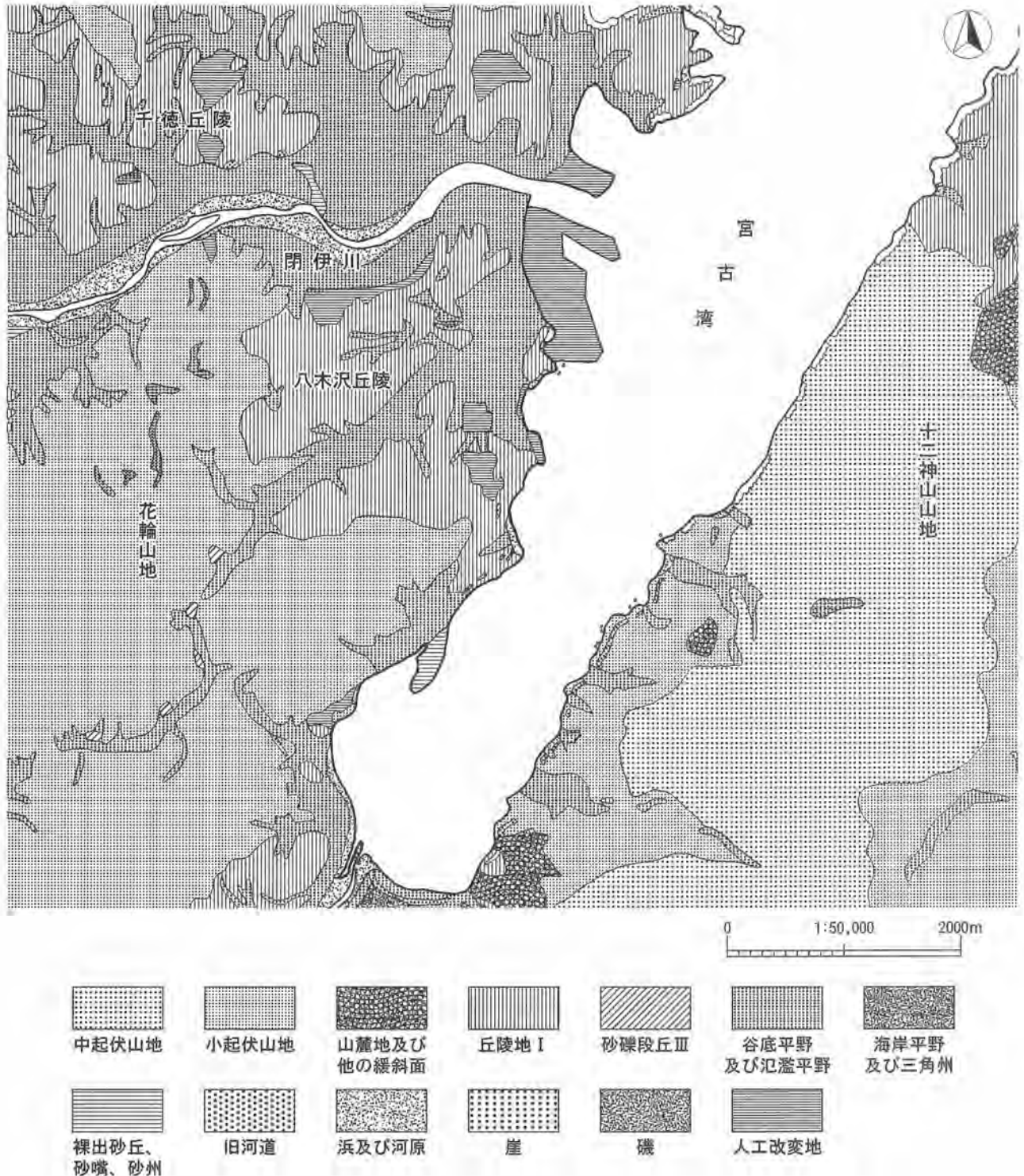
遺構の記録は1/20縮尺を基本にして平面図・断面図を作成し、遺構の細部の記録には1/10縮尺で図化した。また地形図は平板を用いて調査区の規模に合わせた縮尺で作成した。写真撮影には35mmのカメラを用い、フィルムはモノクロームとカラーリバーサル、カラーフィルムを使用した。



第2図 市道岸ノ前ラントノ沢線道路改良工事計画図

### 第3節 地理的環境

岩手県宮古市は岩手県沿岸のほぼ中央に位置し、市境は、西は川井村、北は岩泉町、南は山田町に接しており、東は太平洋に面している。平成17年6月6日に宮古市、田老町、新里村の1市1町1村で新設合併し、新宮古市が誕生した。合併により市域の総面積は696.82km<sup>2</sup>、人口約6万3千人の岩手県沿岸における産業や観光の中心的役割を担う都市となった。



第3図 地形分類図

市域の西側には、標高1,914mの早池峰山を最高峰とする北上山地の山々が連なり、東側は太平洋を臨む。市域の東端にある銚ヶ崎は本州における最東端ともなっており、さらに宮古市周辺の海岸には浄土ヶ浜、ローソク岩などの岩手県随一の景勝地を有している。

市域を流れる河川は、北上山地を源流とする閉伊川、その支流である山口川、近内川、長沢川があり、さらに宮古湾に注ぎこむ津軽石川など大小の河川がある。それらの河川によって形成された丘陵地縁辺部の尾根上に遺跡が濃密に分布している。

今回調査を実施した八木沢地区は、八木沢川によって形成された低地面と枝状に複雑に入り組んだ尾根をもつ八木沢丘陵地の大きく2つの地形に分けられ、調査地点は主に尾根先端部分の斜面に立地している。調査地点の標高は八木沢駒込Ⅰ遺跡試掘調査地点の約54mが最も高く、最も低い地点は八木沢駒込Ⅰ遺跡の第3次調査地点で標高約22mである。

## 第4節 歴史的環境

八木沢古館・八木沢中田遺跡・八木沢駒込Ⅰ遺跡が所在する宮古市八木沢地区には、八木沢川により開析された低地面と尾根が枝状に入り込んだ八木沢丘陵が広がっている。遺跡は、八木沢川を挟み南北に広がる八木沢丘陵縁辺の尾根上に多く分布している。

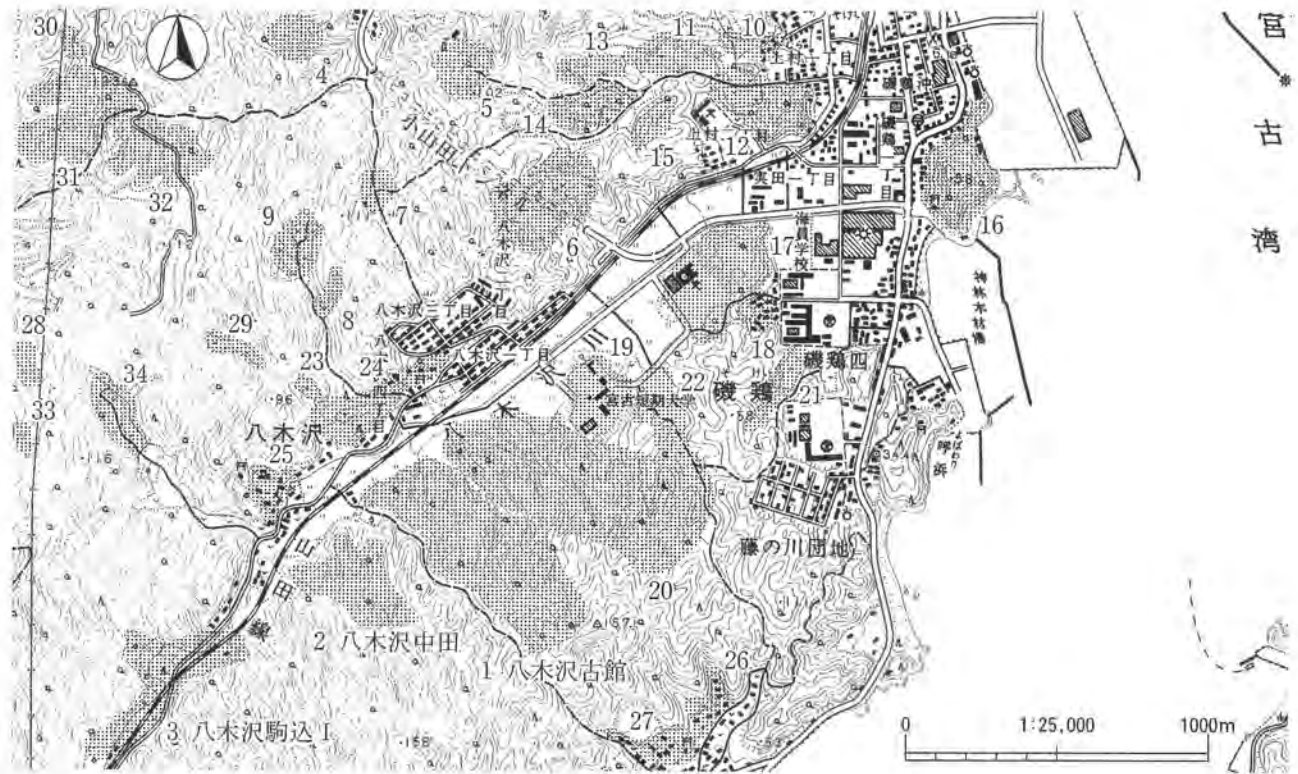
**縄文時代** 縄文時代の遺跡には、磯鶏蝦夷森貝塚・上村貝塚などがある。磯鶏蝦夷森貝塚は、明治時代から知られた貝塚で、大正時代には東北帝国大学教授長谷部言人や内務省考査官柴田常恵などにより発掘調査が行なわれている。特に大正13年の柴田常恵らの調査や昭和42年の岩手大学草間俊一教授らによる調査では、縄文時代の埋葬された人骨が出土し、市内でも重要な遺跡であるとして昭和31年には市の史跡に指定されている。上村貝塚は、昭和62年に岩手県埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われ、縄文時代中期の竪穴住居跡10棟、土器埋設遺構1基、縄文時代の人骨が検出されている。縄文土器のほか、骨角器や円盤状土製品などが出土し、さらにヒスイ大珠が出土していることが特筆される。

**弥生時代** 弥生時代の遺跡には、前述の上村貝塚のほか木戸井内Ⅲ遺跡などがある。上村貝塚の調査では弥生時代前期の竪穴住居跡が5棟検出され、弥生土器や環状石製品、紡垂車などが出土している。木戸井内Ⅲ遺跡では弥生時代後期に属する土器片が出土している。

**奈良・平安時代** 奈良・平安時代の遺跡には、磯鶏館山遺跡、島田遺跡、島田Ⅱ遺跡などがある。磯鶏館山遺跡は昭和59年から3ヵ年で調査が実施され、尾根上や斜面から平安時代の竪穴住居跡が27棟も検出されている。島田遺跡は昭和59年から昭和60年まで調査が行われ、平安時代の竪穴住居跡が8棟検出されている。島田Ⅱ遺跡は岩手県埋蔵文化財センターによって平成12年から3ヵ年で調査が行われ、9～10世紀代と思われる竪穴住居跡や製鉄炉、鍛錬鍛冶炉、燃料木炭を焼いた炭窯などが多数検出されている。鉄製品も多く出土し、それらの生産に携わった人々の集落跡と考えられている。

**中世** 八木沢地区には磯鶏館山遺跡、八木沢古館、八木沢新館の中世城館が知られる。磯鶏館山遺跡からは前述のとおり平安時代の集落跡も検出されているが、その名の如く中世の時期には館として機能していたと考えられ、尾根上を平らに切り開いて建てられた建物跡やその平場を囲むように構築された空堀跡、また防御のためと思われる切岸跡が確認されている。中国産青磁や常滑、瀬戸産の陶器、北宋銭などが出土し、それらの陶磁器の年代から15世紀、室町時代ごろに築かれたものと考えられている。

八木沢古館と八木沢新館は八木沢川を挟み、南側の尾根に古館、北側の尾根に新館が築かれている。八木沢古館には主郭、二の郭、三の郭が構築され、細長い尾根は空堀で切られている。館の範囲は尾根先端から基部にある空堀まで約250m、幅は主郭周辺で約180mとなっている。なお、館の西側にある湯舟ヶ沢といわれる沢周辺からは縄文土器・土師器・須恵器が出土している。八木沢新館は東西に細長く伸びた尾根を利用し、主郭、二の郭、三の郭が構築されている。空堀跡もみられ、その空堀の西側には館崎八幡の祠が祀られている。館の範囲は尾根沿いに約280m、幅約100mである。これら2つの館跡の館主は八木沢氏とされている。



No.	遺跡コード	遺跡名	遺構・遺物	No.	遺跡コード	遺跡名	遺構・遺物
1	L G 43-0357	八木沢古館	城館跡	18	L G 34-2076	仏沢 I	土師器
2	L G 43-0364	八木沢中田	土坑、銭	19	L G 34-2091	島田	平安時代集落・土師器・須恵器
3	L G 43-1206	八木沢駒込 I	縄文土器(前期)・土師器・鉄滓	20	L G 43-0338	島田 II	縄文土器・土師器・須恵器・製鉄遺構
4	L G 33-1380	小山田 I	土師器・鉄滓・羽口	21	L G 34-2097	仏沢 II	縄文土器・土師器
5	L G 33-2306	小山田 II	土師器・鉄滓	22	L G 44-0003	磯鶏中谷地	土師器・須恵器・落とし穴
6	L G 33-2349	磯鶏竹洞 II	縄文土器・土師器	23	L G 43-0301	八木沢守ノ越 I	縄文土器
7	L G 33-2343	猿楽峠	土師器・縄文時代石器	24	L G 43-0312	八木沢新館	城館跡
8	L G 33-2372	八木沢守ノ越 III	縄文土器・土師器	25	L G 43-0330	八木沢 I 白山下	縄文土器(中期)
9	L G 33-2351	八木沢守ノ越 IV	縄文土器・弥生土器・土師器	26	L G 44-0095	高浜 I 坂ノ下	縄文土器
10	L G 34-1085	上村貝塚	縄文土器(中期)・弥生土器・貝層	27	L G 44-1013	高浜 II 今ヶ洞	縄文土器(前・中・後期)
11	L G 34-1084	上村 II	縄文土器(中期)・土師器	28	L G 33-2292	隠里 III	縄文土器(中・後期)・土師器・須恵器
12	L G 34-2007	磯鶏銀夷森貝塚	縄文土器(中期)・土師器・須恵器・人骨	29	L G 33-2288	八木沢守ノ越 II	縄文土器
13	L G 34-1091	上村 III	縄文土器(中期)・土師器	30	L G 33-1273	木戸井内	縄文土器・壁穴住居
14	L G 34-2001	上村 IV	縄文土器(中期)・土師器	31	L G 33-2213	木戸井内 II	木炭窯
15	L G 34-2013	磯鶏竹洞 I	縄文土器(中期)・土師器	32	L G 33-2226	木戸井内 III	木炭窯・弥生土器
16	L G 34-2123	磯鶏沖	城館築定地・台場跡	33	L G 43-0212	隠里 V	土師器・鉄滓
17	L G 34-2155	磯鶏館山	城館跡・平安時代集落	34	L G 43-0205	八木沢 II	縄文土器

第4図 周辺の遺跡分布図

やぎさわふるたて  
八木沢古館（第1～3次調査）





## 第2章 八木沢古館

### 第1節 八木沢古館（第1次調査）

#### (1) 調査の概要

八木沢古館は宮古市大字八木沢第5地割字寺ヶ沢、第6地割字中田に所在する中世城館で、八木沢川によって形成された沖積地を見渡す八木沢丘陵の尾根上に立地している。主郭や空堀跡などが構築されており、館主は八木沢氏といわれている。

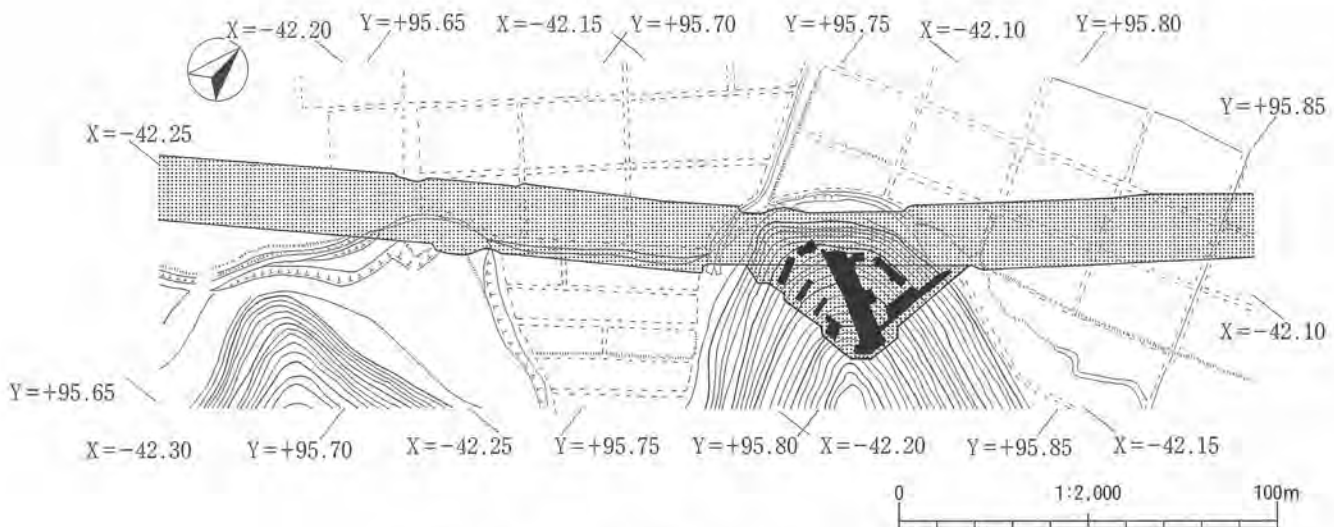
第1次調査の調査地点は八木沢古館の北端に位置し、北西方向に伸びる尾根の先端部分にあたる。調査前の現況は山林で、地表面において曲輪状の平場が4段確認され、館に関する遺構ではないかと想定された。

平成7年6月21日付け建設第46号で宮古市建設課から埋蔵文化財発掘調査実施の依頼があり、平成7年6月28日から試掘調査を開始している。さらに平成7年6月21日付け建設第44号で文化財保護法第57条の3第1項の規定による発掘調査の通知が提出され、これに対し平成7年7月4日付け教文第7-40号で岩手県教育委員会から工事着手前に発掘調査を実施するようとの通知があった。

試掘調査の結果、土坑が5基検出されたため、平成7年10月2日に建設課と協議を行ない翌平成8年に本調査を実施することが決定された。本調査は平成8年3月1日から開始され、市教委は平成8年2月27日付け教第1845号で岩手県教育委員会に対し文化財保護法第98条の2第1項の規定に



第5図 八木沢古館 位置図



第6図 八木沢古館（第1次調査）調査地点

よる発掘調査の報告を行なっている。調査面積は試掘・本調査合わせて約250㎡である。

### (2) 調査経過

試掘調査は平成7年6月28日から開始した。まず現在の地表面で観察された段状にみられる平場に直交するように、東西・南北方向の2本のトレンチを設定し、遺構確認を行なった。東西トレンチからは土坑が検出され、7月18日から土坑の精査を行ない、7月21日から平面図・断面図を作成した。8月23日に器材を撤収し、調査が終了した。延べ調査日数は29日である。

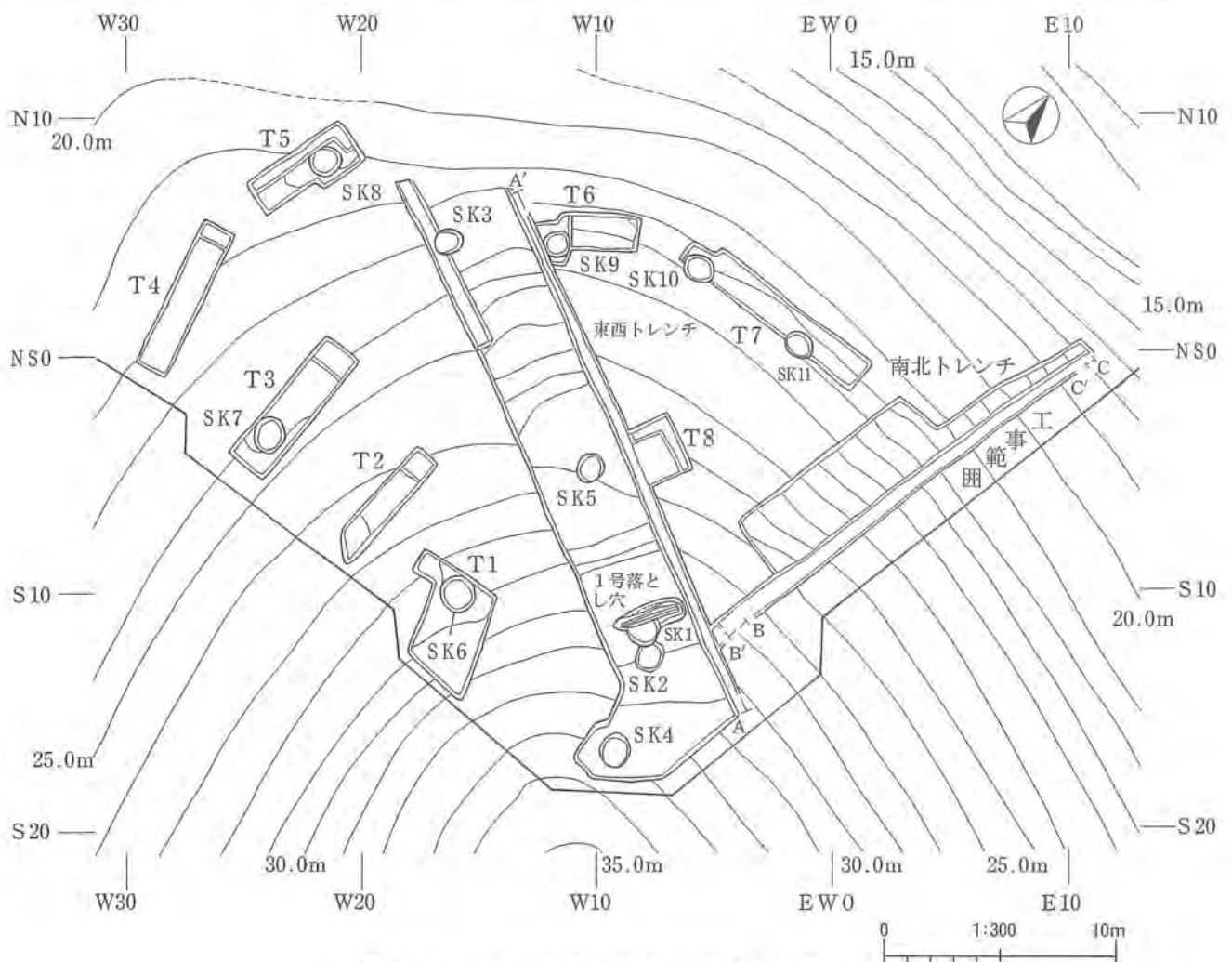
本調査は平成8年3月1日から開始し、まず段状の平場の性格を把握するために平場に沿って8本のトレンチを設定し掘り下げを行なった。その結果土坑が6基検出され、それぞれ精査を行なった。延べ調査日数は15日である。図面整理などの整理作業は平成7年12月26日から平成8年3月29日まで行った。

### (3) 基本土層

基本土層はI層～V層に大別される。

I層：表土及び盛土で、さらにI a層～I e層に細別される。I a層・I b層は現在の表土で、I a層は調査区の南側、尾根の突端部分にのみ堆積している。I c層～I e層は盛土で、平場の端の部分にのみ堆積している。

II層：旧表土で、調査区南側の平場最上段に最も厚く堆積している。暗褐色シルト質埴壤土を基本



第7図 八木沢古館（第1次調査）全体図

土とし、やや硬質で、粘性はない。

III層：旧表土で、最上段の平場及び平場の端の部分にのみ堆積している。III a層・III b層に細別され、III a層は黒褐色シルト質埴土を基本土とし、III b層は黒褐色軽埴土を基本土とする。ともにやや硬質で、III a層は粘性がなく、III b層は粘性がややある。

IV層：地山漸移層で、主に平場部分に堆積している。褐色シルト質埴土を基本土とし、やや軟質で粘性はない。

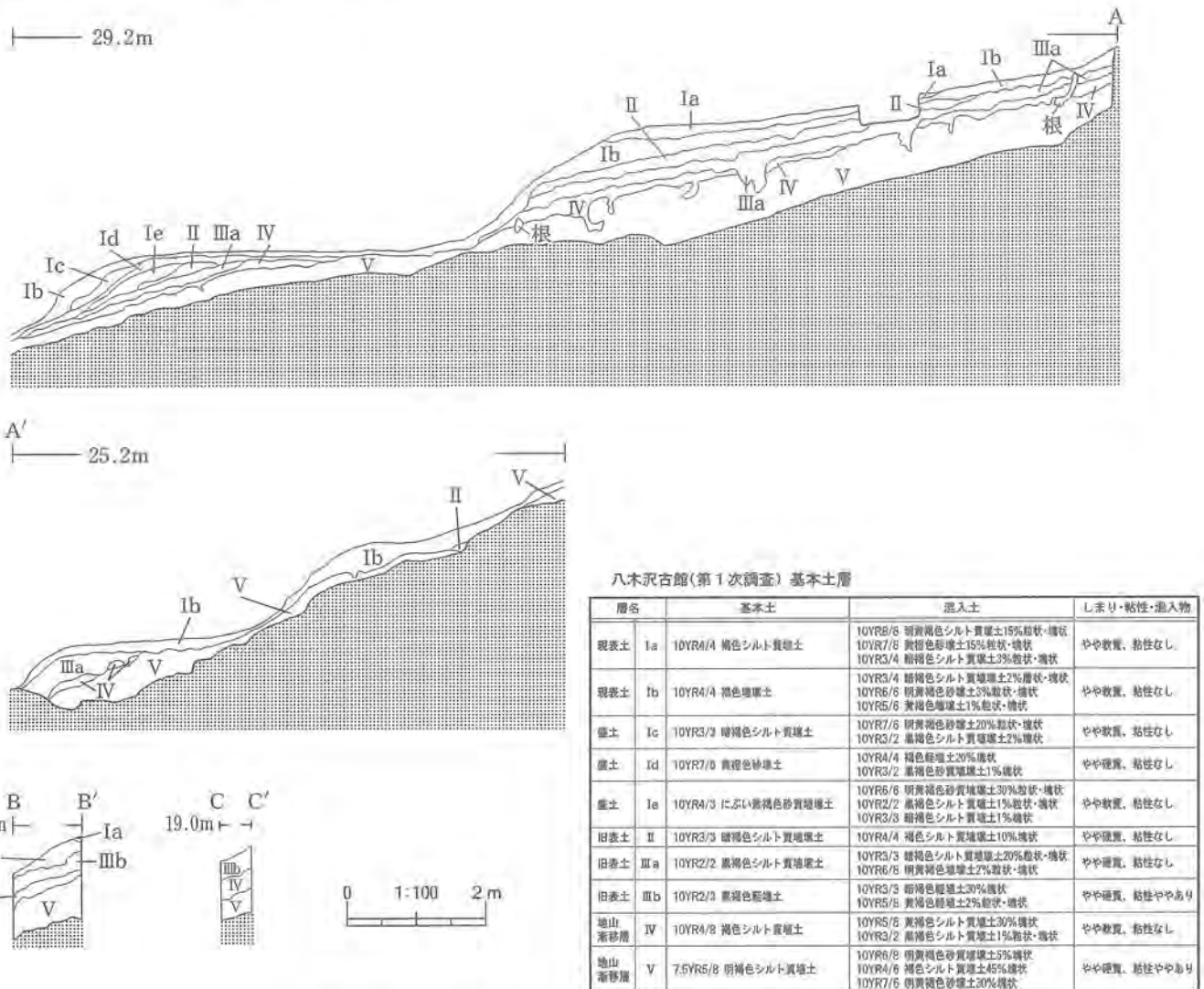
V層：地山漸移層で、調査区全体に堆積している。明褐色シルト質埴土を基本土とし、やや硬質で粘性はややある。

(4) 検出された遺構と遺物

遺構は落とし穴遺構1基、土坑11基が検出され、遺構外から縄文土器が出土している。

1号落とし穴（図版9、写真図版5・6）

1号落とし穴は東西トレンチの南側、最上段の平場で検出され、遺構確認面は地山面である。1号土坑と重複し、新旧関係は本遺構の方が古く、1号土坑によって南側の一部が壊されている。平面形は長楕円形を呈し、長径3.13m、短径1.07m、深さ0.96mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がり角度は東側で約50°、西側で約70°である。



第8図 八木沢古館（第1次調査）基本土層図

堆積土はA～C層に大別され、さらに7層に細別される。B2層を除く全ての層に炭化物が少量含まれている。遺物は出土していないため、明確な時期は不明であるが、平面形や断面の形態などから縄文時代に属するものと考えられる。

**1号土坑 (SK1)** (図版10、写真図版7)

1号土坑は東西トレンチの南側で検出され、遺構確認面は地山面である。1号落とし穴・2号土坑と重複し、新旧関係は1号落とし穴・2号土坑よりも本土坑の方が新しい。平面形は不整形を呈し、長径1.41m、短径1.31m、深さ0.7mを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

堆積土はA～D層に大別される。A層はにぶい赤褐色壤土で、全層中最も赤みを帯びている。D1・D2層は黄褐色・明黄褐色シルト質壤土で、底面直上に堆積している。遺物は出土していない。

**2号土坑 (SK2)** (図版10、写真図版7)

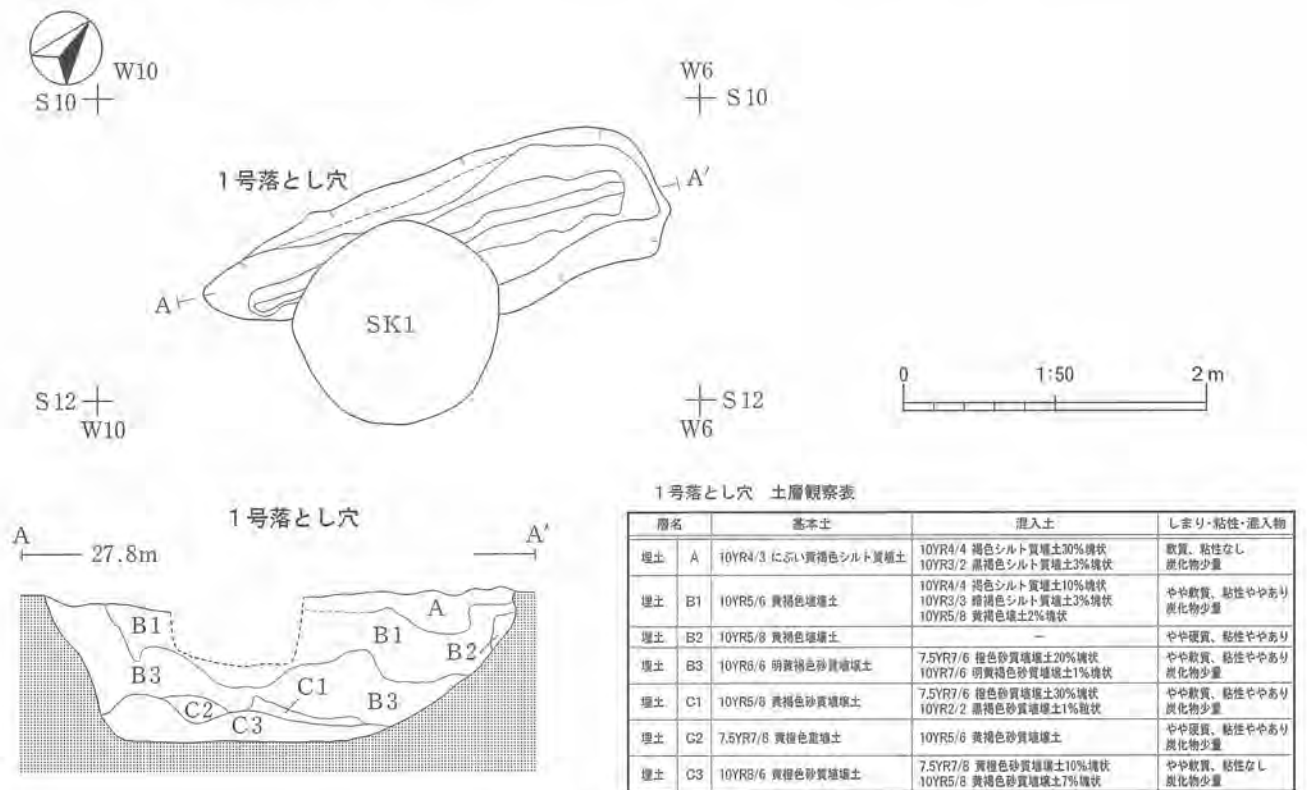
2号土坑は1号土坑の南側で検出され、遺構確認面は地山面である。本土坑の北西壁で1号土坑と重複し、新旧関係は本土坑の方が古い。平面形は楕円形を呈し、長径1.32m、短径1.05m、深さ0.73mを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

堆積土は2層に分けられ、A1層は褐色シルト質壤土を基本土とし層厚は約10cmである。A2層も褐色シルト質壤土を基本土とし、A1層よりもやや暗い色調をもつ。層厚は約60cmと厚く堆積している。遺物は出土していない。

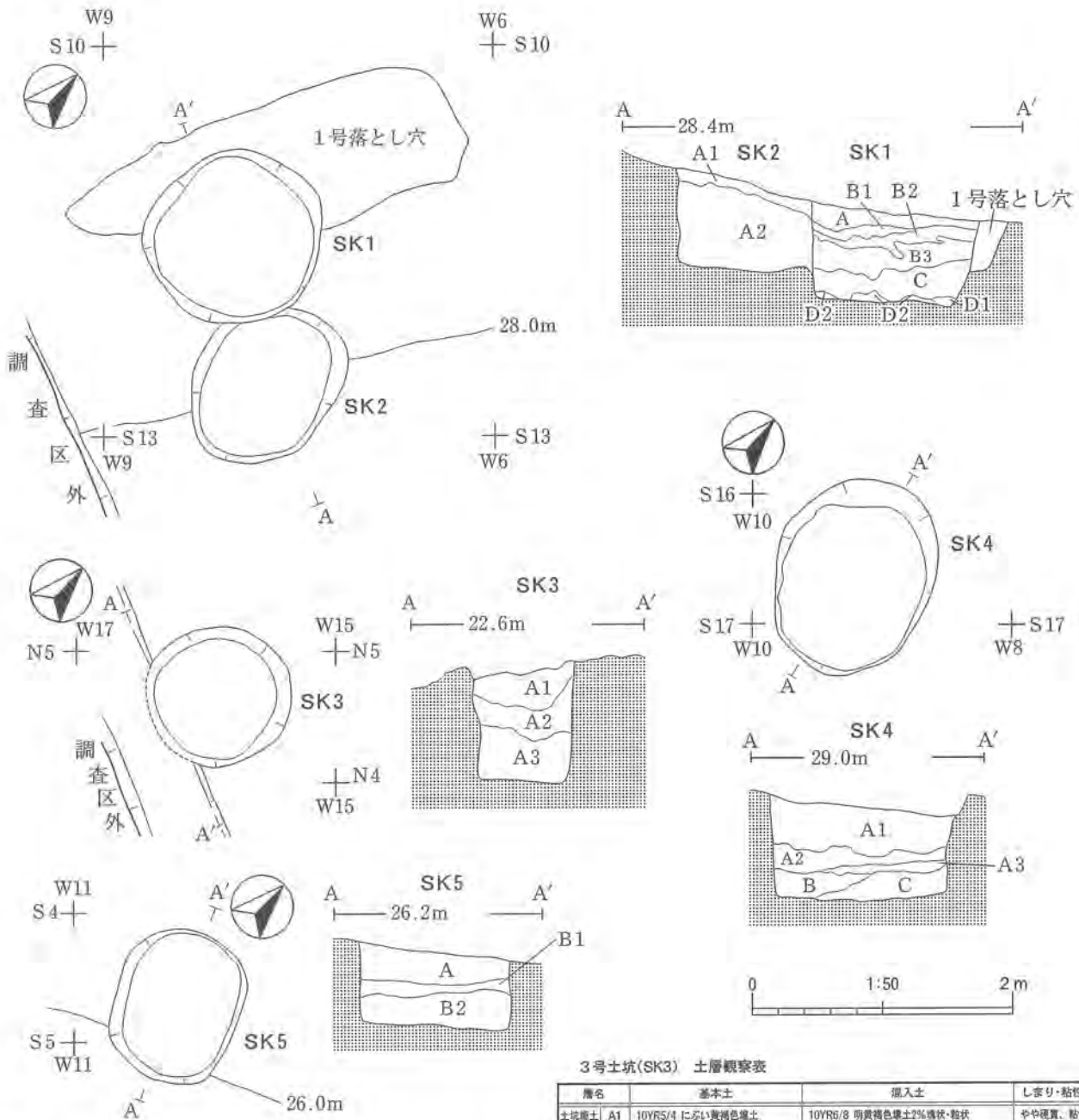
**3号土坑 (SK3)** (図版10、写真図版8)

3号土坑は東西トレンチの西側で検出され、遺構確認面は地山面である。平面形は円形で、直径1.14m、深さ0.88mを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

堆積土は3層に分けられる。全てにぶい黄褐色壤土を基本土とするが、混入土の密度がそれぞれ異なっている。遺物は出土していない。



第9図 1号落とし穴 平面図・断面図



1号土坑(SK1) 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土 A	2.5YR4/3 にぶい赤褐色壤土	10YR6/8 明黄褐色壤土15%塊状・粒状 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質壤土1%微状	やや硬質、粘性なし
土坑埋土 B1	10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土7%塊状 10YR6/8 明黄褐色壤土1%粒状	やや硬質、粘性なし
土坑埋土 B2	10YR6/8 明黄褐色壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色壤土10%塊状	やや硬質、粘性なし
土坑埋土 B3	10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土15%塊状・粒状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土1%粒状 10YR6/8 明黄褐色シルト質壤土7%塊状・粒状	やや硬質、粘性なし
土坑埋土 C	2.5YR4/3 にぶい赤褐色シルト質壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質壤土7%塊状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土1%塊状	やや硬質、粘性なし
土坑埋土 D1	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	-	やや硬質、粘性なし
土坑埋土 D2	10YR7/6 明黄褐色シルト質壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質壤土2%塊状 10YR7/8 黄褐色壤土2%塊状	やや硬質、粘性なし

2号土坑(SK2) 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土 A1	10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR6/8 明黄褐色シルト質壤土15%塊状・塊状 10YR7/8 黄褐色砂壤土15%粒状・塊状 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土3%粒状・塊状	やや軟質、粘性なし
土坑埋土 A2	10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土10%粒・塊・層状 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質壤土10%塊状	やや軟質、粘性なし

3号土坑(SK3) 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土 A1	10YR5/4 にぶい黄褐色壤土	10YR6/8 明黄褐色壤土2%塊状・粒状	やや硬質、粘性なし
土坑埋土 A2	10YR5/4 にぶい黄褐色壤土	10YR6/8 明黄褐色壤土15%塊状	やや硬質、粘性なし
土坑埋土 A3	10YR5/4 にぶい黄褐色壤土	10YR6/8 明黄褐色壤土12%塊状	やや硬質、粘性なし

4号土坑(SK4) 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土 A1	10YR4/4 褐色砂質壤土	10YR6/5 明黄褐色砂質壤土7%塊状 10YR3/2 黒褐色シルト質壤土1%塊状・粒状 10YR5/6 黄褐色砂質壤土7%塊状	やや硬質、粘性なし 炭化物少量
土坑埋土 A2	10YR6/6 明黄褐色壤土	10YR4/4 褐色砂質壤土2%塊状 10YR6/6 明黄褐色砂質壤土15%塊状・粒状	やや硬質、粘性なし
土坑埋土 A3	10YR5/4 にぶい黄褐色砂質壤土	10YR7/7 黄褐色砂質壤土7%塊状・粒状	やや硬質、粘性なし
土坑埋土 B	10YR4/3 にぶい黄褐色砂質壤土	10YR6/5 明黄褐色砂質壤土1%粒状 10YR6/8 明黄褐色砂質壤土3-5%粒状	やや軟質、粘性なし
土坑埋土 C	10YR4/3 にぶい黄褐色砂質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂質壤土25%塊状 10YR6/8 明黄褐色砂質壤土7%塊状・粒状	やや硬質、粘性なし

5号土坑(SK5) 土層観察表

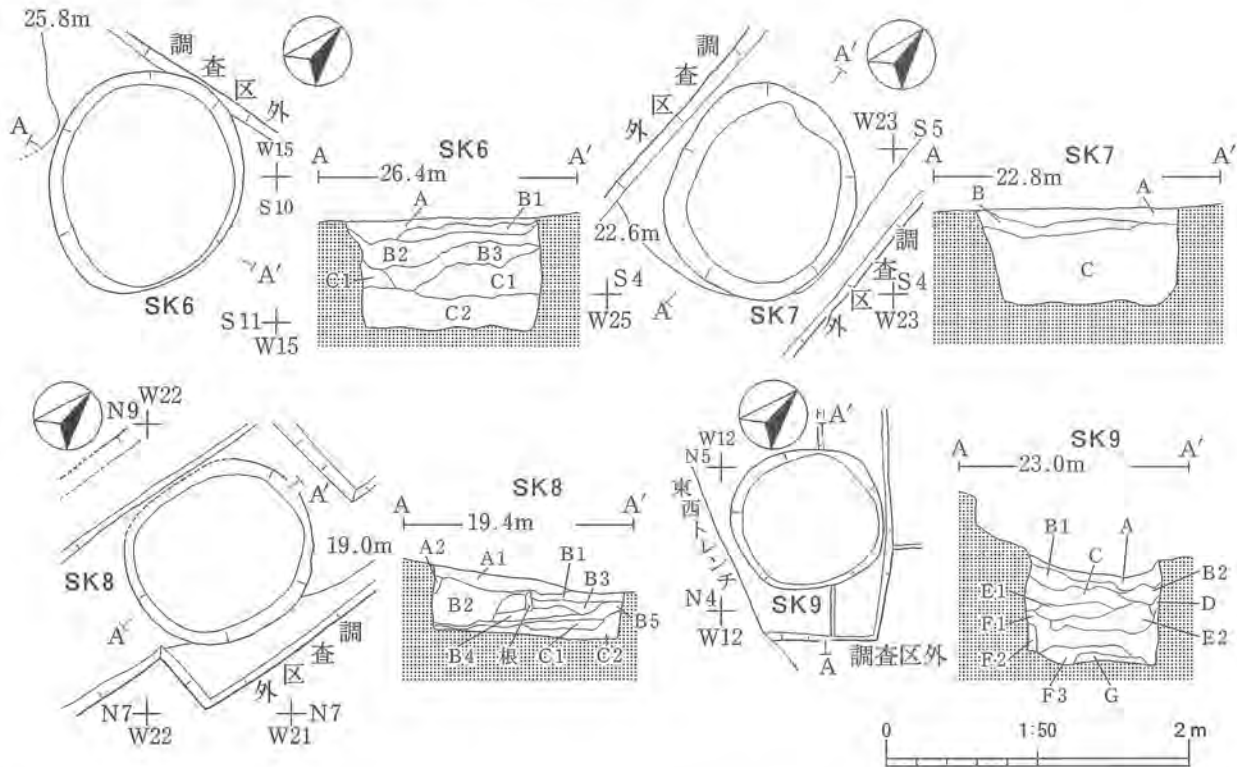
層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土 A	10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土5%塊状 10YR6/6 明黄褐色壤土20%塊状・粒状 10YR5/8 黄褐色壤土3%塊状・粒状	軟質、粘性なし 炭化物少量
土坑埋土 B1	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土15%塊状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土20%塊状・粒状	やや軟質、粘性なし 炭化物少量
土坑埋土 B2	10YR4/4 褐色壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土10%塊状 10YR5/8 黄褐色壤土10%塊状・粒状 10YR6/8 明黄褐色壤土7%塊状・粒状	やや軟質、粘性なし

第10図 1～5号土坑 平面図・断面図

4号土坑(SK4) (図版10、写真図版9)

4号土坑は東西トレンチの最南部で検出され、遺構確認面は地山面である。平面形は楕円形を呈し、長径1.51m、短径1.24m、深さ0.74mを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

堆積土はA~C層に大別される。A1層は褐色砂質埴壤土を基本土とし、炭化物粒が少量含まれている。層厚は最大37cmと他の層に比べ最も厚い。遺物は出土していない。



6号土坑(SK6) 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土 A	10YR6/8 黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%塊状・大塊	軟質、粘性なし 炭化物少量
土坑埋土 B1	10YR4/6 褐色砂壤土	10YR6/8 黄褐色砂質埴壤土10%粒状・小塊	軟質、粘性なし 炭化物少量
土坑埋土 B2	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質埴壤土20%塊状 10YR5/8 黄褐色砂質埴壤土5%塊状	軟質、粘性なし 炭化物中量
土坑埋土 B3	10YR4.5/4 砂壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質埴壤土5%塊状 10YR5/8 黄褐色砂質埴壤土7%塊状・粒状	軟質、粘性なし 炭化物微量
土坑埋土 C1	10YR4/6 褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質埴壤土10%塊状 10YR6/8 黄褐色砂質埴壤土3%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 C2	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質埴壤土3%塊状 10YR6/8 黄褐色砂質埴壤土1%塊状	やや硬質、粘性なし

7号土坑(SK7) 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土 A	10YR6/8 黄褐色砂質埴壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂質埴壤土10%塊状 7.5YR6/8 褐色砂質埴壤土	やや硬質、粘性ややあり
土坑埋土 B	10YR5/8 黄褐色埴壤土	10YR6/8 明黄褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性なし 炭化物少量
土坑埋土 C	10YR5/8 黄褐色埴壤土	10YR5/6 黄褐色埴壤土20%塊状 10YR6/8 明黄褐色埴壤土15%塊状 10YR7/8 明黄褐色砂質埴壤土1%塊状 10YR8/3 淡黄褐色砂質埴壤土1%塊状	やや硬質、粘性なし

8号土坑(SK8) 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土 A1	10YR3/4 暗褐色シルト質埴壤土	10YR4/4 褐色シルト質埴壤土15%塊状 10YR3/3 暗褐色シルト質埴壤土10%塊状 10YR2/3 黒褐色シルト質埴壤土7%塊状	軟質、粘性なし 炭化物
土坑埋土 A2	10YR3/4 暗褐色シルト質埴壤土	10YR4/4 褐色シルト質埴壤土5%塊状 10YR3/3 暗褐色シルト質埴壤土3%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 B1	10YR4/4 褐色シルト質埴壤土	10YR4/6 褐色シルト質埴壤土20%塊状 10YR3/4 暗褐色シルト質埴壤土10%塊状 10YR3/3 暗褐色シルト質埴壤土5%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 B2	10YR4/4 褐色シルト質埴壤土	10YR4/6 褐色シルト質埴壤土15%塊状 10YR3/3 暗褐色シルト質埴壤土5%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 B3	10YR3/4 暗褐色シルト質埴壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質埴壤土30%塊状 10YR2/3 黒褐色シルト質埴壤土10%塊状 10YR4/4 褐色シルト質埴壤土7%塊状 10YR4/6 褐色シルト質埴壤土3%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 B4	10YR3/4 暗褐色シルト質埴壤土	10YR4/4 褐色シルト質埴壤土20%塊状 10YR4/6 褐色シルト質埴壤土10%塊状 10YR3/3 暗褐色シルト質埴壤土5%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 B5	10YR3/3 暗褐色シルト質埴壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質埴壤土10%塊状 10YR2/3 黒褐色シルト質埴壤土5%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 C1	10YR5/6 黄褐色シルト質埴壤土	10YR4/6 褐色シルト質埴壤土10%塊状 10YR6/8 明黄褐色シルト質埴壤土10%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 C2	10YR4/6 褐色シルト質埴壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質埴壤土15%塊状 10YR6/8 明黄褐色シルト質埴壤土7%塊状	軟質、粘性なし

9号土坑(SK9) 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土 A	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土2%塊状・粒状 10YR5/6 黄褐色砂壤土10%塊状・粒状	やや硬質、粘性なし
土坑埋土 B1	10YR5/8 黄褐色砂壤土	10YR6/8 明黄褐色砂壤土1%塊状	やや硬質、粘性なし
土坑埋土 B2	10YR5/8 黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色埴壤土15%塊状	やや硬質、粘性ややあり
土坑埋土 C	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土20%塊状・粒状 10YR3/4 暗褐色砂壤土7%塊状・粒状	やや軟質、粘性なし
土坑埋土 D	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土1%塊状・粒状	やや軟質、粘性なし
土坑埋土 E1	10YR5/8 黄褐色砂壤土	10YR6/8 明黄褐色砂壤土20%塊状	やや硬質、粘性なし
土坑埋土 E2	10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR6/8 明黄褐色砂壤土30%塊状	やや硬質、粘性なし
土坑埋土 F1	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土25%塊状 10YR5/6 黄褐色砂壤土30%塊状・粒状 10YR6/8 明黄褐色砂壤土1%塊状 10YR3/3 暗褐色砂壤土1%塊状	やや硬質、粘性なし
土坑埋土 F2	10YR4/4 褐色砂壤土	-	やや軟質、粘性なし
土坑埋土 F3	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土3%塊状	やや軟質、粘性ややあり
土坑埋土 G	10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土7%塊状・粒状	やや硬質、粘性なし

第11図 6~9号土坑 平面図・断面図

**5号土坑（SK5）**（図版10、写真図版10）

5号土坑は東西トレンチのほぼ中央、尾根上から2段目の平場で検出され、遺構確認面は地山面である。平面形は隅丸方形を呈し、長軸1.17m、短軸0.97m、深さ0.60mを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

堆積土は3層に分けられ、全ての層の層理面が底面に対して平行に堆積しているため、人為的な堆積の可能性が考えられる。遺物は出土していない。

**6号土坑（SK6）**（図版11、写真図版11）

6号土坑はトレンチ1（T1）の北端で検出され、遺構確認面は地山面である。平面形は南北にやや細長い楕円形を呈し、長径1.57m、短径1.35m、深さ0.77mを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

堆積土はA～C層に大別され、そのうちB2層は褐色砂壤土を基本土とし、炭化物粒が全層中最も多く混入している。またC2層は褐色砂壤土を基本土とし最も固くしまりがあり、底面直上に堆積し、層厚は約20cmと厚い。遺物は出土していない。

**7号土坑（SK7）**（図版11、写真図版12）

7号土坑はトレンチ3（T3）の南端で検出され、遺構確認面は地山面である。平面形は楕円形を呈し、長径1.42m、短径1.29m、深さ0.66mを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

堆積土は3層に分けられ、A層・B層は土坑内の上層約20cmに堆積している。他の大部分の覆土はC層となっており、一時期に埋まったものと考えられ人為的な堆積が推測される。遺物は出土していない。

**8号土坑（SK8）**（図版11、写真図版13）

8号土坑はトレンチ5（T5）で検出され、遺構確認面は地山面である。平面形は楕円形を呈し、長径1.34m、短径1.2m、深さ0.44mを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

堆積土はA～C層に大別され、さらに9層に細別される。B2層は土坑南側において層厚約30cmと厚く堆積している。遺物は出土していない。

**9号土坑（SK9）**（図版11、写真図版14）

9号土坑はトレンチ6（T6）の西端で検出され、遺構確認面は地山面である。平面形は円形を呈し、直径1.04m、深さ0.64mを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

堆積土はA～G層に大別され、さらに11層に細別される。堆積状況から自然堆積である。遺物は出土していない。

**10号土坑（SK10）**（図版12、写真図版15）

10号土坑はトレンチ7（T7）の西端で検出され、遺構確認面は地山面である。平面形は楕円形を呈し、長径1.30m、短径1.19m、深さ0.72mを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

堆積土はA～I層に大別され、さらに11層に細別される。遺物は出土していない。

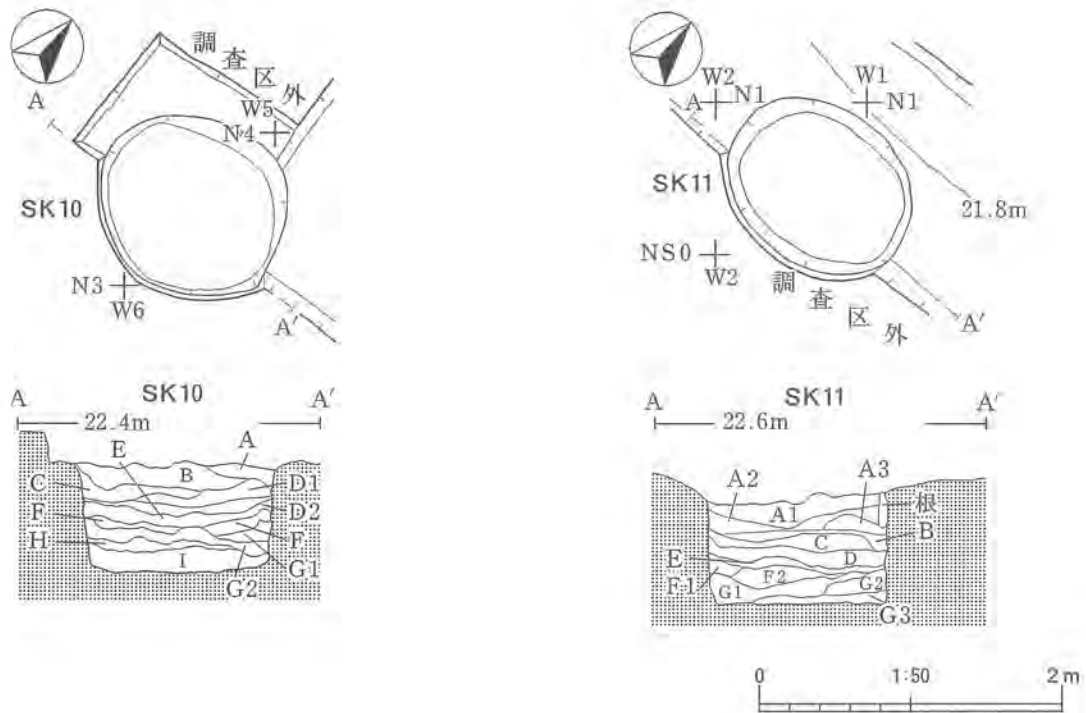
**11号土坑（SK11）**（図版12、写真図版16）

11号土坑はトレンチ7（T7）の東壁から約2メートル西側で検出され、遺構確認面は地山面である。平面形は楕円形を呈し、長径1.32m、短径1.06m、深さ1.22mを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

堆積土はA～G層に大別され、さらに12層に細別される。C層には炭化物が少量含まれる。遺物は出土していない。

遺構外出土遺物 (図版13、写真図版17)

遺構外からは縄文土器が6点出土している。第13図1はI b層から出土し、LR単節縄文が施される。胎土には繊維が含まれる。第13図2はⅢ b層から出土し、LR単節縄文が施される。第13図1同様胎土に繊維が含まれる。第13図3はI b層から出土し、表面磨滅しているがLR単節縄文が施される。第13図4・5はI b層から出土し、5にはLR単節縄文が施される。第13図6は地山漸移層であるV層から出土し、口縁部の破片である。器面にはLR単節縄文が施され、口唇部には棒状のもので付けたと思われる刻みがみられる。



10号土坑(SK10) 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土 A	10YR2/2 黒褐色砂礫土	10YR3/3 暗褐色砂礫土10%塊状 10YR4/6 褐色砂礫土10%塊状	軟質、粘性ややあり
土坑埋土 B	10YR4/6 褐色砂礫土	10YR3/3 暗褐色砂礫土10%塊状 10YR3/3 暗褐色砂礫土5%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 C	10YR2/2 黒褐色砂礫土	10YR4/6 褐色砂礫土10%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 D1	10YR2/3 黒褐色砂礫土	10YR4/6 褐色砂礫土10%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 D2	10YR4/6 褐色砂礫土	10YR2/3 黒褐色砂礫土10%塊状・層状	軟質、粘性なし
土坑埋土 E	10YR2/3 黒褐色砂礫土	10YR4/3 にふい黄褐色砂礫土10%塊状	軟質、粘性ややあり
土坑埋土 F	10YR4/6 褐色砂礫土	10YR3/3 暗褐色砂礫土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
土坑埋土 G1	10YR2/3 黒褐色砂礫土	10YR2/2 黒褐色砂礫土10%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 G2	10YR3/3 暗褐色砂礫土	10YR4/3 にふい黄褐色砂礫土10%塊状 10YR4/6 褐色砂礫土10%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 H	10YR4/6 褐色砂礫土	10YR2/4 暗褐色砂礫土10%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 I	10YR2/3 黒褐色砂礫土	10YR3/3 暗褐色砂礫土10%塊状 10YR4/3 にふい黄褐色砂礫土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり

11号土坑(SK11) 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土 A1	10YR3/4 暗褐色砂礫土	10YR4/6 褐色砂礫土15%塊状 10YR4/3 にふい黄褐色砂礫土5%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 A2	10YR5/8 黄褐色砂礫土	10YR4/3 にふい黄褐色砂礫土15%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 A3	10YR4/4 褐色砂礫土	10YR3/3 暗褐色砂礫土10%塊状 10YR5/8 黄褐色砂礫土3%塊状	やや軟質、粘性ややあり
土坑埋土 B	10YR2/3 黒褐色砂礫土	10YR4/6 褐色砂礫土10%塊状 10YR5/8 黄褐色砂礫土5%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 C	10YR4/6 褐色砂礫土	10YR4/3 にふい黄褐色砂礫土10%塊状	やや軟質、粘性なし 炭化物少量
土坑埋土 D	10YR2/3 黒褐色砂礫土	10YR4/6 褐色砂礫土20%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 E	10YR2/3 黒褐色砂礫土	10YR4/6 褐色砂礫土5%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 F1	10YR3/4 暗褐色砂礫土	10YR4/6 褐色砂礫土20%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 F2	10YR4/6 褐色砂礫土	10YR3/4 暗褐色砂礫土10%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 G1	10YR2/3 黒褐色砂礫土	10YR4/6 褐色砂礫土15%塊状 10YR3/4 暗褐色砂礫土10%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 G2	10YR3/3 暗褐色砂礫土	10YR4/2 灰黄褐色砂礫土10%塊状	軟質、粘性なし
土坑埋土 G3	10YR2/3 黒褐色砂礫土	10YR3/3 暗褐色砂礫土10%塊状	軟質、粘性ややあり

第12図 10・11号土坑 平面図・断面図



第13図 遺構外出土遺物



## 第2節 八木沢古館（第2・3次調査）

### （1）調査の概要

八木沢古館の第2・3次調査区は第1次調査区から西へ約300mの尾根上に位置している。第2次調査は平成9年度、第3次調査は平成10年度に実施され、各調査区は隣接している。そのため調査区にまたがって検出されている遺構があり、ここではまとめて報告したい。

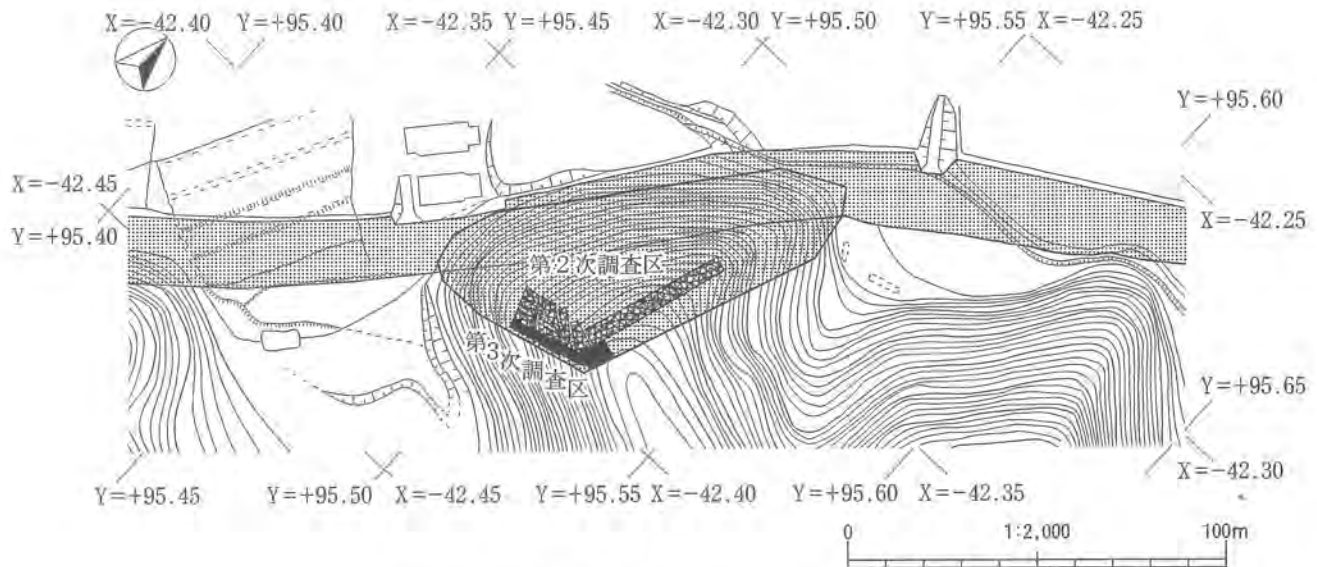
第2・3次調査区の現況は山林で、第1次調査同様、尾根の先端部分に道路工事範囲がかかるために調査が実施されている。第2次調査は、平成9年4月9日付け建設第6号で宮古市建設課から埋蔵文化財発掘調査実施の依頼があり、平成9年5月1日から調査を開始している。宮古市建設課から平成9年4月9日付け建設第4号で文化財保護法第57条の3第1項の規定による発掘調査の通知があり、また市教委は平成9年5月8日付け教第310号で文化財保護法第98条の2第1項の規定により岩手県教育委員会に対して埋蔵文化財発掘調査の報告を行なっている。

第3次調査は、平成10年6月11日付け建第75号で宮古市建設課から埋蔵文化財発掘調査実施についての依頼があり、平成10年7月17日から調査を開始している。宮古市建設課から平成10年6月11日付け建第73号で文化財保護法第57条の3第1項の規定による発掘調査の通知があり、市教委は平成10年7月28日付け教第745号で文化財保護法第98条の2第1項の規定により岩手県教育委員会に対して埋蔵文化財発掘調査の報告を行なっている。

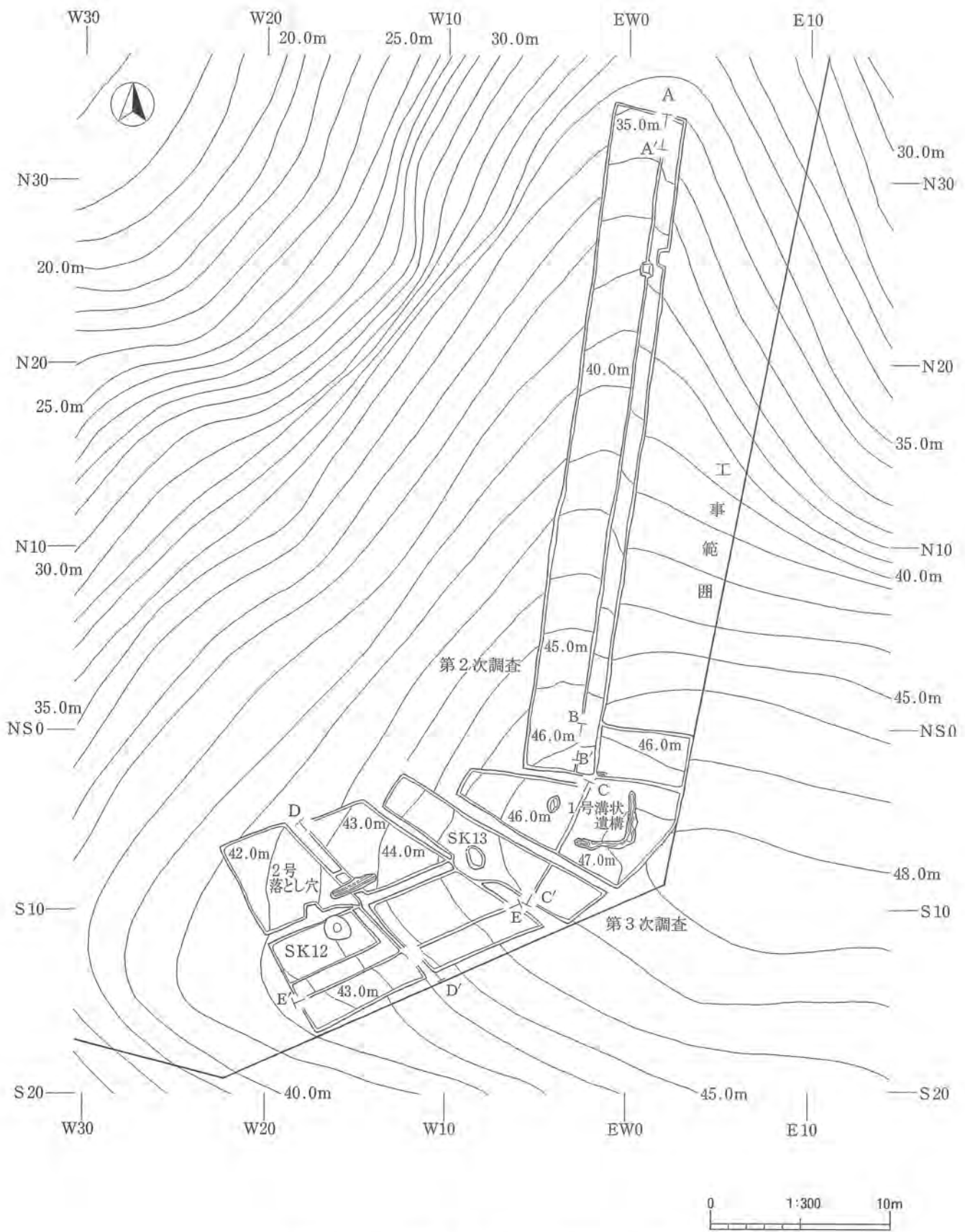
### （2）調査経過

第2次調査は平成9年5月1日から開始し、まず北側に延びる尾根にトレンチを設定した。人力で表土剥ぎを行ない、5月8日には西側に延びている尾根にもトレンチを設定し掘り下げを行なった。5月30日には12号土坑が、さらに6月11日には13号土坑が検出され、それぞれ精査を行なった。6月30日からトレンチの平面図及び断面図を作成し、その過程で7月3日には2号落とし穴が検出された。急遽2号落とし穴の精査・図面作成を行い、7月11日には器材を撤収し、調査が終了した。延べ調査日数は41日である。平成9年10月1日から遺物洗浄や図面整理などの整理作業を行なった。

第3次調査は平成10年7月17日に開始し、まず第2次調査区の東側に隣接してトレンチを設定した。



第14図 八木沢古館（第2・3次調査）調査地点



第15図 八木沢古館 (第2・3次調査) 全体図

人力で表土剥ぎを行ない、8月3日にはトレンチ北壁から約3mの地点から溝状遺構が検出された。この溝状遺構の精査と、トレンチ平面図・基本土層図などの作成を行ない、平成10年9月29日に器材を撤収し、調査を終了した。延べ調査日数は37日である。平成10年12月1日から遺物洗浄、拓本、図面整理などの整理作業を行なった。

(3) 基本土層

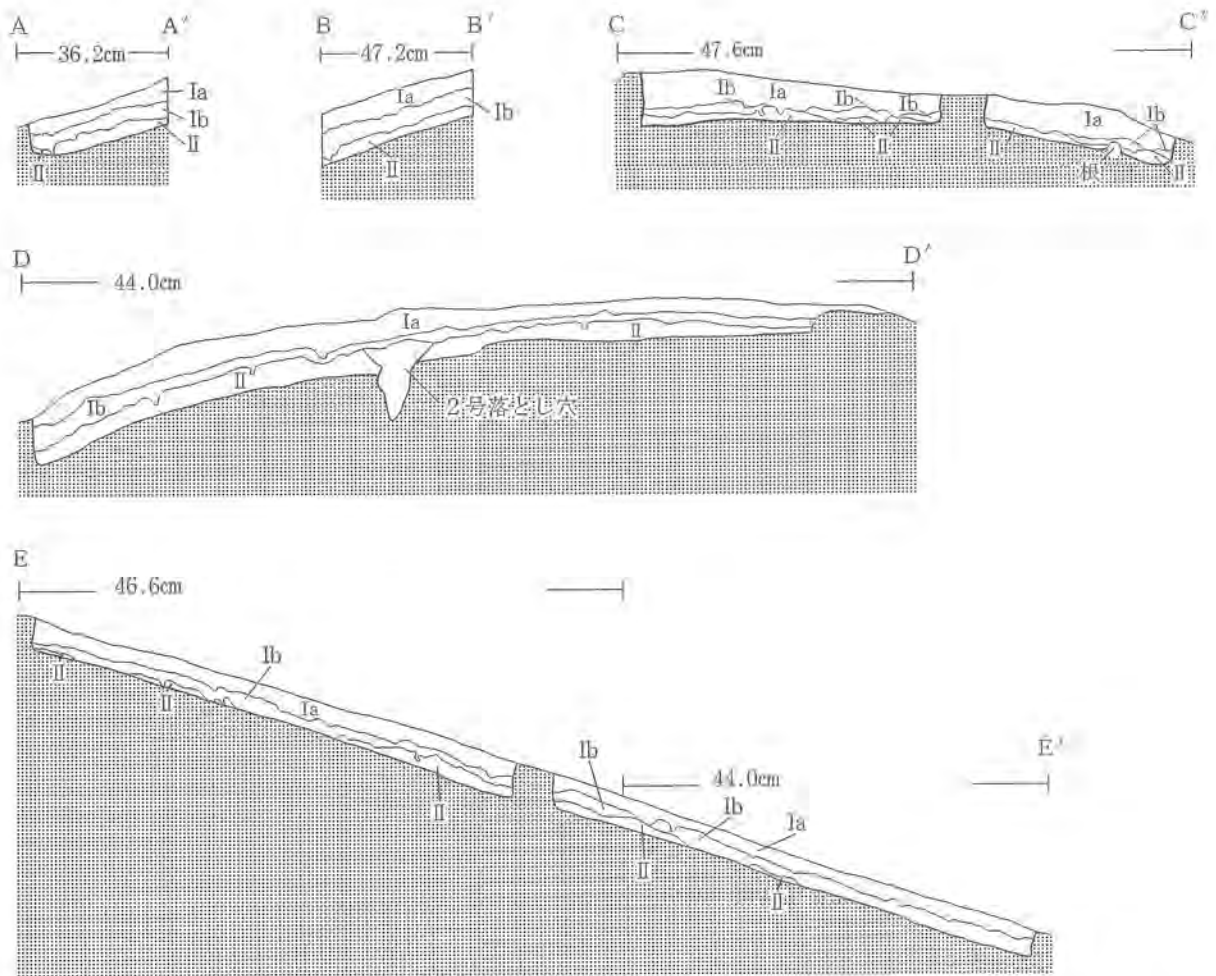
基本土層はⅠ層・Ⅱ層に大別され、Ⅰ層はさらにⅠa層とⅠb層に細別される。

Ⅰa層：褐色シルト質壤土を基本土とし、やや軟質で、粘性はややある。表土である。

Ⅰb層：黄褐色シルト質壤土を基本土とし、やや軟質で、粘性はややある。表土である。

Ⅱ層：明黄褐色砂壤土を基本土とし、やや硬質で、粘性はややある。地山漸移層である。

(4) 検出された遺構と遺物



八木沢古館(第2・3次調査) 基本土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土 Ⅰa	10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR2/2 黄褐色シルト質壤土30%塊状 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土10%塊状 10YR3/4 黄褐色シルト質壤土1%塊状	やや軟質、粘性ややあり 炭化物
表土 Ⅰb	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR6/8 明黄褐色シルト質壤土20%層状・塊状 10YR3/3 黄褐色シルト質壤土20%層状・塊状 10YR2/2 黄褐色シルト質壤土5%層状・塊状 7.5YR5/8 明黄褐色シルト質壤土2%層状・塊状	やや軟質、粘性ややあり
地山 漸移層 Ⅱ	10YR7/8 明黄褐色砂壤土	10YR7/4 におい黄褐色砂土10%塊状 7.5YR5/8 明黄褐色シルト質壤土7%層状・塊状 10YR4/6 褐色シルト質壤土7%塊状 10YR6/8 明黄褐色砂壤土7%塊状 10YR4/3 におい黄褐色砂壤土3%塊状	やや硬質、粘性ややあり

第16図 八木沢古館（第2・3次調査）基本土層図

遺構は落とし穴遺構1基、土坑2基、溝状遺構1基が検出され、遺構外から弥生土器と石鏃が出土している。

2号落とし穴 (図版17、写真図版22・23)

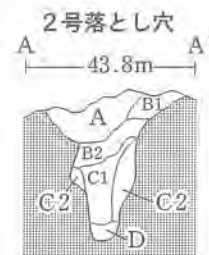
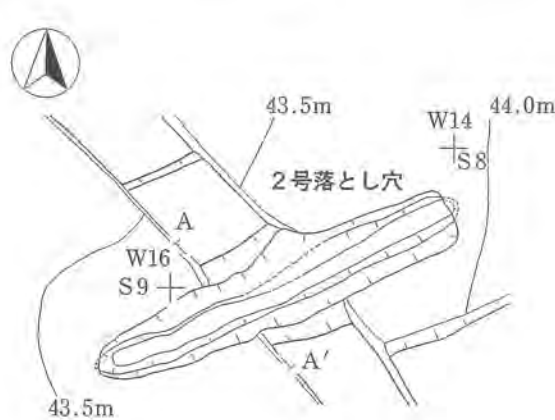
2号落とし穴は尾根の先端部分から約3m下がった西面する斜面で検出され、遺構確認面はⅡ層上面である。平面形は細長い楕円形を呈し、長径2.84m、短径0.64m、深さ1.0mを測る。底面はU字形を呈し、壁の立ち上がり角度は約70°である。

堆積土はA層～D層に大別され、B層とC層はそれぞれ2層に細別される。遺物は出土していない。

12号土坑 (SK12) (図版17、写真図版24)

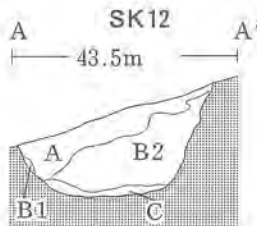
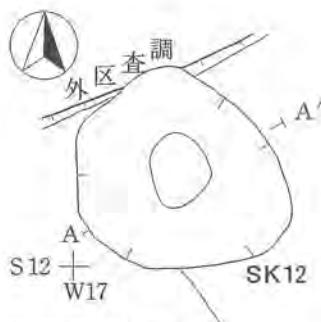
12号土坑は2号落とし穴の南約1mのところ検出され、遺構確認面は地山面である。平面形は不整な円形を呈し、長径1.62m、短径1.36m、深さ0.62mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がり角度は東壁約60°、西壁約45°と緩やかに立ち上がる。

堆積土はA～C層に大別され、さらにB層はB1・B2層に細別される。A層は黒色シルト質壤土を基本土とし、炭化物が多量に含まれ、総重量は498.4gである。遺物は出土していない。



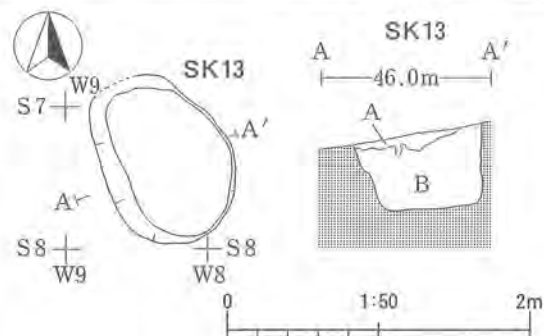
2号落とし穴 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
埋土 A	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR6/6 明黄褐色シルト質壤土7%塊状	やや軟質、粘性ややあり炭化物
埋土 B1	10YR6/6 明黄褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土10%塊状 10YR6/8 明黄褐色シルト質壤土3%塊状 10YR7/4 にぶい黄褐色砂壤土2%塊状	やや硬質、粘性ややあり炭化物
埋土 B2	10YR6/4 にぶい黄褐色シルト質壤土	10YR5/6 明黄褐色シルト質壤土5%塊状 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質壤土1%塊状 10YR7/6 明黄褐色シルト質壤土2%塊状	やや硬質、粘性ややあり炭化物
埋土 C1	10YR6/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR7/6 明黄褐色シルト質壤土7%塊状 10YR7/4 にぶい黄褐色シルト質壤土7%塊状 10YR8/3 洗黄褐色砂壤土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり炭化物
埋土 C2	10YR8/4 淡黄褐色砂壤土	10YR7/4 にぶい黄褐色砂壤7%塊状 10YR8/2 灰白色壤質砂土3%塊状 10YR7/6 明黄褐色壤質砂土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり炭化物
埋土 D	10YR5/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR6/6 明黄褐色砂壤土2%塊状 10YR7/4 にぶい黄褐色砂壤土3%塊状 10YR6/4 にぶい黄褐色壤質砂土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり炭化物



12号土坑(SK12) 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土 A	10YR2/1 黒色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土20%塊状 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土5%塊状 7.5YR5/6 黄褐色壤土1%塊状	やや軟質、粘性ややあり炭化物多量
土坑埋土 B1	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR6/6 明黄褐色壤土25%塊状	やや軟質、粘性ややあり炭化物少量
土坑埋土 B2	10YR5/8 黄褐色壤土	10YR7/4 にぶい黄褐色壤質砂土3%塊状	やや軟質、粘性なし炭化物少量
土坑埋土 C	10YR2/1 黒色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土5%塊状	やや軟質、粘性ややあり炭化物少量



13号土坑(SK13) 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土 A	10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR6/6 明黄褐色砂壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり炭化物少量
土坑埋土 B	10YR6/6 明黄褐色シルト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質壤土1%塊状	やや硬質、粘性なし炭化物

第17図 2号落とし穴・12・13号土坑 平面図・断面図

**13号土坑（SK13）**（図版17、写真図版25）

13号土坑は2号落とし穴の東約5mのところで検出され、遺構確認面は地山面である。平面形は楕円形を呈し、長径1.23m、短径0.91m、深さ0.54mを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

堆積土はA・B層に分けられ、A層は埋土の上面にのみ堆積し、大部分の埋土はB層である。遺物は出土していない。

**1号溝状遺構**（図版18、写真図版26・27）

1号溝状遺構は尾根の頂上部分から検出され、遺構確認面は地山面である。長さ約6mのL字形を呈する溝跡と、その北側で検出された長さ0.6m、幅0.2mの溝跡、そして約1m西側に位置する長径0.92m、短径0.63mを測る土坑状の遺構から構成される。それぞれの遺構内の覆土が同じことから同一の遺構として扱った。深さは最も深いところで約0.15mを測り、壁は緩やかに立ち上がる。

堆積土はA・B層に大別され、さらにA1・A2層に細別される。A1層には炭化物粒が多量に含まれ、A2層においても少量含まれる。遺物が出土していないため所属時期は不明である。

**遺構外出土遺物**（図版19、写真図版28）

遺構外からは弥生土器（第19図1～19）19点、石鏃（第19図20）1点が出土している。全て第2次調査で出土している。

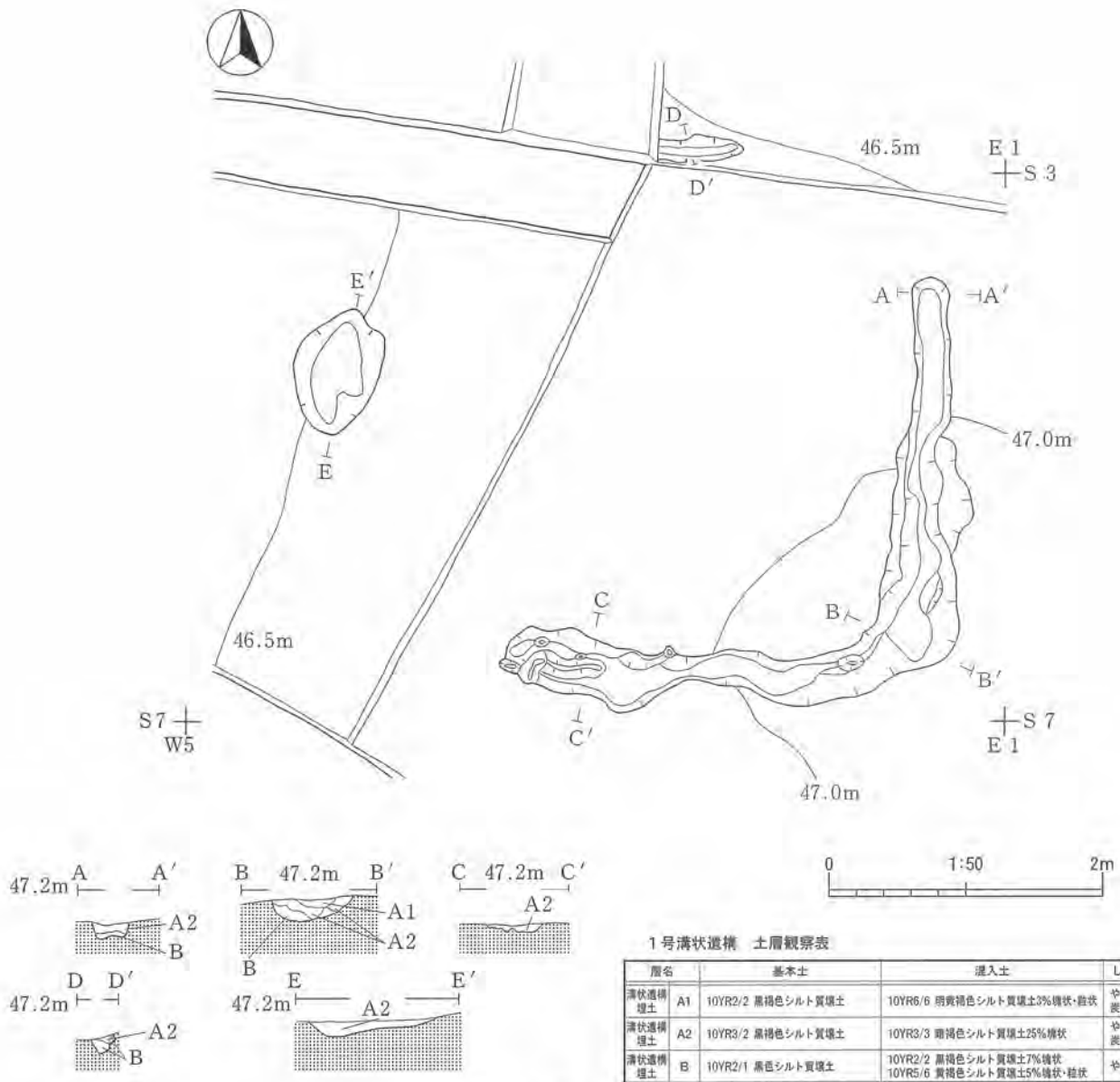
1～7・19はI b層から出土し、文様は全て撚糸文で1段のLの条が施文されている。器厚は5mm～7mmと薄く、器面にはぶい黄褐色（10Y R7/4）を呈する。19は底部の破片で、底部の立ち上がり部分では横方向に、体部においては縦方向に撚糸文が施文されている。条の大きさは約1mmである。8～13はII層から出土している。8は底部の破片で、立ち上がり部分に1段のLの条が横方向に施文されている。9～13も撚糸文で、1段のLの条が横方向または縦方向に施文されている。14～18は層位不明である。文様は撚糸文で1段のLの条が施文されている。

20は石鏃でI b層から出土している。基部の形態は凹基で、長さ2.3cm、最大幅1.1cm、最大厚0.4cmを測る。重さは0.9gである。両面に丁寧な調整剥離がみられ、一次剥離面はほとんどみられない。

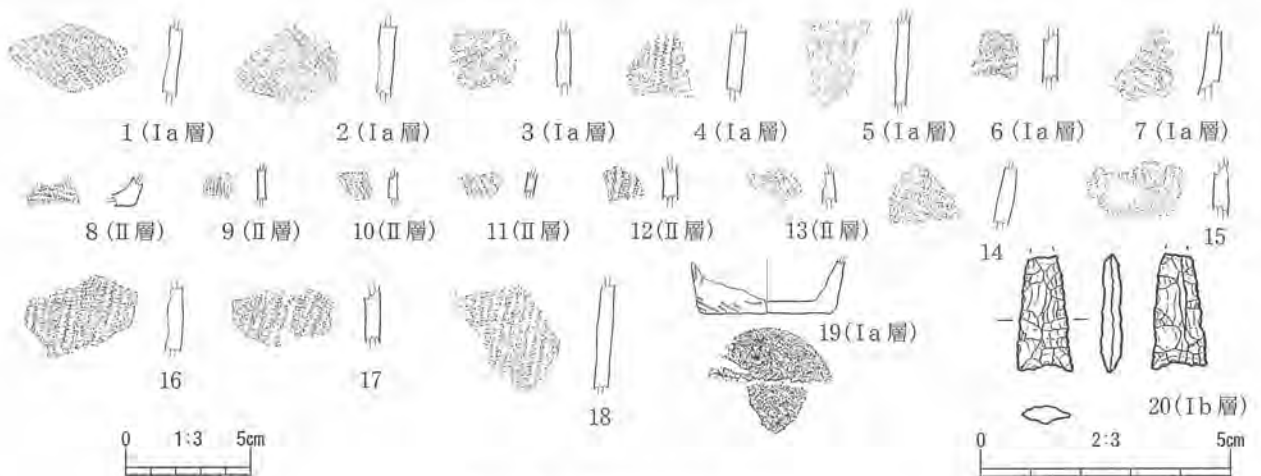
## 第3節 まとめ

八木沢古館は中世の城館遺跡で、現在尾根上に段状の平場や堀の跡を観察することができる。今回の調査でも現況において段状の平場が数段確認されていたため、館に関連する遺構・遺物が想定された。しかし調査の結果、落とし穴が2基、土坑が13基検出され、遺物も縄文土器、弥生土器、石器などが出土したのみで館に関連するものは確認されなかった。落とし穴と土坑はともに遺物が出土していないため、明確に時期を限定することはできないが、落とし穴については形態や断面形などから縄文時代の所産と考えられる。また第1次調査区で検出された1号～11号土坑は、長径1.57～1.04m（平均1.32m）、短径1.35～0.97m（平均1.17m）、深さ1.22～0.44m（平均0.81m）の範囲に収まっており、さらに壁はほぼ垂直に立ち上がる断面形をもつため、ある程度規格性をもち構築されたものと考えられる。前述のとおり遺物は出土していないため何の目的で構築されたかは不明であるが、段状の平場に立地していることから平場との関連が考えられる。

このように八木沢古館に関連する遺構・遺物は見つからなかったが、縄文土器や弥生土器が出土したことから館構築以前の人々の活動を伺い知ることができた。



第18図 1号溝状遺構 平面図・断面図



第19図 遺構外出土遺物



1. 第1次調査区 遠景（北→）



2. 第1次調査区 遠景（西→）



3. 南北トレンチ 堆積状況 (南→)



4. 東西トレンチ 堆積状況 (西→)



5. 1号落とし穴 堆積状況 (北東→)



6. 1号落とし穴 完掘状況 (南→)



7. 1・2号土坑 完掘状況 (西→)



8. 3号土坑 完掘状況 (南西→)



9. 4号土坑 完掘状況 (東→)



10. 5号土坑 完掘状況 (南→)





11. 6号土坑 完掘状況（北→）



12. 7号土坑 完掘状況（東→）



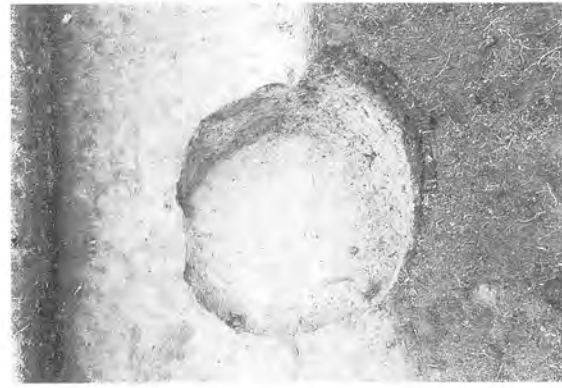
13. 8号土坑 完掘状況（北→）



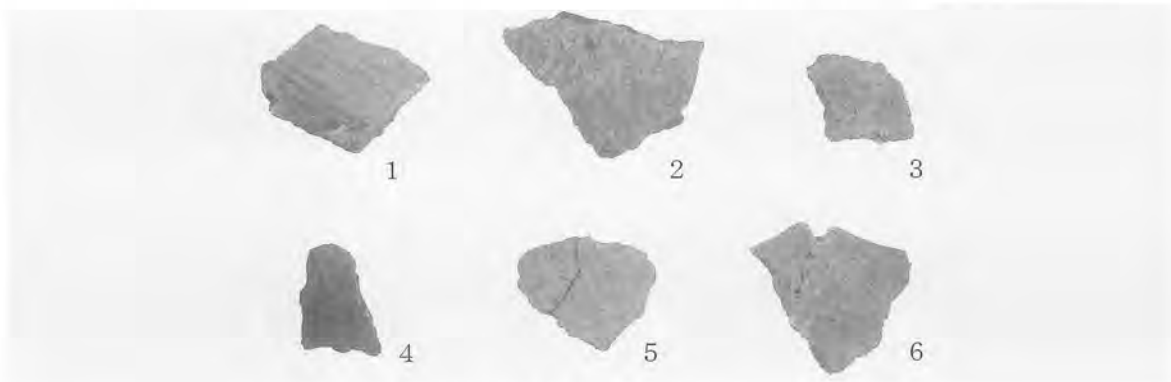
14. 9号土坑 完掘状況（南東→）



15. 10号土坑 完掘状況（西→）



16. 11号土坑 完掘状況（西→）



17. 第1次調査出土遺物



18. 第2次調査区 遠景（西→）



19. 第2次調査区 遠景（北西→）



20. 南北トレンチ 堆積状況 (南西→)



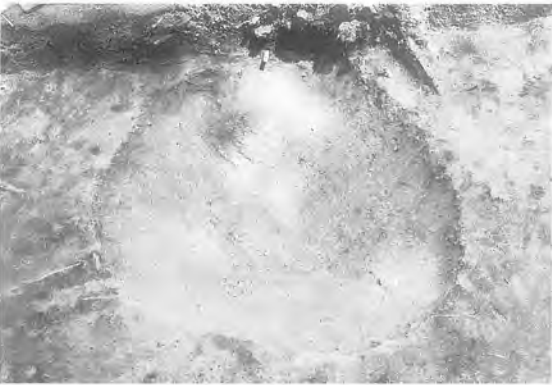
21. 第3次調査 掘り下げ状況 (北→)



22. 2号落とし穴 堆積状況 (南西→)



23. 2号落とし穴 完掘状況 (北→)



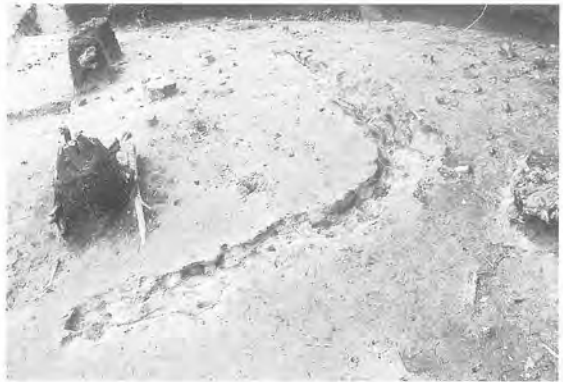
24. 12号土坑 完掘状況 (南東→)



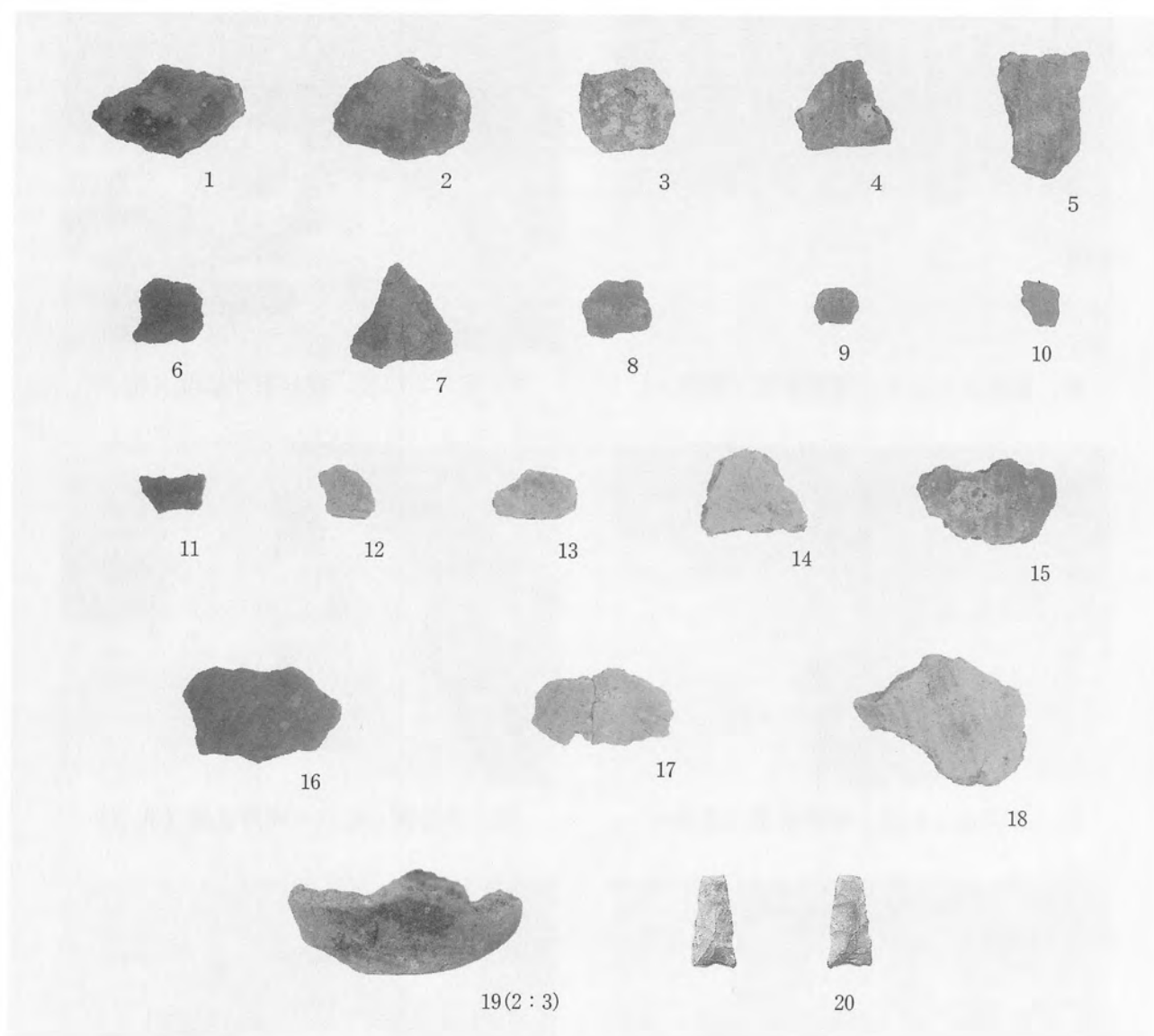
25. 13号土坑 完掘状況 (南→)



26. 1号溝状遺構 検出状況 (東→)



27. 1号溝状遺構 完掘状況 (南→)



28. 第2次調査出土遺物

やぎさわなかた  
八木沢中田遺跡（第1・2次調査）



## 第3章 八木沢中田遺跡

### 第1節 八木沢中田遺跡（第1次調査）

#### (1) 調査概要

八木沢中田遺跡は宮古市大字八木沢第6地割字中田、第7地割字ラントノ沢に位置し、八木沢丘陵の北にのびる尾根の北面する斜面に立地している。調査前の現況は山林で、地表面には3m×0.5mほどの長方形を呈する落ち込みが観察された。そのため、その落ち込みの性格を把握することを目的に調査区を設定し掘り下げを行なった。調査面積は約70㎡である。

調査区域は当初埋蔵文化財包蔵地の範囲外であったが、試掘調査の結果、土坑1基とピット1基が検出されたため、文化財保護法第57条の6第1項の規定による遺跡発見の届出（平成13年5月8日付教第31号）を行ない、平成13年5月21日に八木沢中田遺跡（LG43-0364）として岩手県遺跡台帳に登録された。

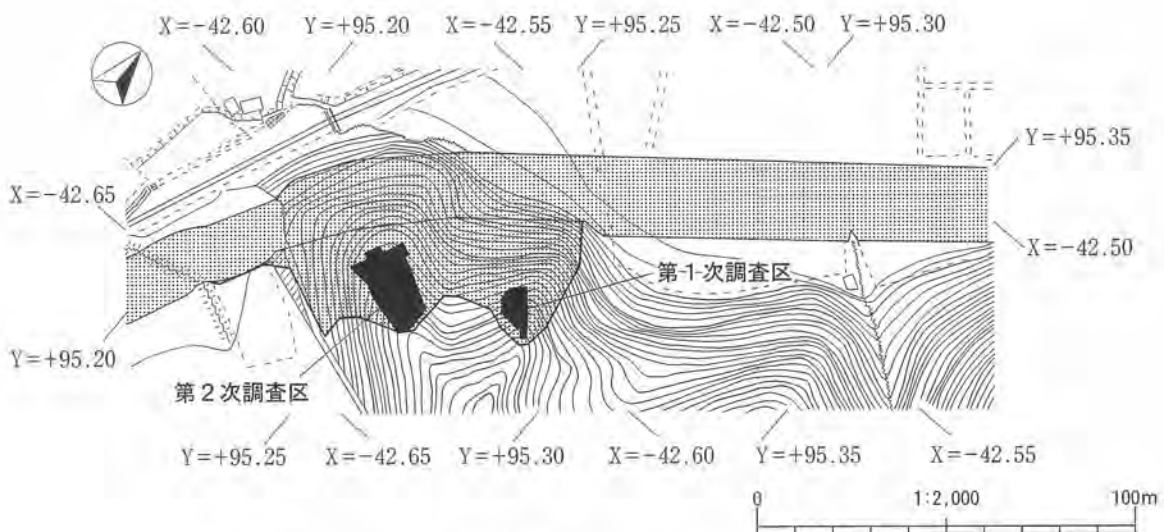


第20図 八木沢中田遺跡 位置図

#### (2) 調査経過

平成12年10月18日付建第348号で埋蔵文化財発掘調査実施の依頼が宮古市建設課からあり、同年10月26日から調査を開始した。調査地点は斜面に立地しているため表土剥ぎは人力で行ない、11月7日から土坑の精査を行なった。11月14日から平板を用いて調査区内の測量を行ない、11月22日には器材を撤収し調査が終了した。延べ調査日数は12日である。

平成12年12月26日から28日まで図面整理などの整理作業を行なった。



第21図 八木沢中田遺跡（第1・2次調査）調査地点

(3) 基本土層

調査区内の基本土層はI層～III層に分けられる。

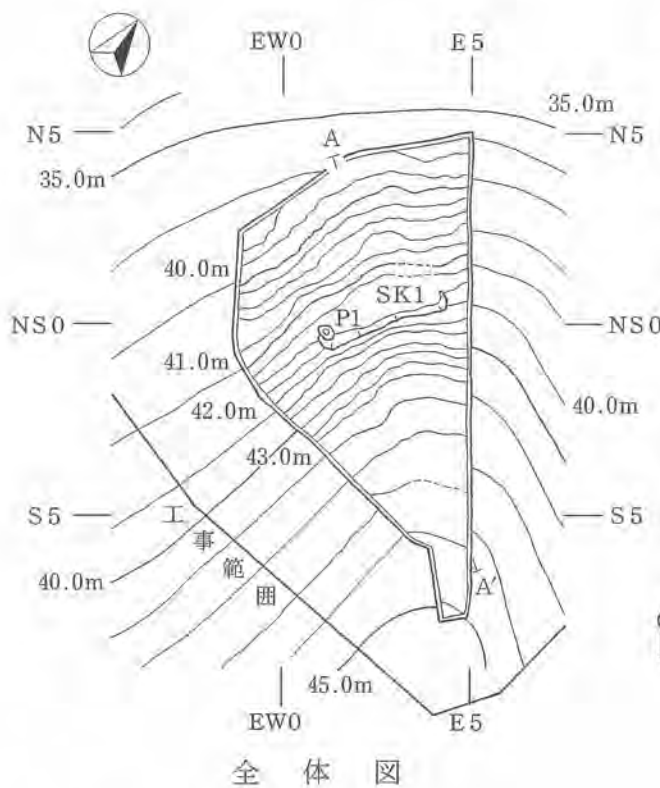
I層：黒色の壤質砂土で、軟質で粘性はない。調査区全域に堆積し、表土である。

II層：黒褐色の壤質砂土で、軟質で粘性はない。調査区全域に堆積している。

III層：褐灰色の壤質砂土で、軟質で粘性はない。地山漸移層で、1号土坑はこの層を掘り込み構築されている。

(4) 検出された遺構と遺物

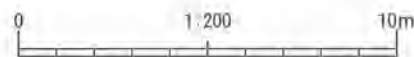
土坑が1基、ピットが1基検出された。



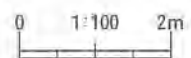
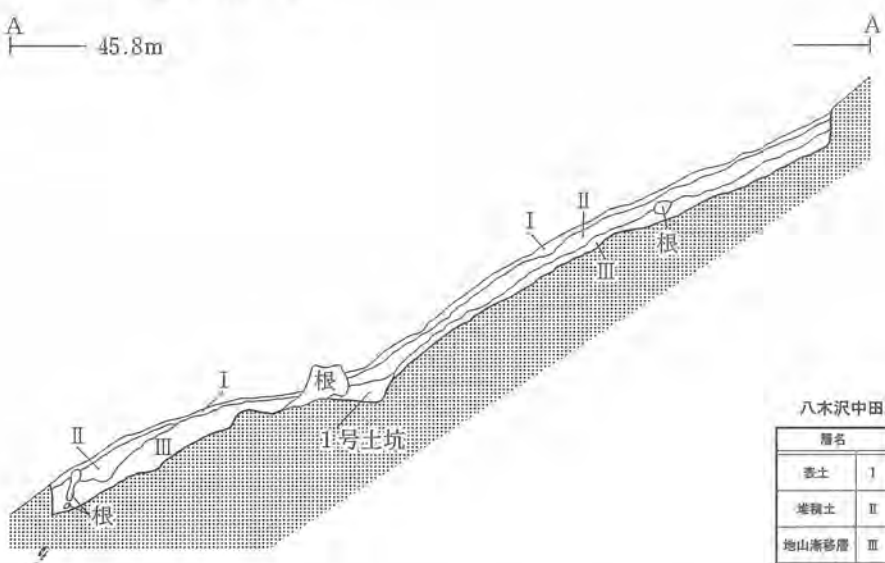
1号土坑 (SK1) (図版23, 写真図版31・32)

1号土坑は、調査前に地表面において落ち込みとして確認していたもので、調査の結果、平面形は長方形を呈し、長辺3.5m、短辺0.6m、深さは約0.5mを測る土坑であることが分かった。遺構の南側のみ壁が立ち上がり、北側は平坦な面を作り出している。

堆積土はI層で、灰黄褐色壤質砂土を基本土とする。基本土層のIII層を切って構築されている。遺物は出土していない。



全体図



八木沢中田遺跡(第1次調査) 基本土層

層名	基本土	しまり・粘性・混入物
表土	I 10YR2/1 黒色壤質砂土	軟質、粘性なし
堆積土	II 10YR3/2 黒褐色壤質砂土	軟質、粘性なし
地山漸移層	III 10YR4/1 褐灰色壤質砂土	軟質、粘性なし

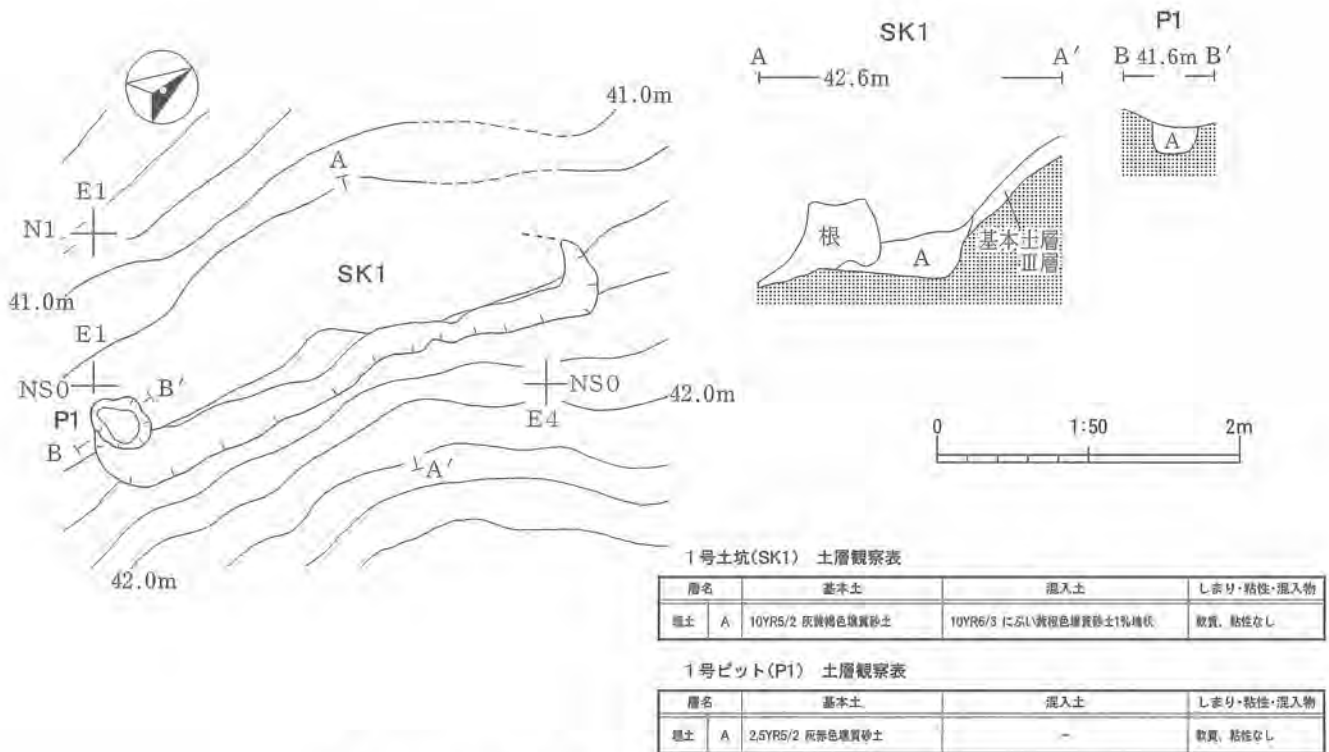
第22図 八木沢中田遺跡 (第1次調査) 全体図・基本土層図



1号ピット（P1）（図版23、写真図版33）

1号ピットは、1号土坑が作り出した平坦面の西端で検出している。平面形は不整楕円形を呈し、長径40cm、短径33cm、深さ20cmを測る。底面は中央部分が最も深い。

堆積土は1層で、灰赤色壤質砂土を基本土とし、やや赤みを帯びている。堆積状況から新旧関係は1号土坑の方が古く、本ピットが新しい。しかし、両遺構の関連については不明である。遺物は出土していない。



第23図 1号土坑・1号ピット 平面図・断面図

第2節 八木沢中田遺跡（第2次調査）

(1) 調査概要

八木沢中田遺跡の第2次調査区は、東西方向に2又に分かれた尾根の西側尾根先端部に位置している。東側の尾根は第1次調査区となっている。調査前の現況は山林で、地表面において溝状の落ち込みが確認されていた。調査面積は約250㎡である。

(2) 調査経過

平成13年4月17日付建第19号で埋蔵文化財発掘調査実施の依頼が宮古市建設課からあり、同年4月25日から調査を開始した。人力で表土を剥ぎ、遺構確認を行なった。6月5日から調査区内の平板測量を行ない、6月18日には調査区の完掘状況写真を撮影した。6月21日に器材を撤収し、調査を終了した。延べ調査日数は24.5日である。

平成14年2月1日から27日まで図面整理などの整理作業を行なった。

(3) 基本土層

調査区内の基本土層はⅠ～Ⅲ層に大別される。

Ⅰ層：黒褐色軽埴土・灰黄褐色砂壤土を基本土とし、表土である。Ⅰa～Ⅰc層に細別され、Ⅰa層は調査区全域に堆積し、Ⅰb・Ⅰc層は1号溝跡の検出面上部に堆積している。

Ⅱ層：Ⅱa・Ⅱb層に細別され、Ⅱa層は灰黄褐色軽埴土を基本土とし、調査区南端にのみ堆積している。Ⅱb層は灰黄褐色壤質砂土を基本土とし、調査区全域に堆積している。

Ⅲ層：にぶい黄褐色壤質砂土を基本土とする。地山漸移層である。

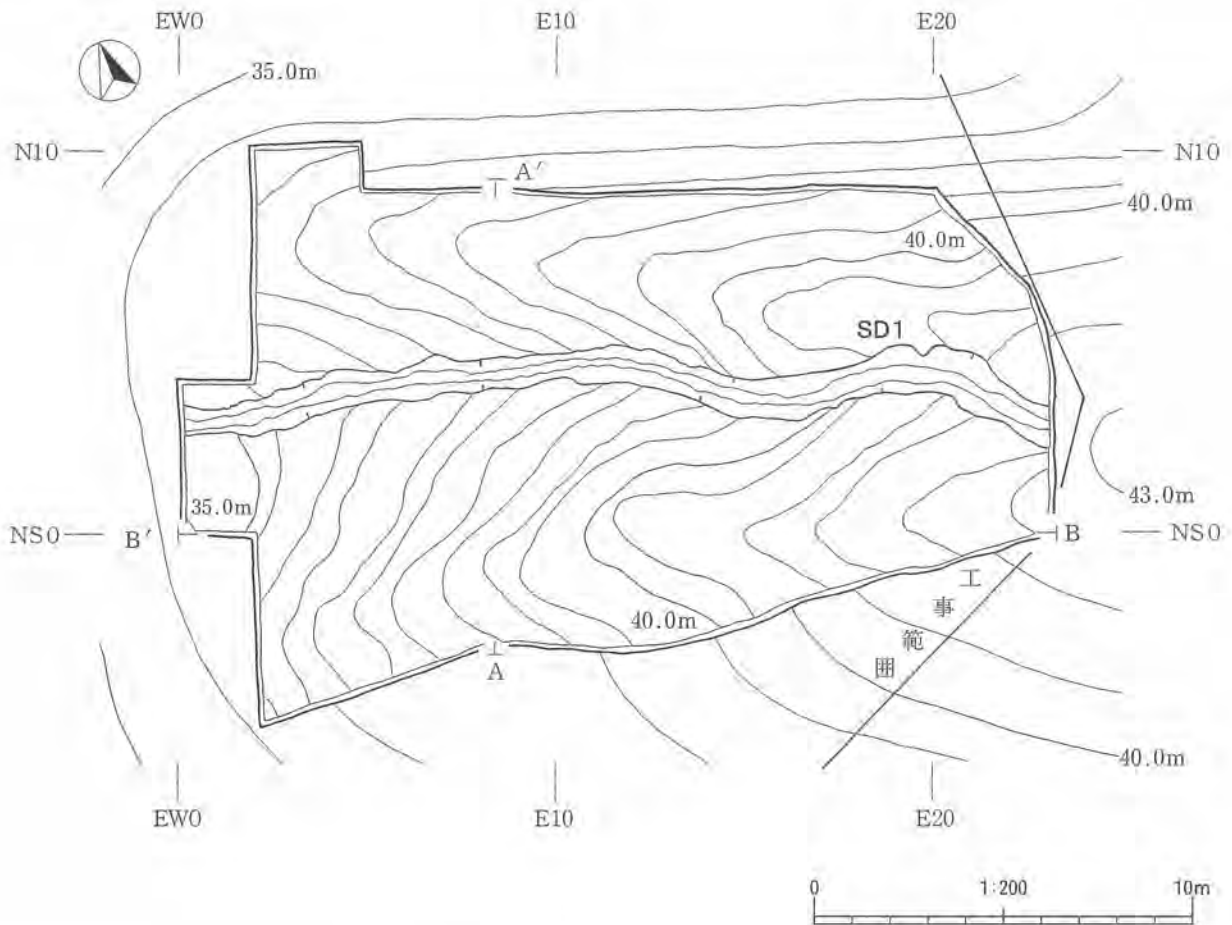
(4) 検出された遺構と遺物

遺構は溝跡が1条検出された。また、遺構外から寛永通寶が2枚出土している。

1号溝跡 (SD1) (図版24・25、写真図版36・37)

1号溝跡は調査区の中央部を東西に横切るように検出されている。遺構確認面は基本土層Ⅱb層上面である。平面形は北西-南東方向に直線を呈し、長さは約23m、幅は最大で約1m、深さは溝跡の両脇の上場から約0.2mを測る。東側はやや南北に蛇行している。

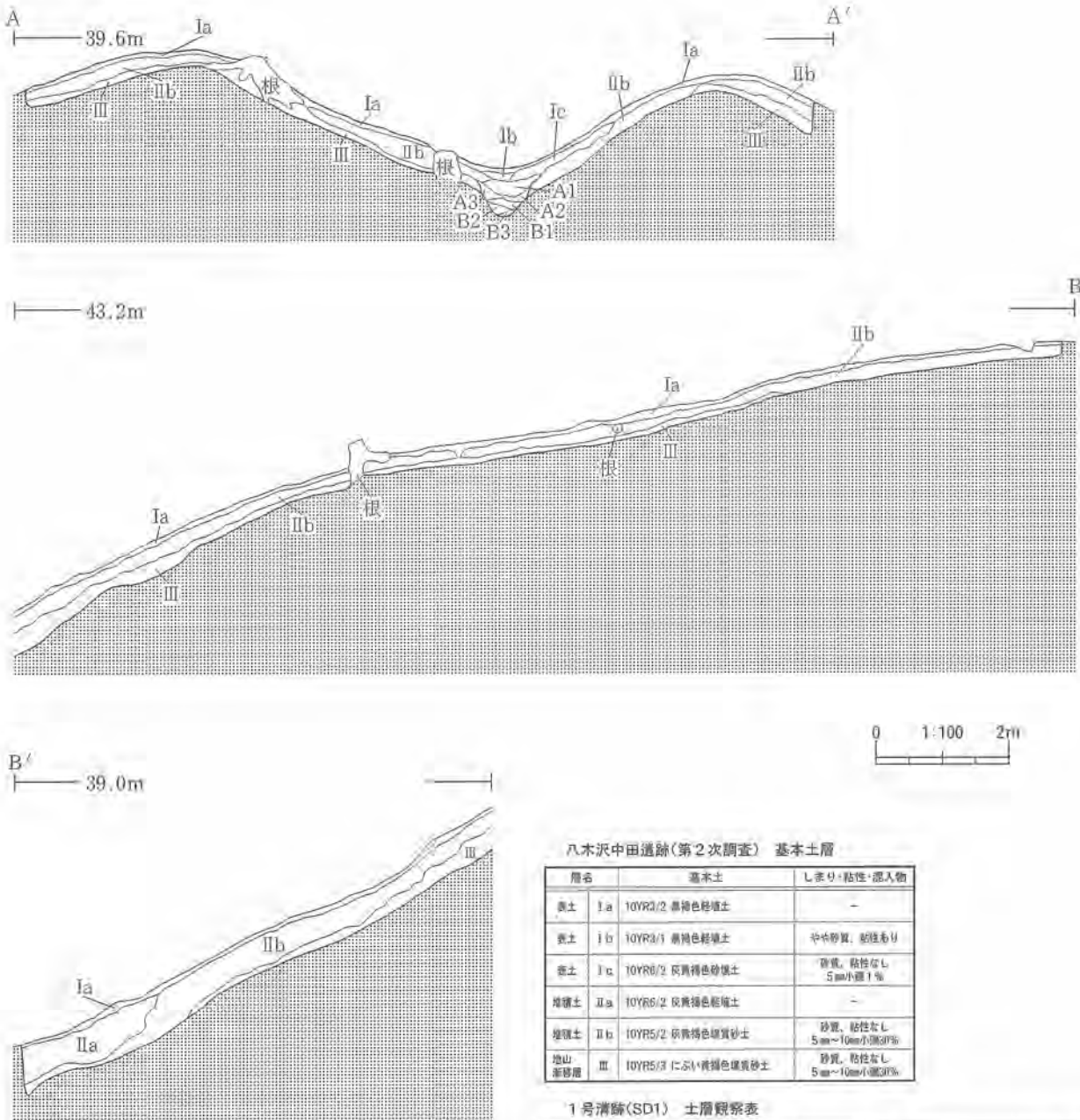
堆積土はA・B層に大別され、さらにA1～A3層、B1～B3層に細別される。遺構底面は硬化しているが、堆積状況から自然堆積と思われる。遺物は出土していない。



第24図 八木沢中田遺跡 (第2次調査) 全体図

遺構外出土遺物（図版26、写真図版38）

調査区北端部から寛永通寶が2枚出土している。ともに表土である1層中から出土し、1の銭文の面は寛永通寶で、背は青海波（11波）であり、4文銭である。2の銭文の面は寛永通寶で、背は無文である。銭文の特徴から古寛永通寶である。

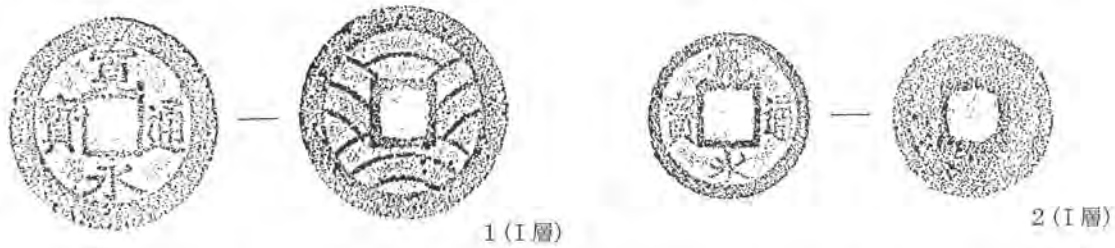


第25図 八木沢中田遺跡（第2次調査）基本土層図・1号溝跡 断面図

### 第3節 まとめ

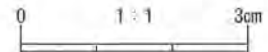
八木沢中田遺跡の第1次調査では、土坑1基、ピット1基が検出された。ともに遺物が出土していないため、構築された時期は不明であるが、1号土坑については斜面に対して段状に掘り込み平坦面を構築していることから、平場を作り出すという目的が推測される。本遺跡と沢を挟んで隣接する八木沢古館や、さらにその東側に分布する平安時代における鉄生産の大集落跡である島田Ⅱ遺跡とは遺構の立地状況は類似しているが、それらの遺跡と比較すると遺構・遺物の密度が極めて薄いといえる。

八木沢中田遺跡の第2次調査は、調査前の地表面観察において溝状の窪みが観察され、その性格を把握するために調査が実施された。調査の結果、直線で約23mを測る溝跡が1条検出された。さらに調査区外に延びているものと考えられる。時期を決定するような遺物は出土せず、第1次調査区同様、遺構・遺物の密度は極めて薄い。



銭貨観察表

図No.	出土層位	銭文		外径(mm)	穿孔(mm)	外輪厚(mm)	外輪幅(mm)	重量(g)
		面	背					
第26図1	I層	寛永通寶	青海波	28.3	6.0~6.1	1.2	3.4~3.5	4.3
第26図2	I層	寛永通寶	無	22.1	6.3~6.4	0.9	1.7~1.9	1.9



第26図 遺構外出土遺物



29. 第1・2次調査区 遠景（西→）



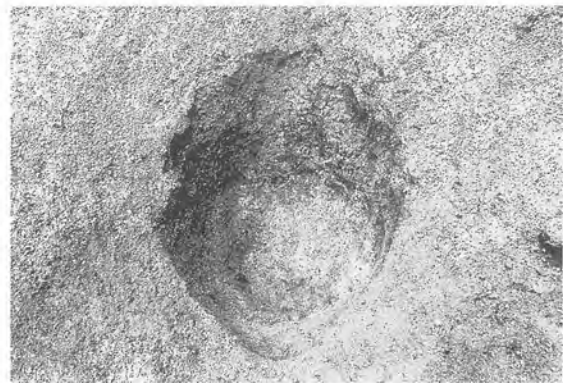
30. 第1次調査区 調査前状況（南→）



31. 1号土坑 堆積状況（南西→）



32. 1号土坑 完掘状況（南西→）



33. 1号ピット 完掘状況（北西→）



34. 第2次調査区 遠景(西→)



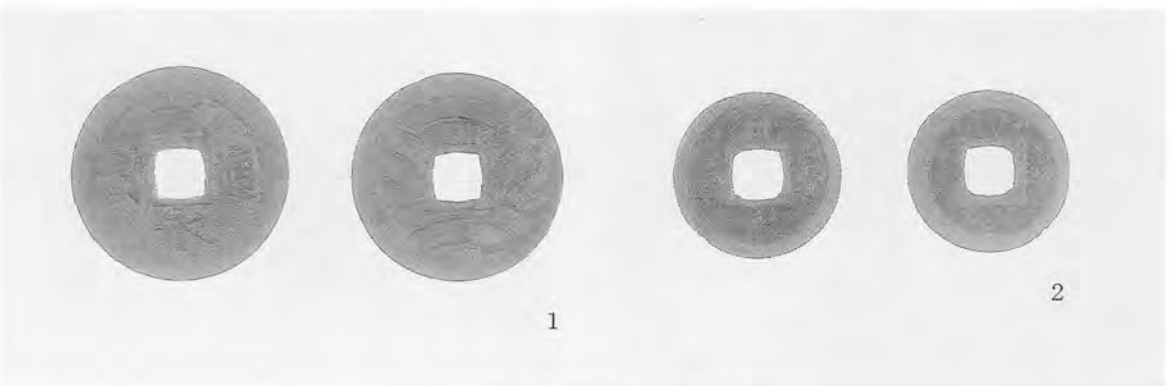
35. 第2次調査区 調査状況(南東→)



36. 1号溝跡 堆積状況(南東→)



37. 1号溝跡 完掘状況(西→)



38. 第2次調査出土遺物

やぎさわこまごめ 1  
八木沢駒込 I 遺跡 (第 1 ~ 3 次調査)





## 第4章 八木沢駒込I遺跡

### 第1節 八木沢駒込I遺跡（第1次調査）

#### (1) 調査概要

八木沢駒込I遺跡は、宮古市大字八木沢第7地割字ラントノ沢に位置している。第1次調査区は八木沢丘陵の北にのびる尾根の東面する裾部にあたり、調査前の現況は山林である。調査区は大きく斜面部と平坦部に分けられ、斜面部の最も高いところは標高約30m、低いところは約25mを測り、比高差約5mである。平坦部は標高25.0m～24.2mで北に向かって緩やかに傾斜している。調査面積は約280㎡である。

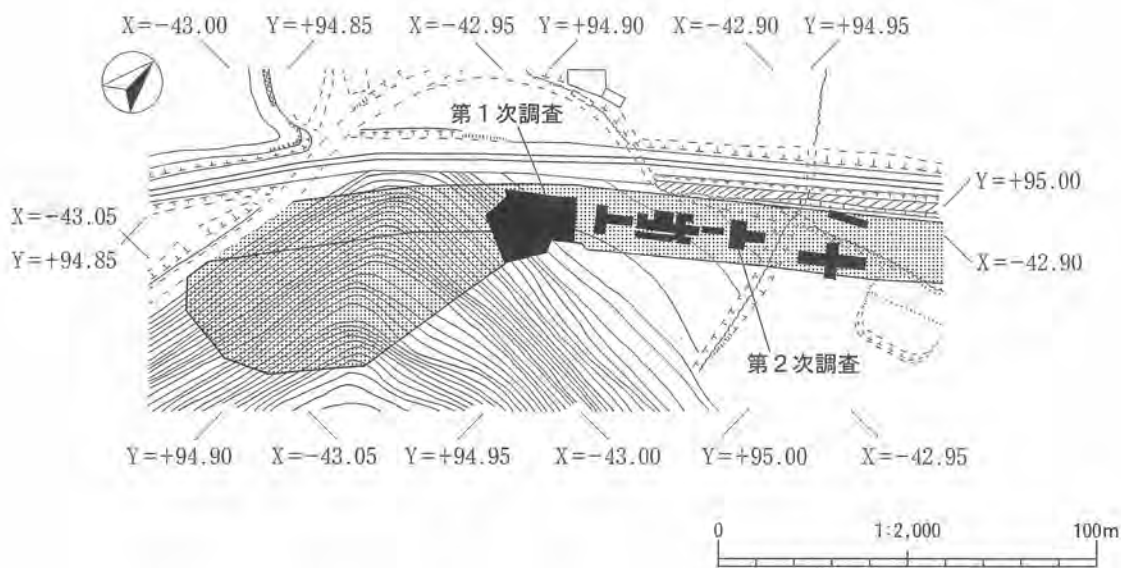


第27図 八木沢駒込I遺跡 位置図

平成7年6月1日付け建設第35号で文化財保護法第57条の3第1項の規定による埋蔵文化財発掘の通知が宮古市建設課から提出され、市教委では平成7年6月19日付け教第544号で文化財保護法第98条の2第1項の規定により、岩手県教育委員会に埋蔵文化財発掘調査の報告を行なった。

#### (2) 調査経過

平成7年6月1日付け建設第37号で宮古市建設課から埋蔵文化財発掘調査の依頼があり、同年6月20日から調査を開始した。人力で表土剥ぎを行ない6月29日には土坑が確認され、検出状況写真を撮影し精査を行なった。精査後、調査区の全体図・断面図を作成し、7月4日に器材を撤収し調査が終了した。延べ調査日数は10日である。



第28図 八木沢駒込I遺跡（第1・2次調査）調査地点

平成8年1月8日から3月29日まで写真整理・図面整理などの整理作業を行なった。

(3) 基本土層

調査区内の基本土層はI・II層に大別され、さらにI a・I b層に細別される。斜面部ではI a・I b層、平坦部ではI a・II層が堆積している。

I層：I a・I b層に細別される。I a層は暗褐色砂壤土を基本土とし、軟質で粘性はない。I b層は明褐色埴壤土を基本土とし、硬質で粘性がある。ともに表土である。

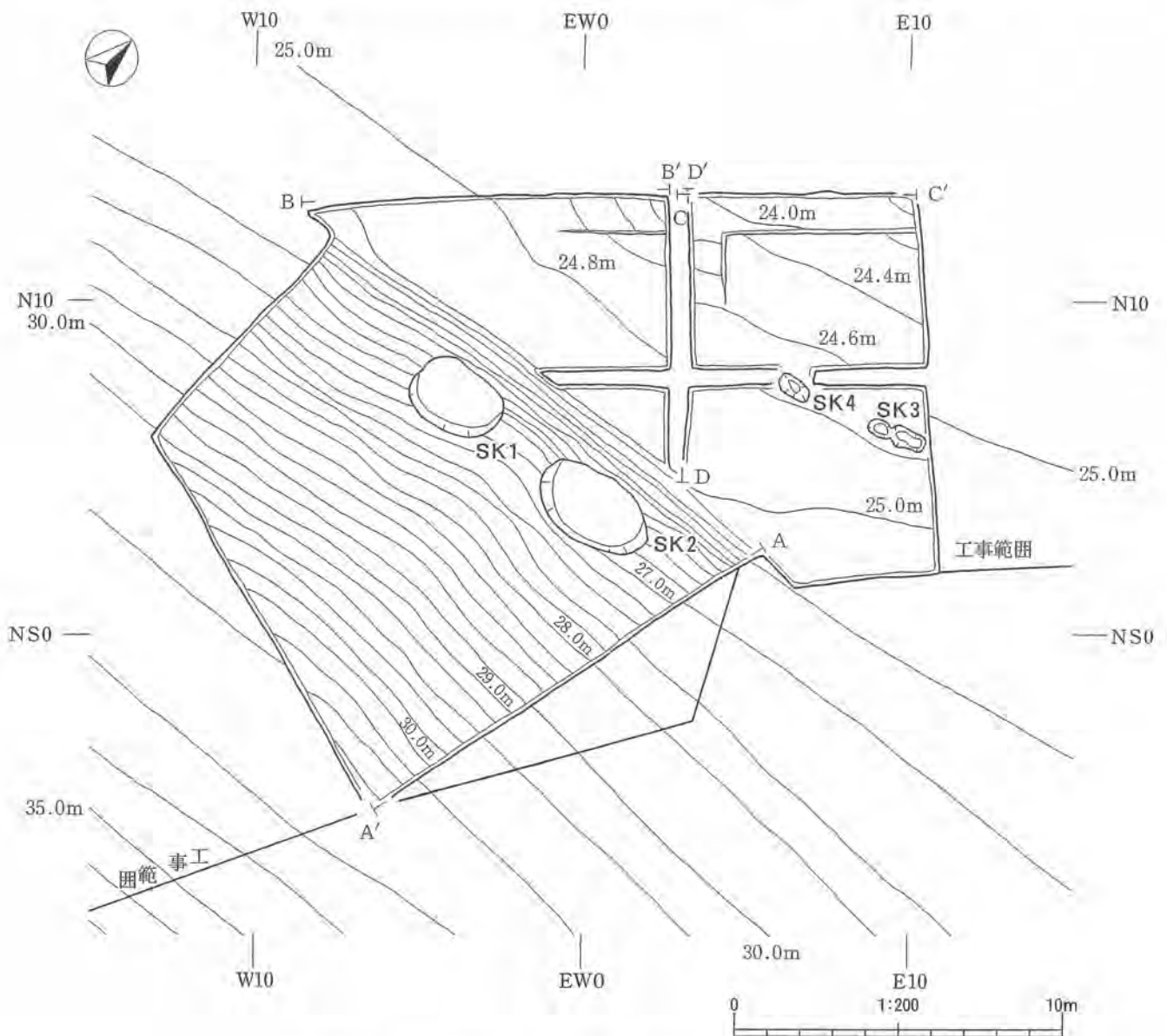
II層：黒褐色壤土を基本土とし、やや軟質で粘性はややある。平坦部にのみ堆積している。

(4) 検出された遺構と遺物

土坑4基が検出され、遺構外から円形石製品1点、寛永通寶1枚が出土している。

1号土坑（SK1）（図版31、写真図版41・42）

1号土坑は斜面部の標高約27m付近で確認されている。遺構検出面は地山面である。平面形は楕円形で、長径2.8m、短径2.0m、深さ0.2mを測る。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。



第29図 八木沢駒込I遺跡（第1次調査）全体図

堆積土は2層に分けられ、B層は明黄褐色砂土でA層よりも明るい土色をもち、砂質を呈する。堆積状況から自然堆積と思われる。遺物は出土していない。

**2号土坑（SK2）**（図版31、写真図版43・44）

2号土坑は斜面部の標高約27m付近、1号土坑から東へ約2mの位置で確認されている。遺構検出面は地山面である。平面形は不整な楕円形を呈し、長径3.82m、短径2.2m、深さ0.7mを測る。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

堆積土は2層に分けられ、A・B層とも1号土坑と極めて類似した土性をもつ。堆積状況から自然堆積と思われる。遺物は出土していない。

**3号土坑（SK3）**（図版31、写真図版45）

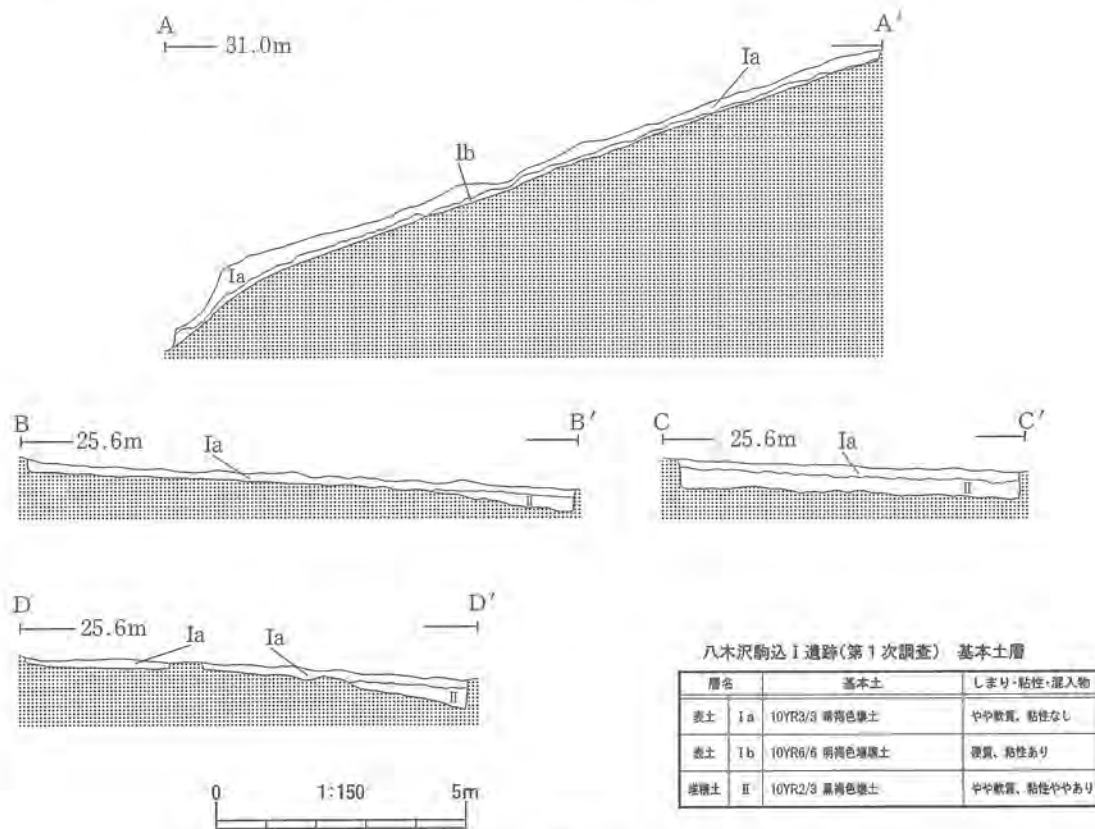
3号土坑は調査区の東端で確認され、遺構検出面は地山面である。平面形は不整な楕円形を呈し、長径1.84m、短径0.69m、深さ0.3mを測る。底面には東西に2つの窪みがみられ、壁は緩やかに立ち上がる。

堆積土は3層に分けられ、C層は底面に薄く堆積し地山に近い土性をもつ。堆積状況から自然堆積と思われる。遺物は出土していない。

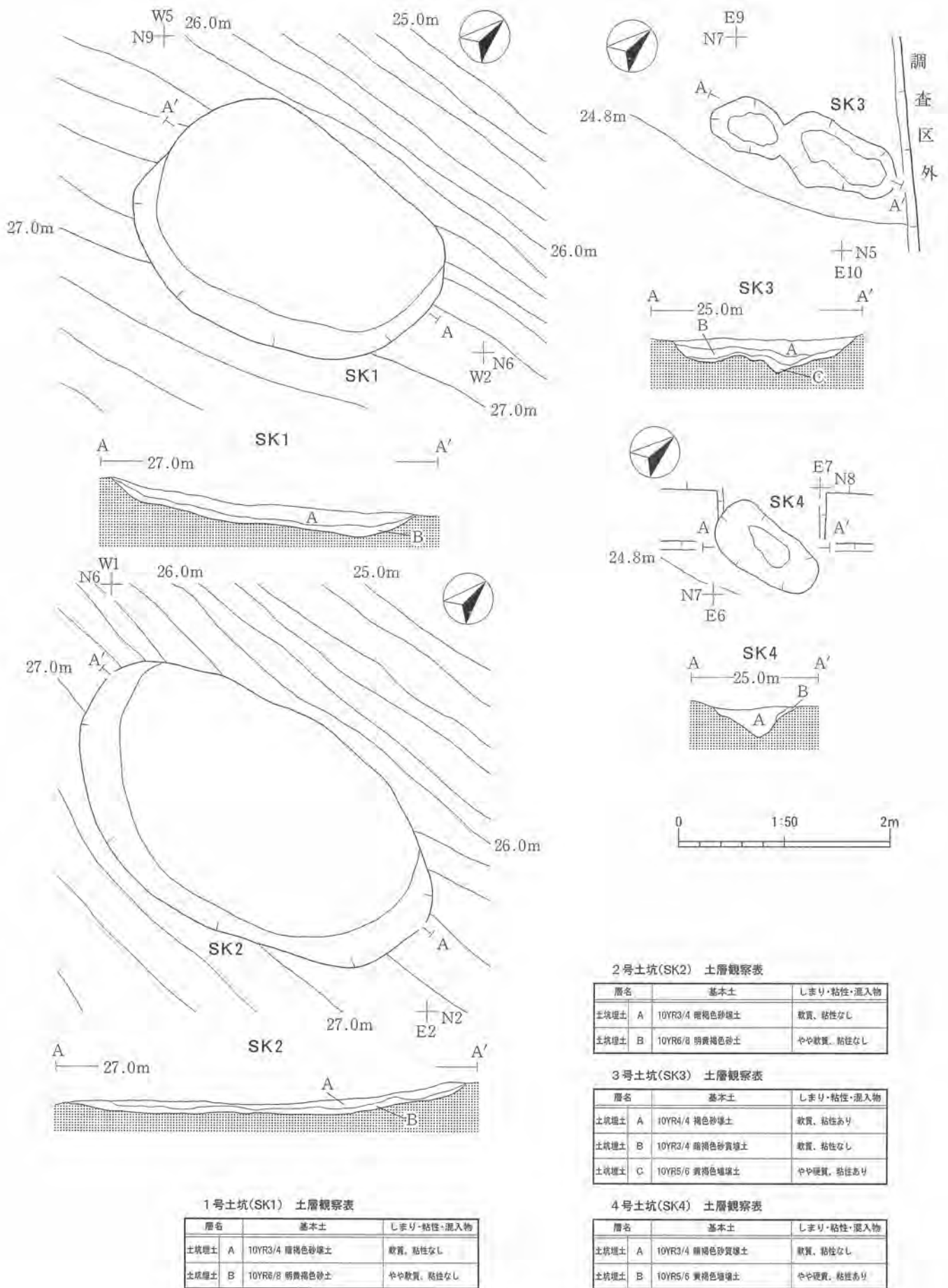
**4号土坑（SK4）**（図版31、写真図版46）

4号土坑は平坦部の中央、ちょうど十字ベルトの東側で確認され、遺構検出面は地山面である。平面形は楕円形を呈し、長径1.08m、短径0.54m、深さ0.27mを測る。底面はすり鉢状を呈し、中央が最も深くなっている。

堆積土は2層に分けられ、A層は土坑内埋土の大半を占め、B層は土坑東壁にのみ堆積している。堆積状況から自然堆積と思われる。遺物は出土していない。



第30図 八木沢駒込Ⅰ遺跡（第1次調査）基本土層図



第31図 1～4号土坑 平面図・断面図

## 遺構外出土遺物(図版32、写真図版47)

遺構外からは円形石製品1点、寛永通寶1枚が出土している。

第32図1は円形石製品で、平坦部のI a層から出土している。扁平な石の周囲を打ち欠くことで円形に作り出し、表裏面にはともに自然面が残る。長径5.9cm、短径5.6cm、最大厚2.0cm、重さ79.9gを測る。

第32図2は寛永通寶で、斜面部のI a層から出土している。銭文の面は寛永通寶で、背は文である。4文字の銭文(寛永通寶)のそれぞれ間には円形または長方形の穴が空いており、意図的なものと思われる。



第32図 遺構外出土遺物

## 第2節 八木沢駒込I遺跡(第2次調査)

## (1) 調査概要

八木沢駒込I遺跡の第2次調査は、第1次調査区の東に広がる平坦地において実施された。調査区は北流する沢を境にして西側をA区、東側をB区とシトレンチを設定した。A区は47m×8mで部分的に拡張を行った。B区は長さ18m幅3mの十字トレンチと11m×1.5mのトレンチの2本を設定した。調査面積は約280㎡である。平成8年9月27日付け建設第42号で文化財保護法第57条の3第1項の規定による埋蔵文化財発掘の通知の提出があった。

## (2) 調査経過

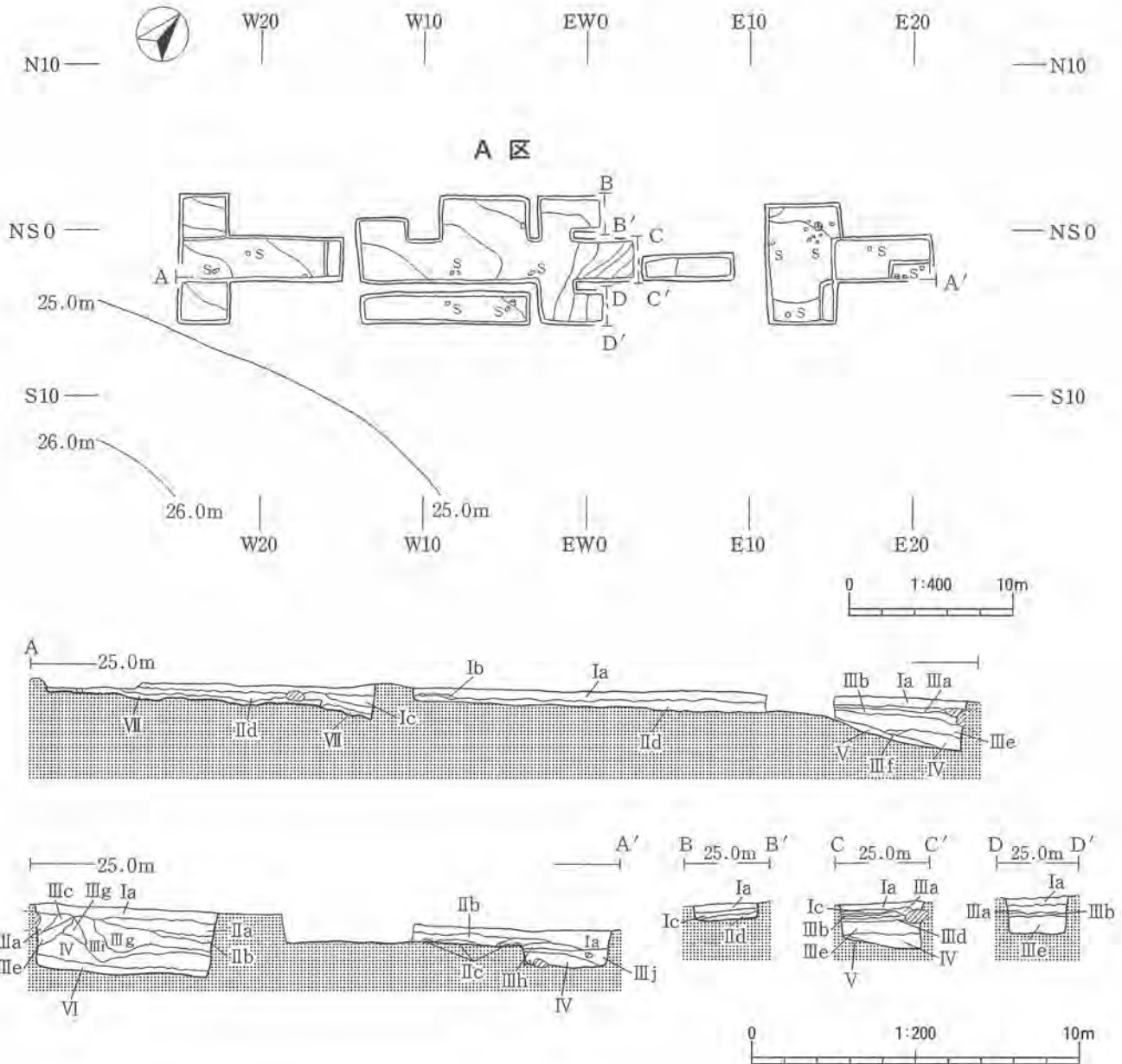
平成8年10月7日付け建第44号で宮古市建設課から埋蔵文化財発掘調査についての依頼があり、同年10月18日から調査を開始した。まずB区の十字トレンチを設定し、人力で表土を剥ぎ遺構・遺物の確認を行なった。10月24日にはB区の2本目のトレンチ、10月31日にはA区のトレンチを設定した。平板による全体図作成及び調査区壁の断面図作成を行ない、12月12日に器材を撤収し、調査を終了した。延べ調査日数は36日である。

平成8年12月13日から平成9年3月31日まで図面整理などの整理作業を行なった。

## (3) 基本土層

第2次調査の基本土層はA区とB区に分けて記述する。A区は7層に大別され、さらに21層に細別される。

I層：表土で、さらに3層に細別される。I a層は調査区の全域に堆積し、I b層・I c層は調査区の中央部分にのみ堆積している。



八木沢駒込I遺跡(第2次調査) A区基本土層

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土 Ia	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	—	軟質、粘性なし	堆積土 IIIe	10YR4/3 にぶい黄褐色砂質壤土	10YR4/6 褐色砂質壤土15%堆状	軟質、粘性なし
表土 Ib	10YR2/3 黒褐色シルト質壤土	10YR2/2 黒褐色シルト質壤土50%堆状	やや硬質、粘性なし	堆積土 IIIf	10YR5/8 黄褐色砂土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂質壤土2%堆状	やや硬質、粘性ややあり
表土 Ic	10YR3/2 黒褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色砂壤土20%堆状	硬質、粘性ややあり	堆積土 IIIg	10YR7/8 黄褐色砂土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂土10%堆状	やや硬質、粘性なし
田表土 IIa	10YR3/2 黒褐色砂壤土	—	やや硬質、粘性なし	堆積土 IIIh	10YR6/6 明黄褐色砂土	10YR3/3 暗褐色壤質砂土3%堆状	硬質、粘性なし
田表土 IIb	10YR2/3 黒褐色シルト質壤土	—	軟質、粘性なし	堆積土 IIIi	10YR6/6 明黄褐色砂土	10YR3/3 暗褐色壤質砂土3%堆状	硬質、粘性なし
田表土 IIc	10YR3/4 暗褐色砂質壤土	10YR2/3 黒褐色壤土3%堆状	硬質、粘性ややあり	堆積土 IIIj	10YR2/4 暗褐色壤質砂土	10YR4/4 褐色壤質砂土7%堆状 10YR2/2 黒褐色シルト質壤土1%堆状	やや硬質、粘性ややあり
田表土 II d	10YR3/4 暗褐色砂質壤土	10YR6/6 明黄褐色砂土2%堆状	やや硬質、粘性ややあり	堆積土 IV	10YR5/4 にぶい黄褐色砂土	10YR2/2 黒褐色壤質砂土3%堆状	硬質、粘性なし
堆積土 IIIa	10YR5/4 にぶい黄褐色砂土	10YR3/2 黒褐色壤質砂土3%堆状	硬質、粘性なし	堆積土 V	10YR1.7/1 黒色シルト質壤土	10YR2/2 黒褐色シルト質壤土3%堆状	やや硬質、粘性ややあり
堆積土 IIIb	10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色砂土7%堆状	軟質、粘性なし	堆積土 VI	10YR2/3 黒褐色砂質壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂土10%堆状	やや硬質、粘性なし
堆積土 IIIc	10YR4/6 褐色砂質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土3%堆状	軟質、粘性ややあり	地山 新砂層 VII	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土5%堆状	硬質、粘性ややあり
堆積土 III d	10YR4/6 褐色砂質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土10%堆状	軟質、粘性なし				

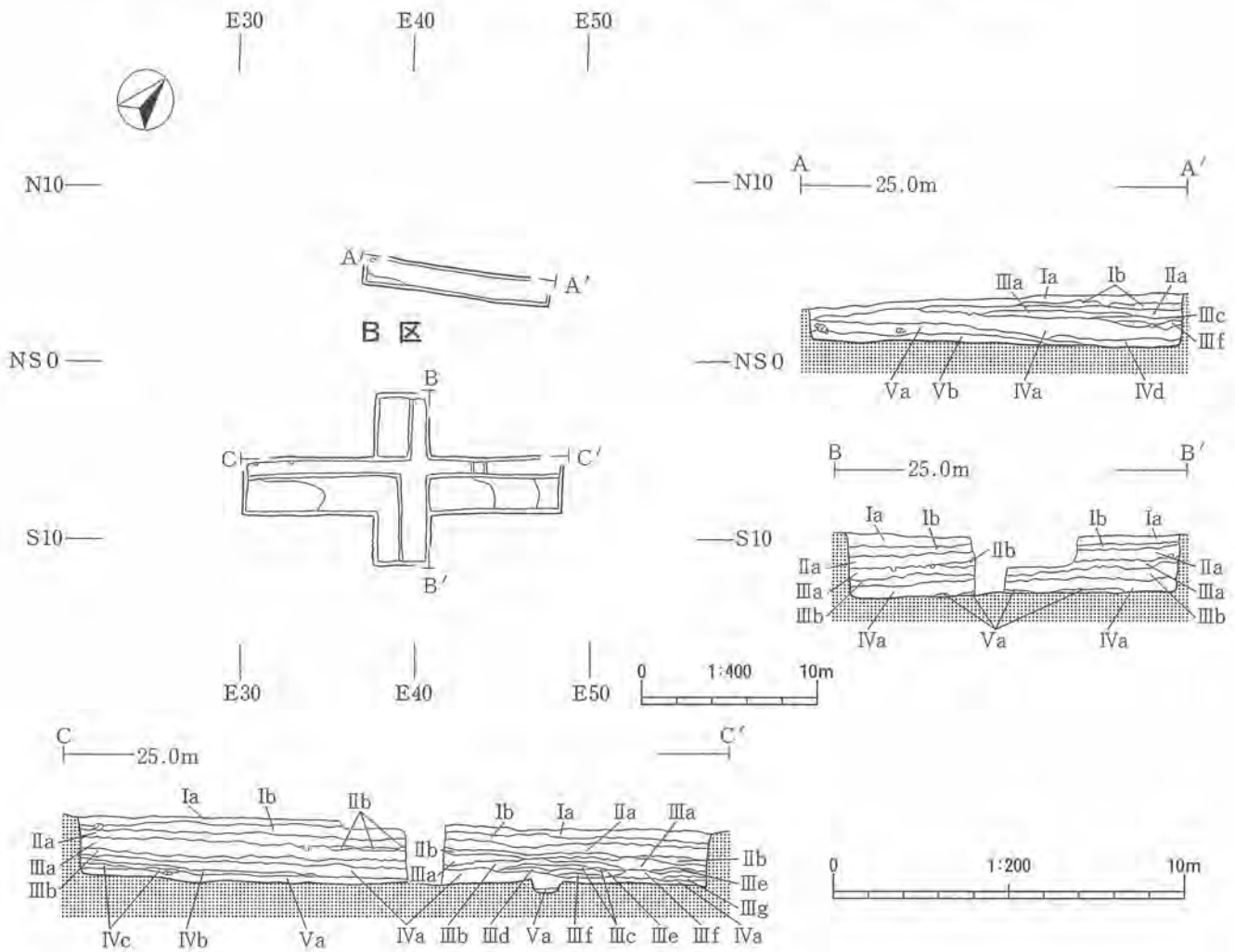
第33図 八木沢駒込I遺跡(第2次調査) A区 全体図・断面図

II層：黒褐色土を主体とする層で、調査区全域に堆積している。II a～II d層の4層に細別される。旧表土層と考えられる。

III層：調査区全体に分布している水成堆積層である。III a～III j層の10層に細別される。所々酸化しており、赤みを帯びた層になっている。

IV層：調査区の中央部分に堆積している砂層である。III層同様水成堆積層で、酸化した部分が見られる。

V層：調査区の中央部分に堆積している黒色シルト質埴土を基本土とする層である。



八木沢駒込 I 遺跡 (第2次調査) B区基本土層

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土 I a	10YR3/4 暗褐色シルト質埴土	-	軟質、粘性なし
表土 I b	10YR3/3 暗褐色シルト質埴土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂土3%堆状	やや硬質、粘性なし
旧表土 II a	10YR2/3 黒褐色砂埴土	-	やや軟質、粘性あり
旧表土 II b	10YR2/3 黒褐色シルト質埴土	-	軟質、粘性なし
旧表土 III a	10YR5/4 にぶい黄褐色砂土	10YR3/2 黒褐色埴質砂土3%堆状	硬質、粘性なし
旧表土 III b	10YR4/4 褐色シルト質埴土	10YR5/8 黄褐色砂土7%堆状	軟質、粘性なし
旧表土 III c	10YR4/6 褐色砂質埴土	10YR4/4 褐色シルト質埴土3%堆状	軟質、粘性ややあり
堆積土 III d	10YR4/6 褐色砂質埴土	10YR4/4 褐色シルト質埴土10%堆状	軟質、粘性なし
堆積土 III e	10YR4/3 にぶい黄褐色砂質埴土	10YR4/6 褐色砂質埴土15%堆状	軟質、粘性なし

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
堆積土 III f	5YR5/8 明赤褐色砂土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂質埴土2%堆状	やや硬質、粘性ややあり
堆積土 III g	10YR7/8 黄褐色砂土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂土10%堆状	やや硬質、粘性なし
堆積土 IV a	10YR1.7/1 黒色シルト質埴土	10YR2/2 黒褐色シルト質埴土3%堆状	やや硬質、粘性ややあり
堆積土 IV b	10YR7/6 明黄褐色砂土	10YR3/4 暗褐色砂土	軟質、粘性なし
堆積土 IV c	10YR5/4 にぶい黄褐色砂質埴土	-	やや硬質、粘性なし
堆積土 IV d	10YR4/3 にぶい黄褐色砂土	-	軟質、粘性なし
地山新移層 Va	10YR2/3 黒褐色砂質埴土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂土10%堆状	やや硬質、粘性なし
地山新移層 Vb	10YR4/3 にぶい黄褐色砂土	-	軟質、粘性なし

第34図 八木沢駒込 I 遺跡 (第2次調査) B区 全体図・断面図

VI層：調査区の中央部分にのみ堆積している層で、地山直上に堆積している。

VII層：調査区の西側に堆積している層で、VI層同様地山直上に堆積している。粘性がややある。

B区は5層に大別され、さらに17層に細別される。

I層：表土で、調査区全域に堆積し暗褐色シルト質壤土を基本土とする層である。I a・I b層に細別される。

II層：黒褐色土を基本土とする層で、II a・II b層に細別される。調査区全域に堆積している。

III層：調査区全域に堆積している水成堆積層である。A区のIII層同様、酸化している部分が局所に見られ、赤みを帯びている。III a～III g層の7層に細別される。

IV層：調査区全域に堆積している水成堆積層である。IV a～IV d層の4層に細別される。III層よりも明るい土色をもつ。

V層：地山漸移層で、調査区全域に堆積している。V a・V b層に細別される。

#### (4) 検出された遺構と遺物 (写真図版56)

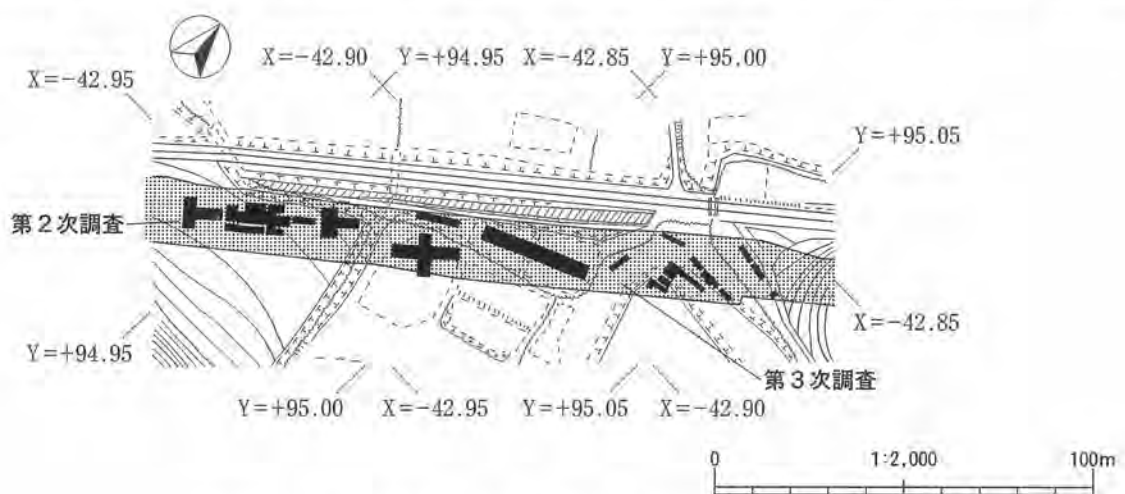
遺構は検出されなかった。遺物は図示できなかったが、B区の表土であるI a層から鉄滓が2点出土している。

### 第3節 八木沢駒込 I 遺跡 (第3次調査)

#### (1) 調査の概要

八木沢駒込 I 遺跡の第3次調査区は、第2次調査区の東に位置し、周辺の地形は大きく2つに分けられる。1つは第2次調査区から続く平坦地で、現在では水田として利用されているところである。もう1つは北流する沢を挟み平場が段状にみられるところである。前者の平坦地からは表探で鉄滓が見付かっている。後者の地形のところにA～Fトレンチ、前者の平坦地にはGトレンチを設定し、遺構・遺物の確認を行なった。Fトレンチはトレンチ南側において1 m×2 mの規模で土層確認のために掘り下げ行なっており、便宜的にFトレンチ①とFトレンチ②(土層確認)と呼称した。調査面積は約189㎡である。

平成15年4月4日付け建第18号で宮古市建設課から文化財保護法第57条の3第1項の規定による埋蔵文化財発掘の通知が提出され、平成15年4月22日付け教生第21-13号で岩手県教育委員会から工事着



第35図 八木沢駒込 I 遺跡 (第3次調査) 調査地点



手前に発掘調査を実施するようとの通知があった。

## （2）調査経過

平成15年4月3日付け建第5号で宮古市建設課から埋蔵文化財発掘調査の依頼があり、同年4月8日から調査を開始した。調査区内にトレンチを設定し、4月10日から人力で表土剥ぎを行なった。Gトレンチのみ4月16日に重機による表土剥ぎを行なった。4月23日にはBトレンチにおいて土坑が確認されたため、トレンチを南へ約2m拡張し、さらに検出・精査を行なった。5月14日からトレンチの埋め戻しを行ない、5月19日に器材を撤収し、調査を終了した。延べ調査日数は20.5日である。

平成15年5月21日から11月11日、平成16年1月5日から1月30日まで、図面整理・写真整理などの整理作業を行なった。

## （3）基本土層

基本土層の土層観察表は第37・38図に掲載しているため、ここでは特徴的な事項についてのみ記述する。

AトレンチはⅠ～Ⅲ層に分けられ、Ⅰ層は表土で、Ⅲ層は地山漸移層である。Ⅲ層の層厚は約10cmと薄い。Ⅱ・Ⅲ層はやや硬質で、粘性がややある。

BトレンチはⅠ～Ⅸ層に分けられる。Ⅰ層は表土でBトレンチ全体に堆積している。Ⅱ・Ⅲ層は暗褐色・黒色埴壤土を基本土とし、やや硬質で粘性がややある。その下層のⅣ・Ⅴ層になると砂質が強くなり、Ⅴ層は水成堆積と思われる。Ⅵ層はBトレンチ東側の地山漸移層で、硬質で粘性がある。Ⅶ層はⅦa層・Ⅶb層に細別され、Bトレンチ拡張部の斜面に堆積している。Ⅷ層はBトレンチ西側のSK5が検出された平場状の地形に堆積している。Ⅸ層はⅧ層の下層に堆積し、Bトレンチ拡張部の地山漸移層である。

CトレンチはⅠ～Ⅵ層に分けられる。Ⅰ層は表土で、軟質で粘性はない。Ⅱ層はCトレンチ全体に堆積し、Ⅲ～Ⅴ層は東側の落ち込みに堆積している。Ⅲ層は黒褐色砂土を基本土とし、水成堆積の様相を呈しているため、この落ち込みは約6m東にある沢の侵食によるものと考えられる。Ⅵ層は地山漸移層である。

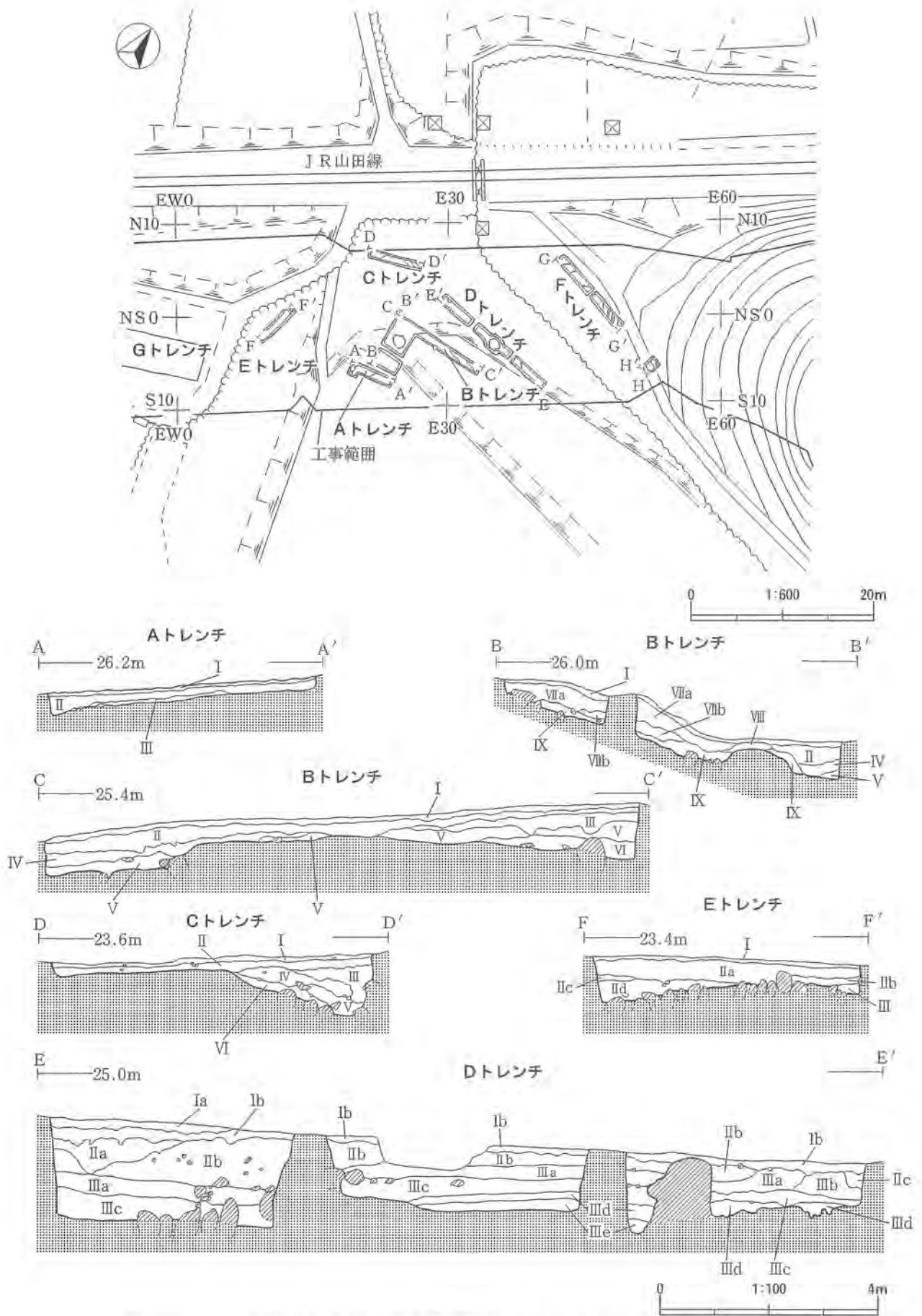
DトレンチはⅠ～Ⅲ層に大別される。Ⅰ層は表土でⅠa層・Ⅰb層に細別される。Ⅰb層はDトレンチ全体に堆積している。Ⅱ層・Ⅲ層はそれぞれ3層と5層に細別されるが、ともに砂質が強く水成堆積の様相をもつ。一部酸化している部分がみられ、また沢に近接しているため湧水がひどく最終的に地山面は確認できなかった。

EトレンチはⅠ～Ⅲ層に大別され、Ⅱ層はさらにⅡa～Ⅱd層に細別される。Ⅰ層は表土でトレンチ全体に堆積している。Ⅱ層は黒色を呈する堆積土で礫が多く含まれている。Ⅲ層は地山でトレンチ東側の深掘で確認している。

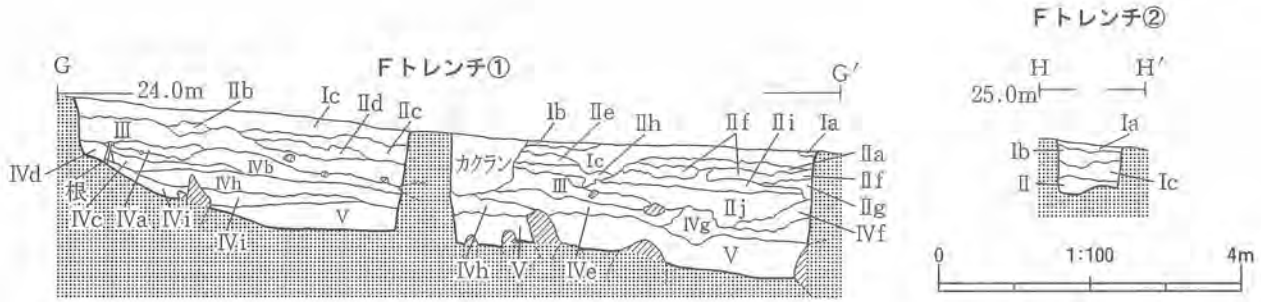
Fトレンチ①はⅠ～Ⅴ層に大別され、Ⅰ層はⅠa～Ⅰc層、Ⅱ層はⅡa～Ⅱj層、Ⅳ層はⅣa～Ⅳi層に細別される。Ⅰ層は表土で、トレンチ全体に堆積している。Ⅱ～Ⅳ層は砂質が強く、一部酸化している部分もみられ水成堆積と考えられる。トレンチ全体に湧水がみられる。Ⅴ層は地山である。Fトレンチ②はⅠ・Ⅱ層に大別される。Ⅰ層は表土で、Ⅰa～Ⅰc層に大別される。Ⅱ層は砂質が強い層である。

## （4）検出された遺構と遺物

Bトレンチから土坑1基（5号土坑）、Eトレンチから土坑1基（6号土坑）が検出され、遺構外から縄文土器、弥生土器、円形石製品、石鏃、銭（寛永通寶）が出土している。



第36図 八木沢駒込I遺跡(第3次調査) A~Eトレンチ平面図・断面図



Aトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土 I	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性なし
堆積層 II	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
地山漸移層 III	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR5/6 黄褐色埴壤土50%塊状	やや硬質、粘性ややあり

Eトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土 I	10YR2/1 黒色埴壤土	7.5YR3/2 黒褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
堆積層 II a	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土5%塊状	硬質、粘性あり 5mm~10mm次の砂礫
堆積層 II b	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR3/1 黒褐色埴壤土30%塊状・斑状	やや硬質、粘性ややあり
堆積層 II c	10YR2/1 黒褐色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土1%塊状	硬質、粘性あり
堆積層 II d	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR5/6 黄褐色埴壤土5%塊状	硬質、粘性あり
地山 III	10YR4/4 褐色シルト質埴土	10YR2/2 黒褐色埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり

Bトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土 I	10YR3/2 黒褐色埴壤土	10YR3/4 暗褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性なし
堆積層 II	10YR3/3 暗褐色埴壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
堆積層 III	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり
堆積層 IV	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土1%塊状	やや硬質、粘性なし
砂層 V	10YR2/2 黒褐色砂土	10YR3/1 黒褐色砂土10%塊状	軟質、粘性なし 2mm~1cm次の砂礫
堆積層 VI	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土5%塊状	硬質、粘性あり
堆積層 VII	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性あり 3mm~5mm次の砂礫多量
堆積層 VII a	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色埴壤土1%塊状	やや硬質、粘性なし 2mm~3mm次の砂礫多量
堆積層 VII b	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR5/8 黄褐色埴壤土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
地山漸移層 IX	10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり

Fトレンチ① 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土 Ia	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
表土 Ib	10YR2/1 黒色砂土	10YR2/2 黒褐色砂土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
表土 Ic	10YR2/2 黒褐色砂土	10YR2/3 黒褐色砂土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 3mm~10mm次の砂礫多量
砂層 II a	10YR2/1 黒色砂土	10YR3/3 暗褐色埴壤土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
砂層 II b	10YR3/1 黒褐色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土30%層状	やや硬質、粘性なし 5mm次の砂礫多量
砂層 II c	10YR3/3 暗褐色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土30%層状	やや硬質、粘性なし
砂層 II d	10YR2/1 黒色砂土	10YR3/2 黒褐色埴壤土30%層状	やや硬質、粘性ややあり
砂層 II e	10YR2/1 黒色砂土	10YR2/2 黒褐色埴壤土40%層状	やや硬質、粘性あり
砂層 II f	7.5YR3/2 黒褐色埴壤土	10YR2/1 黒褐色埴壤土10%塊状	軟質、粘性なし 5mm~10mm次の砂礫多量
砂層 II g	10YR2/1 黒色砂土	10YR2/2 黒褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
砂層 II h	10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性なし 5mm次の砂礫多量
砂層 II i	10YR2/1 黒色砂土	10YR3/3 暗褐色埴壤土30%層状	軟質、粘性なし 2mm~3mm次の砂礫多量
砂層 II j	7.5YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土20%層状	やや硬質、粘性なし 5mm次の砂礫多量
砂層 III	10YR2/1 黒色埴壤土	7.5YR2/2 黒褐色埴壤土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
砂層 IV a	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土10%層状	やや硬質、粘性ややあり
砂層 IV b	7.5YR2/3 暗褐色埴壤土	10YR2/1 黒色砂土20%層状 10YR2/2 黒褐色埴壤土10%層状	やや硬質、粘性なし
砂層 IV c	10YR3/3 暗褐色埴壤土	10YR2/1 黒色砂土10%層状	やや硬質、粘性なし
砂層 IV d	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色埴壤土10%層状	やや硬質、粘性ややあり
砂層 IV e	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR2/1 黒色砂土10%層状	やや硬質、粘性なし 5mm次の砂礫多量
砂層 IV f	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土20%層状	やや硬質、粘性ややあり 5mm次の砂礫多量
砂層 IV g	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR3/2 黒褐色埴壤土10%層状	やや硬質、粘性ややあり 5mm次の砂礫多量
砂層 IV h	10YR2/1 黒色シルト質埴土	10YR3/4 暗褐色埴壤土5%塊状	硬質、粘性ややあり
砂層 IV i	10YR2/1 黒色埴壤土	7.5YR2/2 黒褐色埴壤土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
地山 V	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR2/3 黒色シルト質埴土10%層状	やや硬質、粘性なし

Cトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土 I	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土10%塊状	軟質、粘性なし
堆積層 II	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
砂層 III	10YR3/2 黒褐色砂土	10YR2/1 黒色埴壤土10%塊状	軟質、粘性あり
堆積層 IV	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
堆積層 V	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土40%塊状	やや硬質、粘性ややあり
地山漸移層 VI	10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり

Dトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土 Ia	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土1%塊状	やや硬質、粘性あり
表土 Ib	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR3/1 黒褐色砂土10%塊状	やや硬質、粘性あり
堆積層 II a	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土30%塊状	やや硬質、粘性あり
堆積層 II b	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土1%塊状	やや硬質、粘性あり
堆積層 II d	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
砂層 III a	5YR2/4 暗褐色埴壤土	7.5YR3/2 黒褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
砂層 III b	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色埴壤土20%層状	やや硬質、粘性ややあり
砂層 III c	10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土5%層状	やや硬質、粘性なし
砂層 III d	10YR4/3 にぶい黄褐色埴壤土	10YR3/2 黒褐色埴壤土10%塊状	軟質、粘性なし
砂層 III e	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色埴壤土10%塊状	軟質、粘性なし

Fトレンチ② 土層観察表

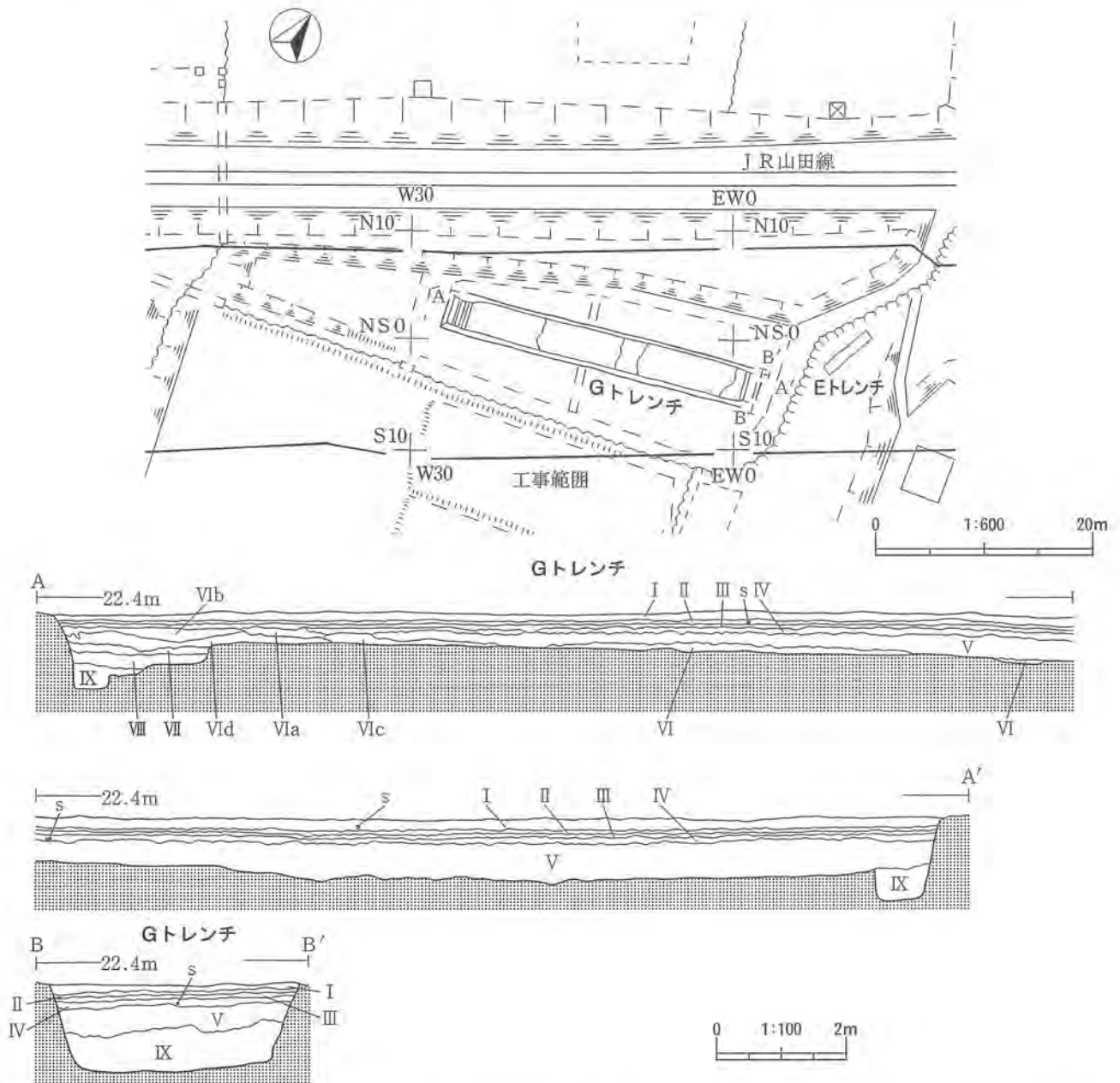
層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土 Ia	10YR2/1 黒色砂土	10YR2/2 黒褐色砂土10%塊状	軟質、粘性粘性ややあり
砂層 Ib	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
砂層 Ic	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/1 黒色砂土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
砂層 II	10YR2/3 黒褐色砂土	10YR3/2 黒褐色砂土10%塊状	やや硬質、粘性あり

第37図 八木沢駒込 I 遺跡 (第3次調査) Fトレンチ①②平面図・断面図

5号土坑 (SK5) (図版39、写真図版67)

5号土坑はBトレンチの西側で検出され、遺構確認面は地山面である。平面形は不整な円形で、規模は長径1.57m、短径1.12m、深さ0.18mを測る。底面はU字形にくぼみ、壁は緩やかに立ち上がる。

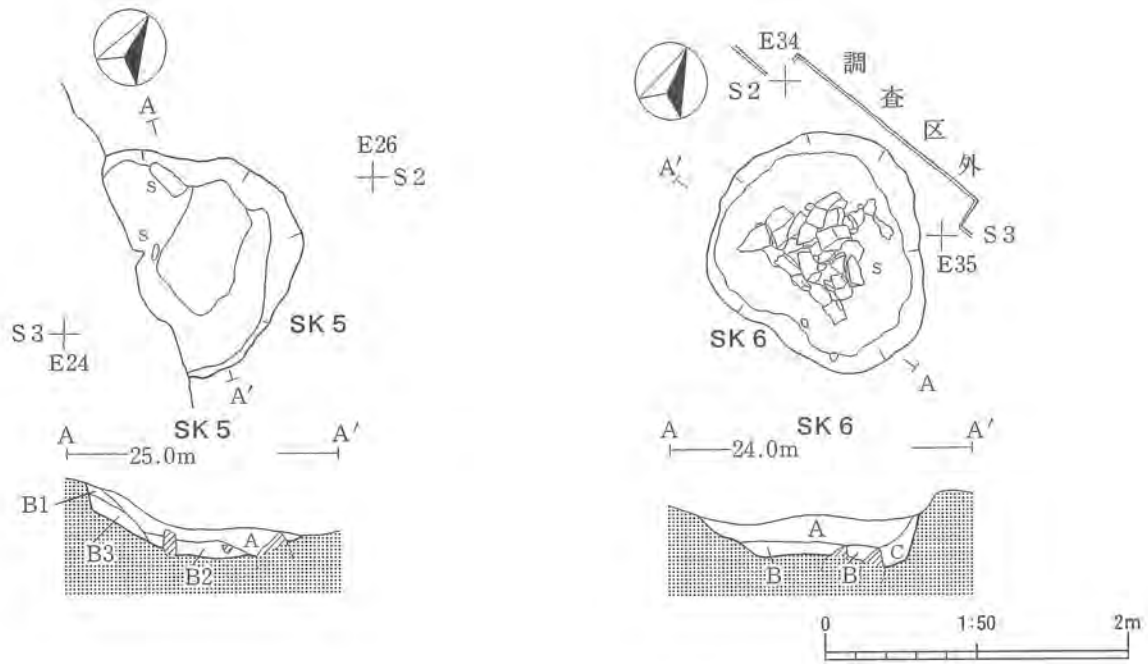
堆積土は4層に分けられる。A層は黒褐色埴壤土を基本土とし、やや硬質で粘性がややある。B層はB1～B3層に細別され、黒褐色砂壤土、壤土を基本土とするが、地山の土色に類似したブロック



Gトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水田耕作土 I	10YR2/2 黒褐色砂質埴壤土	10YR2/1 黒色砂質埴壤土	やや硬質、粘性なし 5mm次の小砂礫多量	砂礫層 VIb	10YR2/1 黒色砂壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 3mm~4mm次の小砂礫多量
水田耕作土 II	10YR3/1 黒褐色砂質埴壤土	7.5YR3/3 暗褐色砂質埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり	砂礫層 VIc	10YR4/6 褐色砂壤土	10YR2/3 黒褐色砂壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり 3mm~4mm次の小砂礫多量
水田床土 III	7.5YR2/2 黒褐色砂質埴壤土	5YR2/2 黒褐色砂質埴壤土5%塊状	硬質、粘性あり 2mm~3mm次の小砂礫多量	砂礫層 VI d	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり 3mm~4mm次の小砂礫多量
砂礫層 IV	10YR2/2 黒褐色砂質埴壤土	10YR3/1 黒褐色砂質埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり 2mm~3mm次の小砂礫多量	砂礫層 VII	2.5YR3/3 暗赤褐色シルト質壤土	5YR2/4 暗褐色赤褐色シルト質壤土1%塊状	硬質、粘性あり 3mm~4mm次の小砂礫多量
砂礫層 V	10YR2/1 黒色シルト質壤土	10YR2/2 黒褐色シルト質壤土5%塊状	硬質、粘性あり 2mm~3mm次の小砂礫多量	砂礫層 VIII	10YR4/6 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり 3mm~4mm次の小砂礫多量
砂礫層 VIa	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土40%塊状	やや硬質、粘性ややあり 3mm~4mm次の小砂礫多量	砂礫層 IX	2.5YR3/1 黒褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土10%塊状	軟質、粘性なし 3mm~4mm次の小砂礫多量

第38図 八木沢駒込I遺跡 (第3次調査) Gトレンチ平面図・断面図



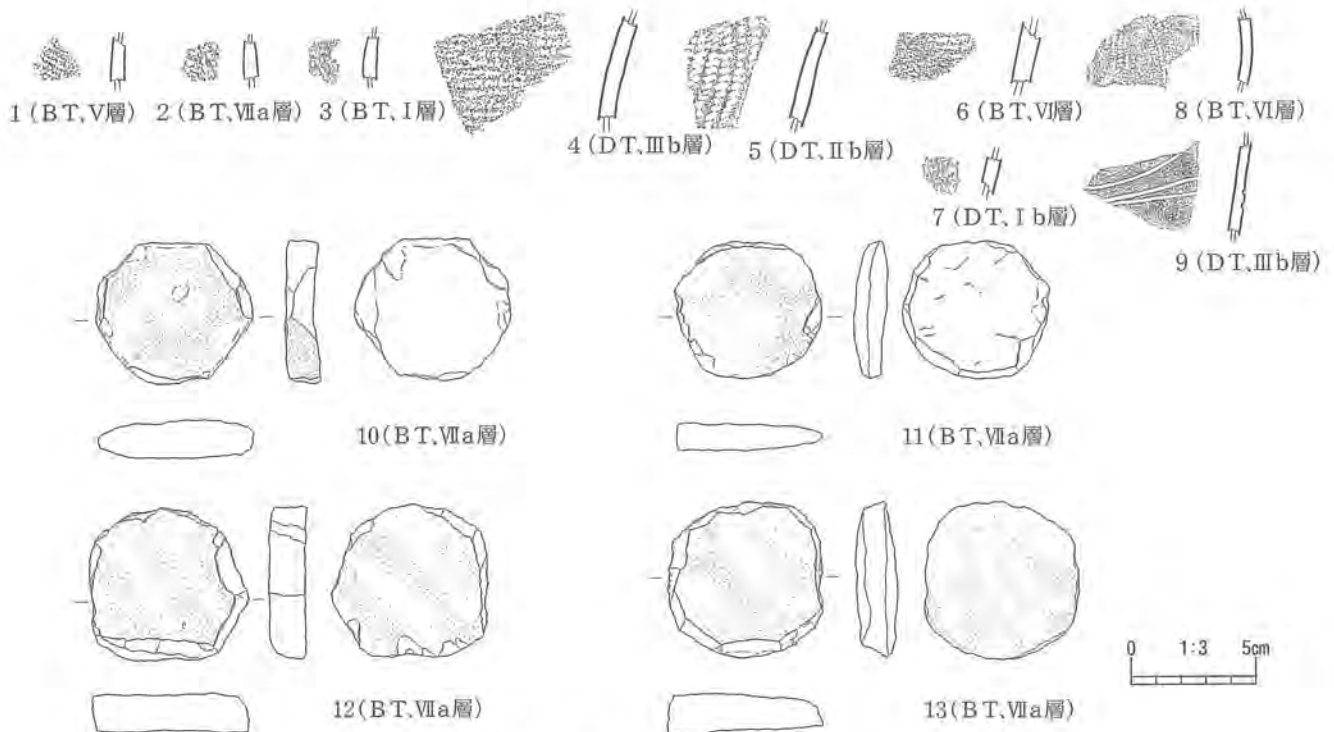
5号土坑(SK5) 土層観察表

層名	基本土	混入土	備考
土坑埋土 A	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり 5mm次の砂礫含まれる
土坑埋土 B1	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/4 暗褐色埴壤土40%塊状	軟質、粘性ややあり 5mm次の砂礫含まれる
土坑埋土 B2	10YR3/2 黒褐色埴壤土	10YR3/4 暗褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 5mm次の砂礫含まれる
土坑埋土 B3	10YR4/4 黒褐色埴壤土	10YR3/2 黒褐色埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり 5mm次の砂礫含まれる

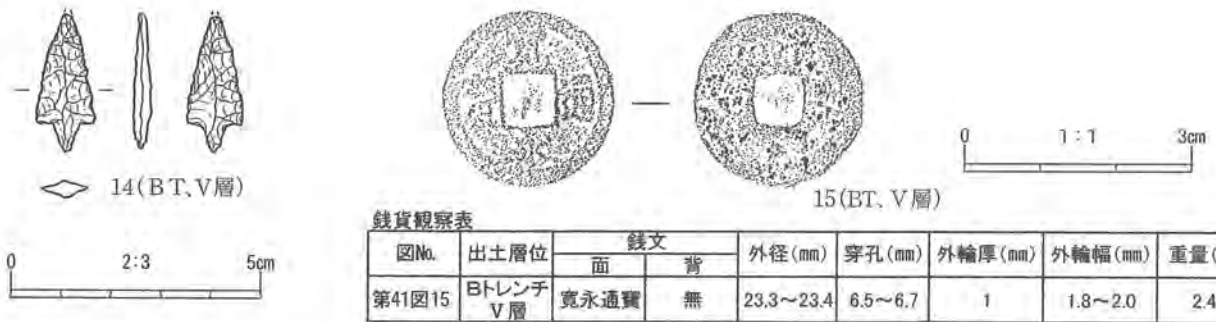
6号土坑(SK6) 土層観察表

層名	基本土	混入土	備考
土坑埋土 A	10YR2/1 黒色砂壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり 5mm次の礫多量、灰化物少量
土坑埋土 B	10YR2/1 黒色砂壤土	7.5YR4/6 褐色砂壤土1%塊状	軟質、粘性ややあり 5mm次の礫多量
土坑埋土 C	10YR2/1 黒色砂壤土	10YR3/1 黒褐色砂壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり

第39図 5・6号土坑 平面図・断面図



第40図 遺構外出土遺物（1）



第41図 遺構外出土遺物(2)

状の土塊が混入している。

**6号土坑(SK6)** (図版39、写真図版68・69)

6号土坑はDトレンチの中央で検出され、遺構確認面はII b層上面である。平面形は不整な円形で、長径1.59m、短径1.47m、深さ0.31mを測る。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

堆積土は3層に分けられ、5mm大の小礫が多数混入している。B層及びC層には花崗岩の礫が含まれ、土坑中央部分に集中している。人為的なものと思われ、これらの花崗岩礫を埋めるために構築された土坑であると考えられる。

**遺構外出土遺物** (図版40・41、写真図版70)

遺構外からは縄文土器7点、弥生土器2点、円形石製品4点、石鏃1点、寛永通寶1枚が出土している。

第40図1~7は縄文土器で、1~3はBトレンチから出土している。1はLR単節縄文が施文されているが、2・3は器面が摩滅しているため不明である。4~7はDトレンチから出土している。4はIII b層から出土し、LR単節縄文が施文されている。5はII b層から出土し、RL単節縄文である。6はI b層から出土し、施文は摩滅のため不明である。7はI b層から出土し、LR単節縄文である。

第40図8・9は弥生土器で、8はBトレンチVI層、9はDトレンチIII b層から出土している。ともに撚糸文で1段のLの条が縦方向に施文され、器厚は4mmと薄い。さらに9には撚糸文を施文した後に幅1mmの沈線が3本弧状に引かれている。

第40図10~13は円形石製品で、BトレンチVII a層から出土している。扁平な自然石を円形に作り出している。10は長径6.2cm、短径5.6cm、最大厚1.3cm、重さ64.8g、11は長径5.7cm、短径5.4cm、最大厚1.2cm、重さ45.4g、12は長径6.1cm、短径5.8cm、最大厚1.4cm、重さ90.3g、13は長径6.2cm、短径6.1cm、最大厚1.6cm、重さ82.8gを測る。12・13は両面とも自然面が残る。

第41図14は石鏃で、BトレンチV層から出土している。基部の形態は凸基で、両面に調整剥離がみられる。長さ2.7cm、最大幅1.2cm、最大厚0.3cmを測る。重さは0.8gである。

第41図15は寛永通寶でBトレンチのV層から出土している。背は無文であり、面の銭文の特徴から古寛永通寶である。

**第4節 試掘調査**

(1) 調査の概要

試掘調査地点は八木沢駒込I遺跡の東側に位置する尾根上に立地する。調査地点中央の尾根が最

も標高が高く、そこから東西方向に傾斜しながら尾根が分岐している。中央尾根の標高は約54mで、東西に分岐した尾根の先端部分との比高差は約10mである。東西2つの尾根の先端部は狭小ではあるが、ともに平坦な面を形成している。

調査は東西尾根にそれぞれトレンチ(Aトレンチ、Bトレンチ)を設定し、遺構の確認を行った。東側の尾根(Aトレンチ)は長さ37m、幅2mに設定し、尾根先端近くで、北東方向に屈曲している。西側の尾根(Bトレンチ)は長さ47m、幅2mに設定し、トレンチ西端においては土坑が検出されたため、さらに南側へ拡張している。調査面積は183m<sup>2</sup>である。

## (2) 調査経過

平成14年5月27日付け建第60号で宮古市建設課から埋蔵文化財発掘調査実施の依頼があり、8月26日から調査を開始した。まずAトレンチを設定し、さらに8月28日にはBトレンチを設定し人力で表土剥ぎを行なった。Aトレンチからは遺構は検出されず、9月12日から全体図を平板で作成した。9月24日に土坑が2基確認され、精査を行なった。10月8日からBトレンチの全体図及び地形図を作成した。10月18日に器材を撤収し、調査を終了した。延べ調査日数は28日である。

平成14年11月7日から12月27日、平成15年3月3日から3月28日まで整理作業を行なった。

## (3) 基本土層

基本土層はA・BトレンチともⅠ～Ⅳ層に大別され、さらにⅢ層はⅢa層とⅢb層に細別される。

### Aトレンチ

Ⅰ層：表土で、黒褐色砂壤土を基本土とし、軟質で粘性はない。

Ⅱ層：黒色砂壤土を基本土とし、軟質で粘性はない。トレンチ全体に堆積している。

Ⅲa層：地山漸移層で、褐色壤質砂土を基本土とし、地山層であるⅣ層よりもやや暗い土色をもつ。

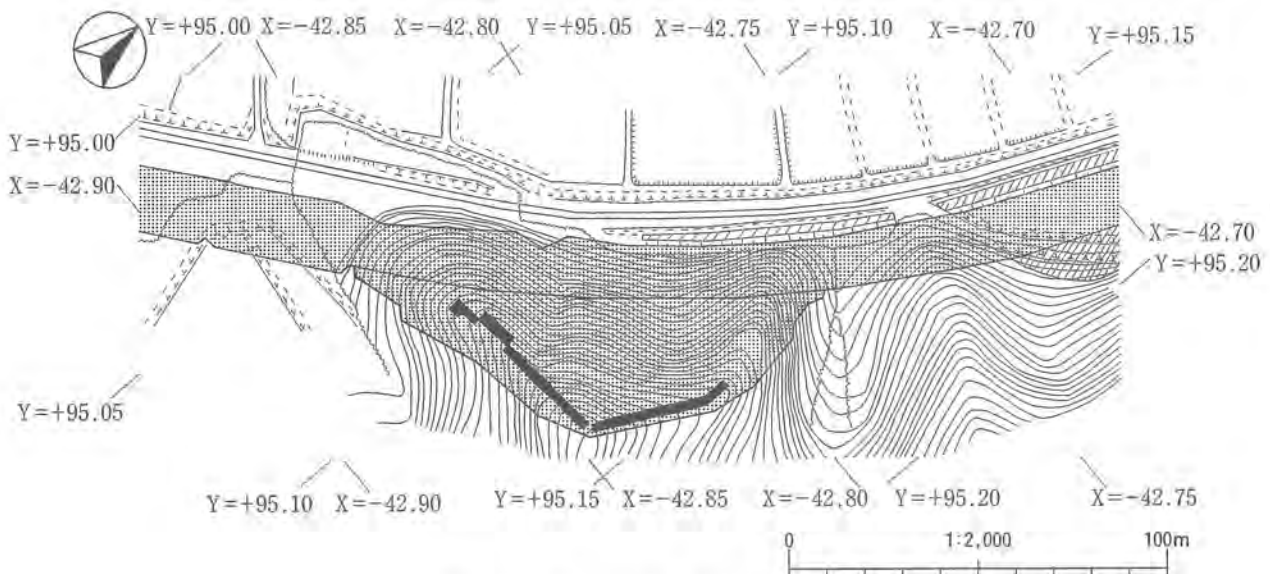
Ⅲb層：地山漸移層で、にぶい黄褐色壤質砂土を基本土とし、Ⅲa層よりもやや明るい土色をもつ。

Ⅳ層：地山層で、にぶい黄褐色砂壤土を基本土とする風化花崗岩である。

### Bトレンチ

Ⅰ層：表土で、黒褐色砂壤土を基本土とし、軟質で粘性はない。

Ⅱ層：黒色砂壤土を基本土とし、やや硬質で粘性はない。尾根斜面の上部、トレンチの東側にのみ

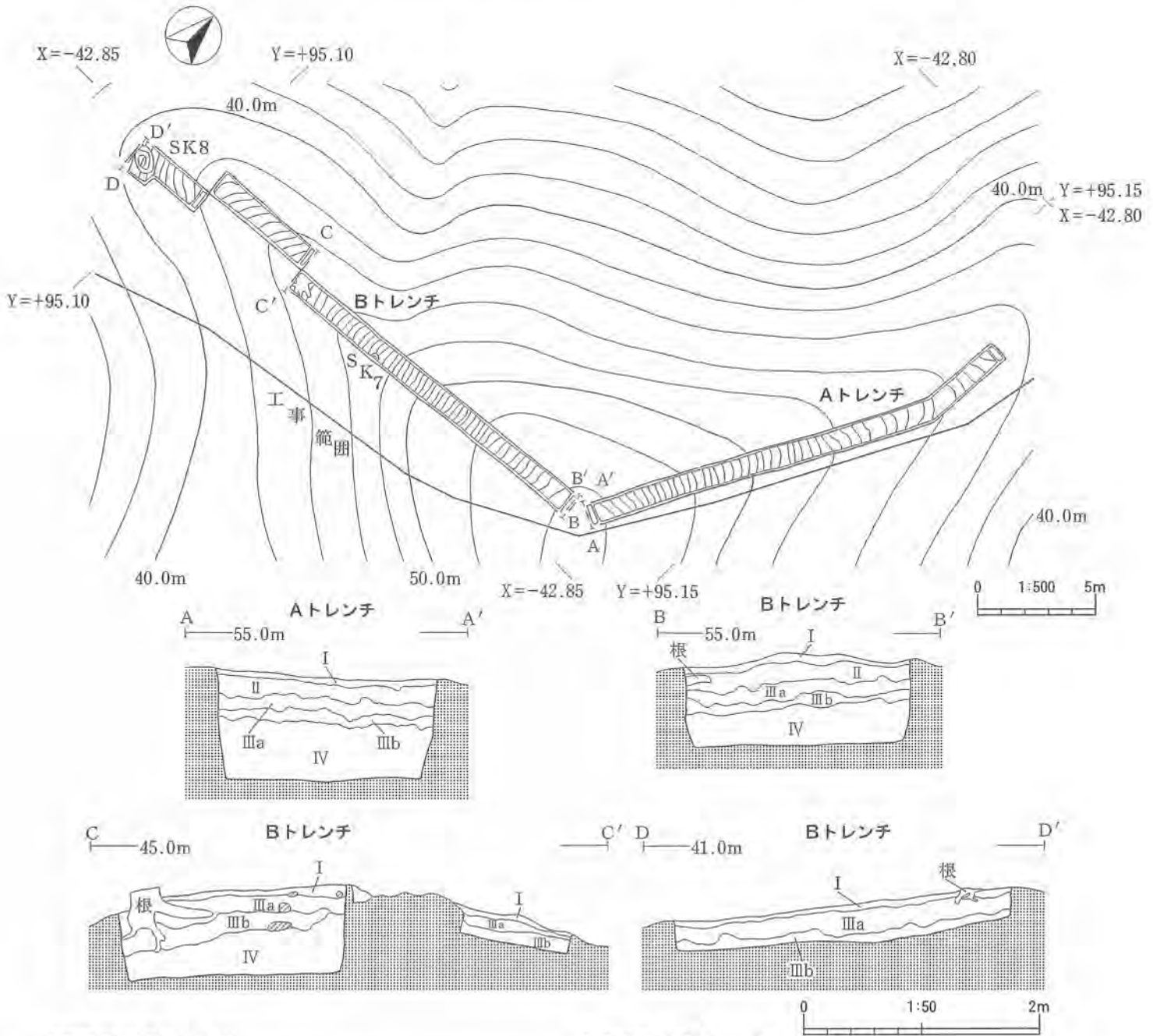


第42図 試掘調査 調査地点

堆積している。

Ⅲ a層：地山漸移層で、暗褐色砂壤土を基本土とする。やや硬質で粘性はない。Bトレンチ全体に堆積している。

Ⅲ b層：地山漸移層で、にぶい黄褐色砂壤土を基本土とする。やや硬質で粘性はややある。



試掘調査基本土層(Aトレンチ)

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土 I	10YR2/2 黒褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色砂壤土10%塊状	軟質、粘性なし
堆積土 II	10YR2/1 黒色砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土20%塊状	軟質、粘性なし
地山漸移層 IIIa	10YR4/4 褐色塊質砂土	10YR3/3 暗褐色塊質砂土10%塊状10%塊状 7.5YR2/1 黒色塊質砂土10%塊状 10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土10%塊状	軟質、粘性なし
地山漸移層 IIIb	10YR5/4 にぶい黄褐色塊質砂土	10YR6/3 にぶい黄褐色塊質砂土20%塊状	軟質、粘性なし
地山 IV	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土	10YR6/4 にぶい黄褐色砂壤土30%塊状	硬質、粘性あり

試掘調査基本土層(Bトレンチ)

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土 I	10YR3/2 黒褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土10%塊状	軟質、粘性なし
堆積土 II	10YR2/1 黒色砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土10%塊状	やや硬質、粘性なし
地山漸移層 IIIa	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土10%塊状	やや硬質、粘性なし
地山漸移層 IIIb	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色砂壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
地山 IV	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土	10YR6/4 にぶい黄褐色砂壤土30%塊状	硬質、粘性あり

第43図 試掘調査 全体図・基本土層図



IV層：地山層で、にぶい黄褐色砂壤土を基本土とする風化花崗岩である。

(4) 検出された遺構と遺物

Bトレンチから土坑2基が検出され、遺構外から縄文土器、弥生土器などが少数出土している。

7号土坑（SK7）（図版44、写真図版75）

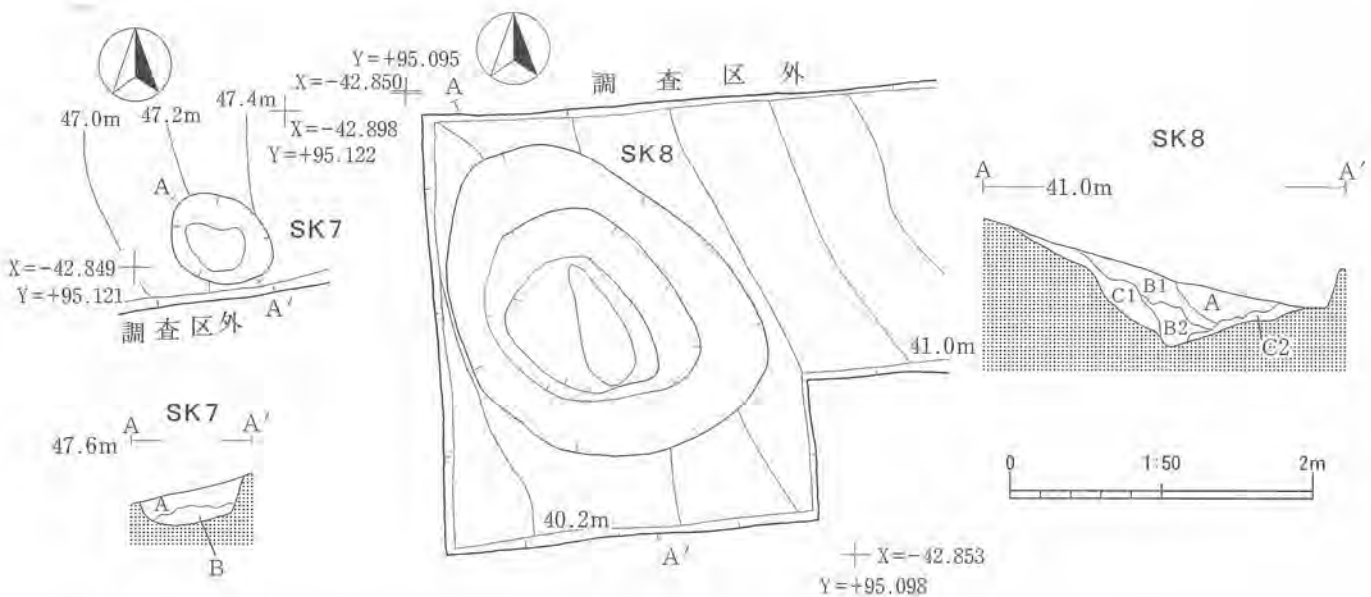
7号土坑はBトレンチの標高約47m地点で検出され、遺構確認面は地山面である。平面形は楕円形を呈し、長径0.74m、短径0.54m、深さ0.23mを測る。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

堆積土は2層に分けられ、B層は黄褐色砂壤土で、地山に極めて類似した土性をもつ。そのため、土坑の壁からの崩落土の可能性が考えられる。また炭化物粒がごく少量含まれる。遺物は出土していない。

8号土坑（SK8）（図版44、写真図版76）

8号土坑はBトレンチの西端で検出され、遺構確認面は地山面である。平面形は楕円形を呈し、長径2.38m、短径1.7m、深さ0.44mを測る。底面はすり鉢状に中央が落ち込んでおり、壁は緩やかに立ち上がる。

堆積土はA～C層に大別され、さらに5層に細別される。B1層には炭化物粒がごく少量含まれる。



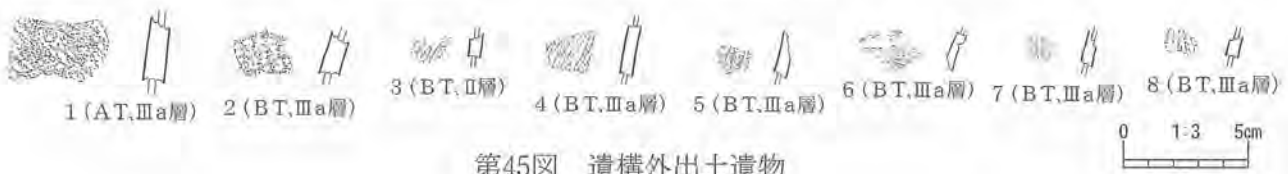
7号土坑(SK7) 土層観察表

層名	基本土	流入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土 A	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	やや硬質、粘性なし
土坑埋土 B	10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土5%混状	やや硬質、粘性なし 炭化物ごく少量

8号土坑(SK8) 土層観察表

層名	基本土	流入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土 A	10YR2/1 黒色砂壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土5%混状	やや硬質、粘性ややあり
土坑埋土 B1	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土10%混状	やや硬質、粘性ややあり 炭化物ごく少量
土坑埋土 B2	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土40%混状	やや硬質、粘性ややあり
土坑埋土 C1	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色砂壤土5%混状	やや硬質、粘性なし
土坑埋土 C2	10YR4/6 褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色砂壤土10%混状	やや硬質、粘性なし

第44図 7・8号土坑 平面図・断面図



第45図 遺構外出土遺物

遺物は出土していない。

#### 遺構外出土遺物（図版45、写真図版77）

遺構外からは縄文土器2点、弥生土器4点、時期不明土器が2点出土している。

第45図1はAトレンチのⅢa層から出土した縄文土器で、LR単節縄文が施文されている。第45図2はBトレンチのⅢa層から出土した縄文土器で、磨耗のため文様は不鮮明であるがLR単節縄文と思われる。第45図3はBトレンチのⅡ層から出土した弥生土器で、文様は撚糸文である。第45図4～6はBトレンチのⅢa層から出土した弥生土器で、4・5の文様は撚糸文である。6は幅1mmの横方向の沈線と交互刺突文が施される。第45図7・8はBトレンチのⅢa層から出土した時期不明の土器である。ともに幅約1mmの沈線が縦方向に引かれる。

### 第5節 まとめ

八木沢駒込I遺跡では第1次～第3次までの調査を行なった。第1次調査区は遺跡範囲の西側に位置し、山裾の斜面部と平坦部に立地している。斜面部から土坑2基、平坦部から土坑2基が検出され、計4基の土坑が確認された。土坑の長径は1号土坑で2.8m、2号土坑で約3.8mを測り、それに対して深さはそれぞれ0.2m、0.7mと、規模に比して深く掘り込まれていないという特徴をもつ。遺物は出土せず性格については不明である。遺物は遺構外から出土した円形石製品1点と銭1枚のみであり、周辺に人々の生活の痕跡は見出せなかった。

第2次調査区は第1次調査区から東へ続く平坦地に位置している。調査の結果、遺構は確認されず、表土中から鉄滓が出土しているのみである。調査区の周辺は八木沢川による水成堆積土が厚くなっていると考えられ、深さ1mも掘り下げると湧水がひどくなる。そのため人々の生活には適していない立地であるといえる。

第3次調査区は第2次調査区からさらに東に位置し、段状の平場をもつ地点と水田として利用されている地点で調査を実施している。調査の結果、土坑が2基検出され、縄文土器、弥生土器、円形石製品などが出土した。土坑からは遺物が出土していないが、5号土坑周辺から円形石製品まとまって出土しており、土坑との関連が考えられる。遺構外からは縄文土器・弥生土器などが出土しているが、砂の粒子が粗い水成堆積層と思われる砂層中からの出土であり、北流し八木沢川へ流れ込む沢によって下流へ流されてきたものと推測される。



39. 第1次調査区 遠景（北→）



40. 第1次調査区 調査状況（北→）



41. 1号土坑 堆積状況（北西→）



42. 1号土坑 完掘状況（北→）



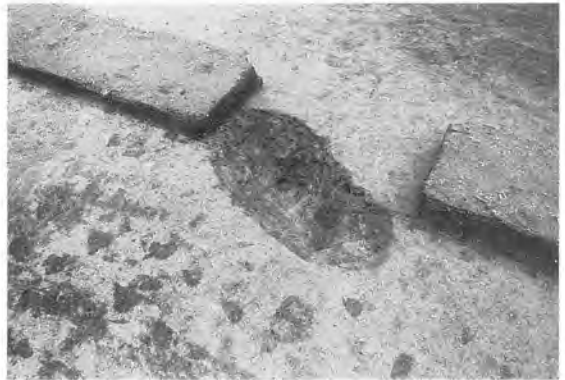
43. 2号土坑 堆積状況（北西→）



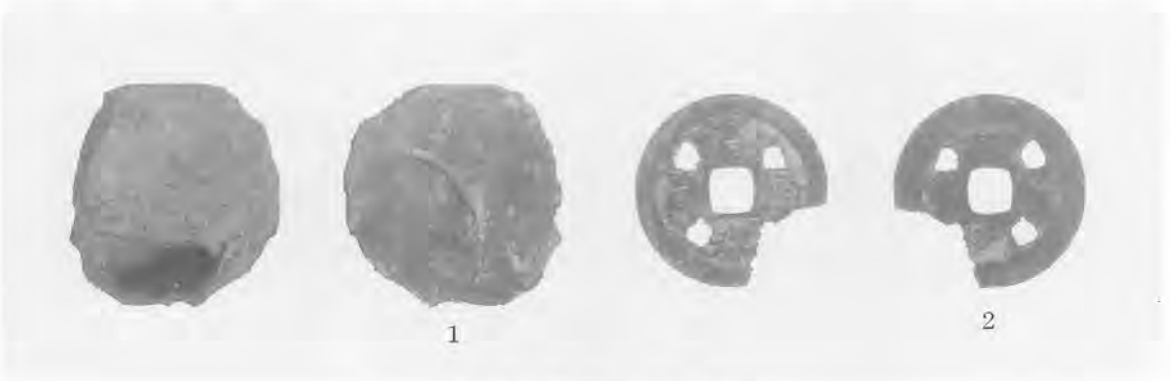
44. 2号土坑 完掘状況（北→）



45. 3号土坑 完掘状況（南→）



46. 4号土坑 完掘状況（南東→）



47. 第1次調査出土遺物



48. 第2次調査区 遠景（北東→）



49. 第2次調査区 調査状況（南西→）



50. A区 調査状況 (西→)



51. A区 堆積状況 (南西→)



52. A区 堆積状況 (南西→)



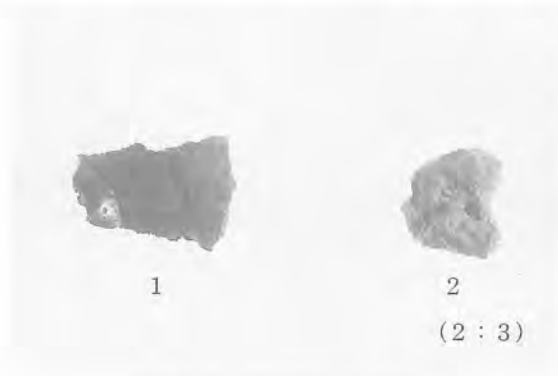
53. A区 堆積状況 (南西→)



54. B区 調査状況 (南西→)



55. B区 堆積状況 (南→)



56. 第2次調査出土遺物



57. 第3次調査区 遠景(南→)



58. 第3次調査 調査前状況(北東→)



59. Aトレンチ 掘り下げ状況(東→)



60. Bトレンチ 掘り下げ状況(東→)



61. Bトレンチ拡張部分 遺構検出状況(北→)



62. Cトレンチ 掘り下げ状況 (西→)



63. Dトレンチ 掘り下げ状況 (北→)



64. Eトレンチ 堆積状況 (東→)



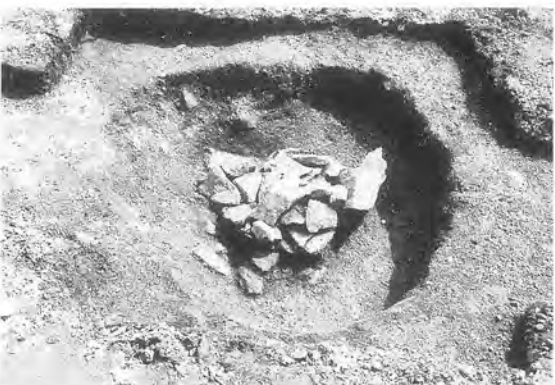
65. Fトレンチ 掘り下げ状況 (南東→)



66. Gトレンチ 掘り下げ状況 (東→)



67. 5号土坑 完掘状況 (東→)

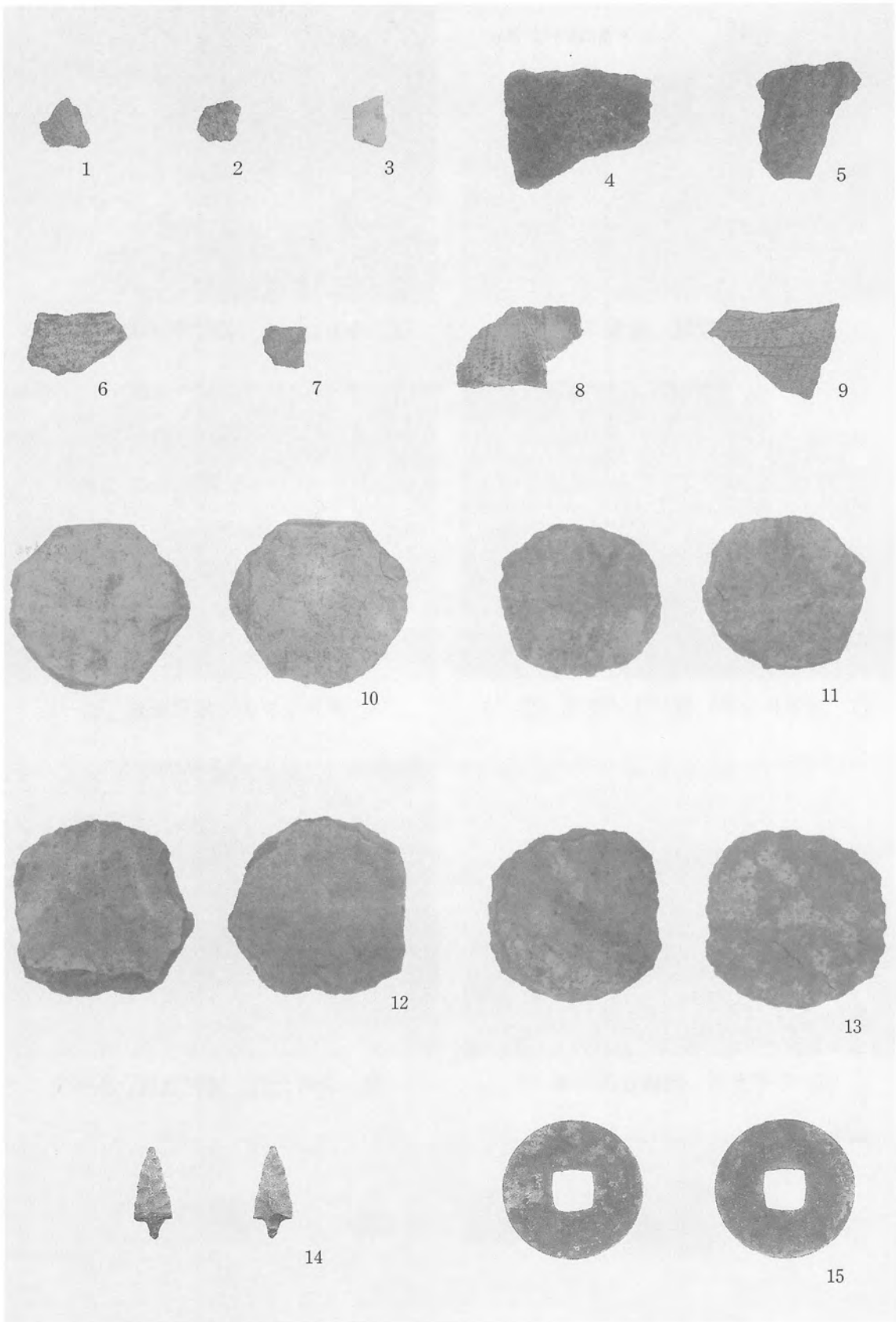


68. 6号土坑 礫出土状況 (東→)



69. 6号土坑 完掘状況 (東→)





70. 第3次調査出土遺物



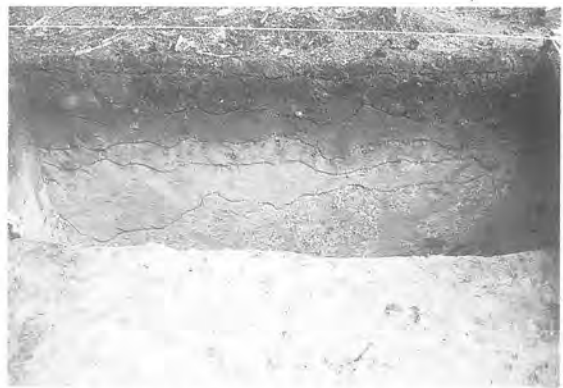
71. 試掘調査区 遠景（北→）



72. Aトレンチ 掘り下げ状況（東→）



73. Bトレンチ 掘り下げ状況（西→）



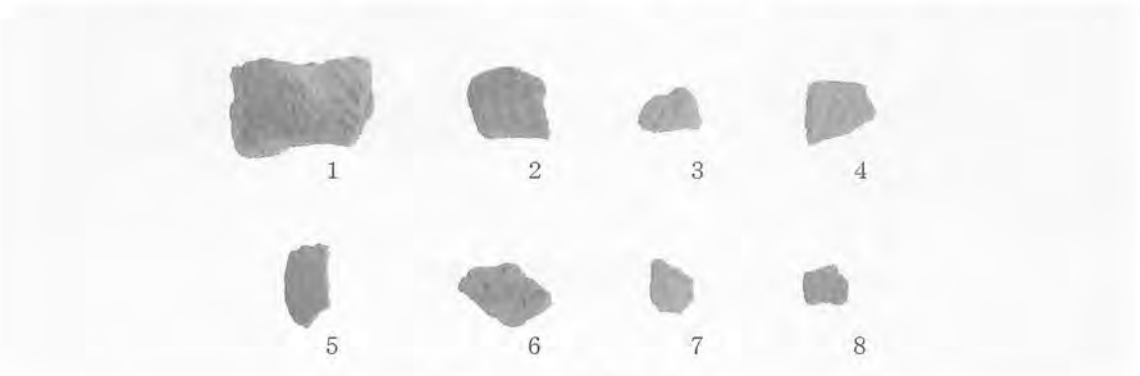
74. Aトレンチ 堆積状況（南→）



75. 7号土坑 完掘状況（南→）



76. 8号土坑 完掘状況（南→）



77. 試掘調査出土遺物

## 第5章 まとめ

本発掘調査は市道岸ノ前ラントノ沢線道路改良工事に伴い実施されたもので、調査の対象となった遺跡は八木沢古館、八木沢中田遺跡、八木沢駒込Ⅰ遺跡の3遺跡である。平成7年度から平成15年度まで継続的に調査が行われ、調査面積は合わせて約1,865㎡である。

### 八木沢古館

八木沢古館の調査は平成7年度から平成10年度にかけて第1～3次調査が行われた。調査区は尾根先端部分の斜面及び尾根上に位置し、八木沢古館の遺跡範囲の北端に立地する。調査の結果、落とし穴2基・土坑13基・溝状遺構1基が検出された。落とし穴は第1次調査と第2次調査で1基ずつ確認され、ともに尾根上から4～5m下がった地点で検出された。平面形は細長い溝状の形態をもち、規模は1号落とし穴が長径3.13m、短径1.07m、深さ0.96m、2号落とし穴は長径2.84m、短径0.64m、深さ1.0mを測る。短径において1号落とし穴の方が幅広であるが、長径や深さは近似した数値を有する。周辺の遺跡における類例は、島田遺跡で1基、島田Ⅱ遺跡で2基検出され、平面形は本遺跡と同様に細長い溝状を呈するものである。ともに縄文時代の遺構とされ、本遺跡における落とし穴も形態や規模などから縄文時代に属するものと考えられる。

土坑は合計13基検出された。第1次調査では西面する斜面にみられた段状の平場部分において確認され、第2・3次調査では尾根上において確認されている。第1次調査で検出された1号～11号土坑の規模は長径平均1.32m、短径平均1.17m、深さ平均0.81mを測り、平面形は円形ないし楕円形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は長方形のような形態をもち、このような土坑の規模や形態などから規格性をもって構築されたものと考えられ、ある同一の使用目的を共有していると推測される。なお、第2次調査で検出された12号土坑のA層からは多量の炭化物が出土し、部分的ではあるが、土坑の埋没過程において人為的な行為が考えられる。

溝状遺構は第2・3次調査区で検出された。尾根上の平坦面において確認され、規模は長さ約6mを測り、南の方角からみると逆L字形に屈曲している。またその周辺からは小規模な溝状遺構や土坑状の遺構が確認されており、それらの覆土が同じことから同一遺構であると判断した。そのため本来溝は正方形に掘り込まれたが、上面が掘削されたために掘り込みが深い部分のみが残存し、結果として逆L字形に検出されたものと考えられる。

本遺跡からは縄文土器、弥生土器、石鏃が出土している。特に弥生土器については第2次調査区においてまとめて出土しており、詳細については後述する。

八木沢古館は八木沢氏を館主とする中世城館で、主郭・二の郭・三の郭・空堀などが現状でも観察される。今回の調査では城館に伴う遺構及び遺物は確認されず、そのため調査区は館の範囲外にあると考えられ、館の範囲の北端は調査地点よりもさらに尾根上に存在すると思われる。しかしながら、尾根先端部分の斜面という決して良好な立地状況ではない中で、落とし穴や土坑などの遺構が検出されたことは多様な土地利用の形態を物語っているといえよう。

### 八木沢中田遺跡

八木沢中田遺跡の調査は平成12・13年度に第1・2次調査が行われた。調査の結果、土坑1基、ピット1基、溝跡1条が検出された。土坑とピットは第1次調査において隣接して検出され、土坑は斜面に対して段状に掘り込み、斜面上方のみ壁が立ち上がる形態をもち、土坑の規模は長辺3.5m、短辺0.6mを測り、狭小ではあるが平坦面を作り出すために構築されたものと思われる。溝跡は第2次調

査で検出され、長さは約23mを測り、尾根に沿って緩やかに蛇行している。溝跡も土坑・ピットと同様に遺物は出土していないため時期は不明であるが、溝跡については底面が硬化していたという観察から道として機能していたのではないかと推測される。

第1・2次調査の地点はともに尾根先端部分の斜面に位置している。標高約50mの尾根上から調査区までの比高差は約10mを測り急な斜面となっており、生活には適さない立地状況であったと思われる。しかし、八木沢古館同様、さらに尾根上の平坦面においては遺構・遺物が検出される可能性が考えられる。

### 八木沢駒込 I 遺跡

八木沢駒込 I 遺跡は平成7年度から平成15年度にかけて第1～3次調査及び試掘調査が行われた。調査の結果、土坑が8基確認された。調査区が立地する地形は尾根先端部分の裾部にみられる緩斜面と沢によって形成された平坦面に大きく分けられ、検出された土坑は全て前者の地形に立地する。平坦面は現在、一部が水田として利用され、掘り下げを行うと湧水がひどく、また地山を確認することはできなかつたため、人々の生活には適していない地形であったと考えられる。

尾根先端部分の緩斜面からは第1次調査で土坑4基、第3次調査で2基、尾根上の試掘調査で2基が検出されている。このうち第3次調査区において段状に平場となっている部分で検出された5号土坑の周辺のⅦa層からは円形石製品がまとまって出土している。5号土坑の覆土中から出土したものではないが、第3次調査区において円形石製品はこの地点でのみ出土していることから土坑との関連が考えられる。6号土坑はDトレンチで検出され、覆土中からは花崗岩の破碎したものが出土した。他に遺物が出土していないため明確な時期は判断できなかったが、これらの花崗岩を埋める目的で構築されたものと考えられる。他の土坑についても遺物が出土していないため時期は不明である。

本遺跡から出土した遺物は縄文土器、弥生土器、石鏃、寛永通寶などで、主に第3次調査区から出土している。また、これらは水成堆積層である砂層中からの出土が大半を占めているため、原位置からは動いている可能性が考えられる。

八木沢駒込 I 遺跡はJ R山田線の踏切を中央にして東西に広がる遺跡範囲となっているが、今回の調査で遺跡の東側については大部分を確認したことになる。遺構・遺物ともに確認はされたが、密度としては薄いもので、人々の生活につながるようなものが出土しなかった。そのため遺跡の本体はJ R山田線の踏切よりも西側に広がる畑地にあるのではないかと推測される。

### 八木沢古館・八木沢駒込 I 遺跡出土の弥生土器について

今回の八木沢古館・八木沢駒込 I 遺跡の発掘調査では少数ながらも弥生土器が出土している。八木沢古館第2次調査で19点、八木沢駒込 I 遺跡で6点、総数25点を数える。全て遺構外からの出土である。八木沢古館からは底部が残存する土器が出土し、底部からの立ち上がりの器形を若干ではあるが推測することができるが、この他の土器は全て破片資料であり、器形や器種について検討することはできなかつた。そのためここでは土器に施文された文様構成から、土器の所属時期などについて検討していきたい。

今回出土した弥生土器は文様から次のⅠ～Ⅲ類に分類することができる。

Ⅰ類：撚糸文を縦位に施文した後に弧状の沈線が引かれるもの（第40図9）

Ⅱ類：交互刺突文が施文されるもの（第45図6）

Ⅲ類：縦位及び斜位に撚糸文が施文されるもの（第19図1～19、第40図8、第45図3～5）

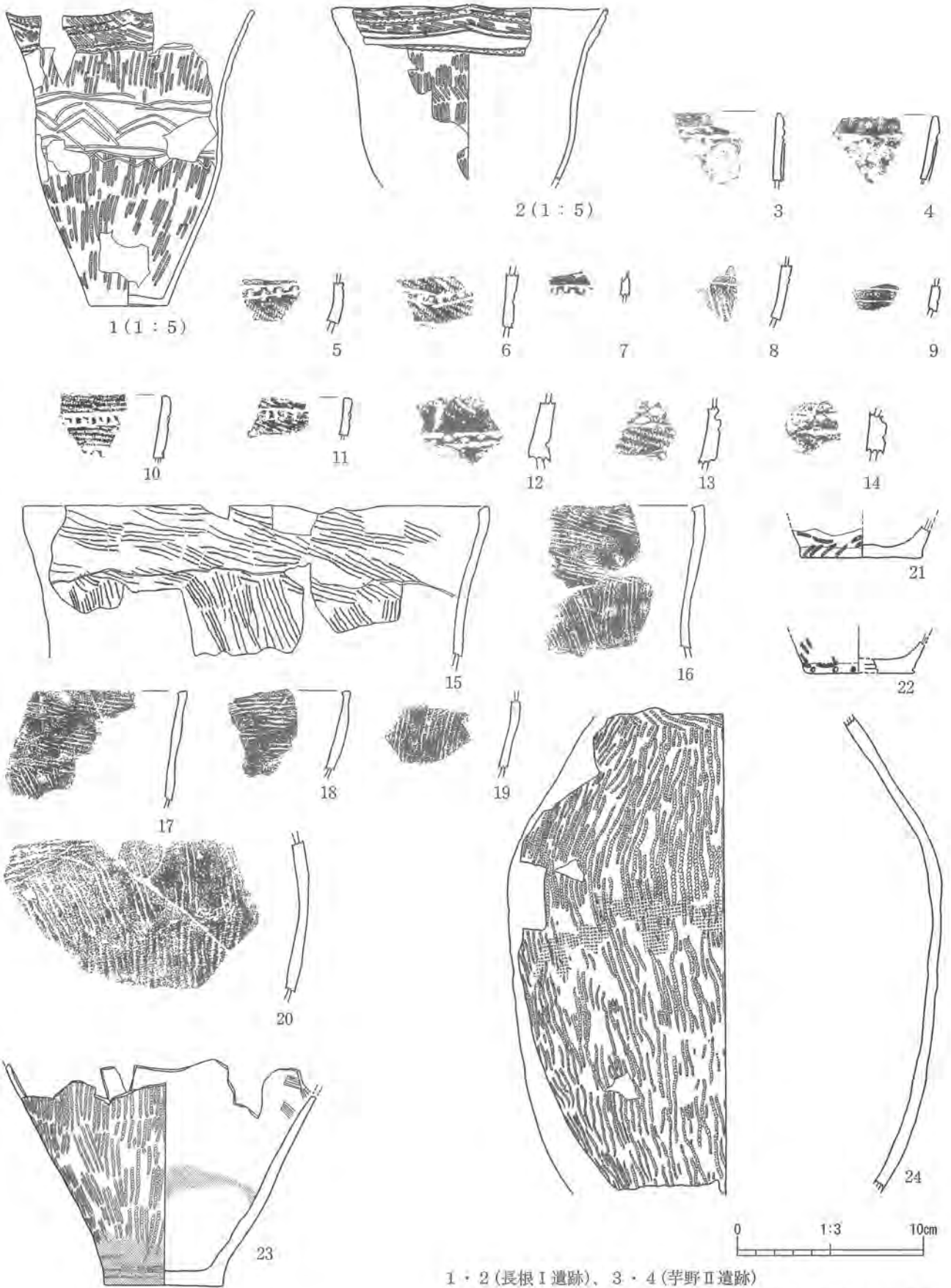
I類は1点のみで八木沢駒込I遺跡第3次調査で出土したものである。縦位の撚糸文を切るように3本の沈線が横方向に引かれている。そのうち2本は平行に引かれ、あとの1本は底部側に向かって広がるように弧状に引かれており連弧文であると思われる。II類も1点のみで八木沢駒込I遺跡試掘調査で出土したものである。横位に引かれた2本の沈線に対して約2mmの間隔で刺突が3箇所に見られ、交互刺突文というよりは刺突列のような平面的な文様となっている。III類は最も多く出土しているもので、体部破片と底部破片の2つがある。底部破片は、底部の立ち上がり部分では斜位に施文され、体部では縦位に施文されている。体部破片では第40図8のように縦位の撚糸文の施文単位がみられるものがある。

これらの文様の特徴から、八木沢古館・八木沢駒込I遺跡から出土した土器は弥生時代後期に属するものであると考えられる。該期の土器について小田野哲憲氏の弥生土器編年によるとIV期・V期に相当すると思われる。IV期は口縁部や頸部において横方向に施文される交互刺突文や連弧文、連続山形文、また体部に施文される撚糸文、附加縄文などの文様があるとしている。V期については平面的な交互刺突文あるいは単なる刺突列になるものが増えるとし、また体部には羽状または縦走する撚糸文や附加縄文が施文されるとしている。またこの他にも該期の土器については佐藤嘉広氏により天王山式古・新段階、赤穴式段階に細分する案が提示され、さらに斎藤邦雄氏は交互刺突文の形態を分類し、天王山式相当段階として交互刺突様浮線文段階→交互刺突文段階、赤穴式相当段階として退化交互刺突文段階→特殊撚糸文段階に分類する編年案をまとめている。しかし、該期の土器は断片的な資料が多いことや斎藤氏がいう交互刺突文と退化交互刺突文が同一個体にみられる例もあることから、日下和寿氏は大きく天王山式に併行する段階、赤穴式に比定される段階の大きく2段階とした。筆者も交互刺突文の変遷のみを抽出し、それをそのまま時期差と捉えるには資料数が不足していると考えており、ここでは天王山式に併行する段階と赤穴式の段階の大きく2つに分けた前述の小田野氏によるIV期、V期の分類に基づき考えてみたい。

これらの編年を八木沢古館・八木沢駒込I遺跡から出土した土器に当てはめると、前述した文様分類のI類の土器は天王山式に併行する段階（IV期）と考えられる。I類の文様には交互刺突文はみられないが連弧文が施文されておりIV期の特徴を有しているといえる。一方III類の土器は撚糸文のみの特徴であり、大きくIV期・V期と捉えられ、その中でも撚糸文が斜位か縦位かという施文方向や条の大きさなどに違いがみられた。またII類とした交互刺突文が施文された土器は小破片であり全体の文様構成は不明であるため、あえて細分せずやはり大きくIV期・V期として捉えておきたい。

ここで周辺の遺跡における弥生時代後期の類例をみてみたい。該期の遺構・遺物が検出された遺跡は宮古市内では16遺跡を数える。天神山遺跡、花原市遺跡、赤畑遺跡、木戸井内Ⅲ遺跡、狐崎遺跡、芋野Ⅱ遺跡、長根Ⅰ遺跡、鯉沢遺跡、赤前Ⅳ八枚田遺跡、千鷲Ⅳ遺跡、大付遺跡、鉦ヶ崎館山貝塚、払川館跡、八木沢森ノ越Ⅳ遺跡、大又沢Ⅱ遺跡、大程Ⅱ遺跡などである。

花原市遺跡では堅穴住居跡の覆土中、赤前Ⅳ八枚田遺跡においても堅穴住居跡及び土坑の覆土中、さらに大付遺跡からは土坑覆土中からまとまって出土している。しかし、それ以外の遺跡については包含層中や遺構外、または遺構覆土への混入などの出土状況であり、大部分が破片資料であるという特徴をもち、明確にIV期・V期に細別することは難しい。この中で長根Ⅰ遺跡から出土した土器（第46図1）や払川館跡（第46図24）・木戸井内Ⅲ遺跡（第46図23）から出土した土器はそれぞれIV期・V期の特徴を端的に表している。第46図1は口縁部から底部まで復元することができ、器種は甕である。施文は縦位の撚糸文を地文とし、口縁部には2条を1対とする沈線が2条巡り、沈線間には交互刺突



1・2(長根Ⅰ遺跡)、3・4(芋野Ⅱ遺跡)  
 5～9・15～20(赤前Ⅳ八枚田遺跡)、10・11・23(木戸井内Ⅲ遺跡)  
 12～14(天神山遺跡)、21・22(花原市遺跡)、24(弘川遺跡)

第46図 宮古市内における主な弥生時代後期土器

文が施文されている。体部上半には2条及び3条の山形の沈線がみられ、IV期の特徴を有している。第46図23・24はともに甕になると思われるが残存している部分が少ないため詳細な器形は不明であるが、体部には縦位の撚糸文が施文され、底部には横位の撚糸文、そして頸部には斜位の撚糸文がみられる。これらはV期に属するもので、撚糸文を有する多くの破片資料はこのような甕の一部である可能性が考えられる。

宮古市内におけるIV期・V期の土器をみてみると該期の文様を構成するものは大きく交互刺突文と縦位及び斜位の撚糸文に集約されているといえる。IV期に特徴的な沈線によって連弧文などを施文するものは長根Ⅰ遺跡や赤前Ⅳ八枚田遺跡などから出土した少数の土器にしかみられない。それに対して交互刺突文については多くの土器にみられ、その形態には赤畑遺跡出土土器（中村良一他 1989年）のように下から突き上げるような刺突文や長根Ⅰ遺跡（第46図1）のように交互に刺突することで波状の文様を作り出すもの、さらに今回調査した八木沢駒込Ⅰ遺跡出土土器のように横方向の沈線に刺突を加えるだけのものなどがみられた。これらの交互刺突文は「しっかりとした」タイプから、しだいに「崩れていく」（日下 2000）傾向が指摘され、一つの指標となりうるが、前述のとおりはたしてそれが時期差を表すものであるのかを判断することは、破片資料が大半を占める現時点では難しいといわざるを得ない。資料の少なさから「土器型式内のパリエーションを変遷過程に置き換えてしまう」（日下 2000）ことも考えられ今後慎重に検討する必要があると思われる。

遺構については、現在、竪穴住居跡3棟（花原市遺跡、赤前Ⅳ八枚田遺跡、鯉沢遺跡）、土坑3基（赤前Ⅳ八枚田遺跡2基、大付遺跡1基）が検出されているのみである。この他鯉沢遺跡において遺物は出土していないものの重複関係などから該期に属すると想定される竪穴住居跡が2棟検出されているが、それでも他の時代と比較すると極めて僅少な遺構数といえる。この中で前述の赤前Ⅳ八枚田遺跡から検出された2基の土坑は、報告書中では墓壇の可能性があるとされ、さらに住居跡と近接していることから住居域・墓域を考える上で重要な遺構であると考えられている。また鯉沢遺跡からは土製の紡錘車出土しており該期の生業の問題において注目される資料である。このように遺構・遺物が少ない現段階で該期の様相について論じることは難しく、今後の類例を待ち検討する必要があると思われる。

## 総括

市道岸ノ前ラントノ沢線道路改良工事に伴う調査は、平成7年度から平成15年度まで約8年間にわたり調査を実施してきた。狭い範囲での調査が主で、遺構数や遺物量からすれば隣接する島田Ⅱ遺跡とは比較にならないほど少ないが、それでも落とし穴や土坑、溝跡などが検出され人々の活動の痕跡が垣間見られた。再三述べてきたように今回は尾根先端の斜面部分のみの調査であり、尾根上には島田Ⅱ遺跡のように多数の遺構が存在する可能性が考えられる。

## ＜主な引用・参考文献＞

- |       |       |   |
|-------|-------|---|
| 小田野哲憲 | 1987年 | 「岩手の弥生式土器編年試論」『岩手県立博物館研究報告』第5号                |
| 中村良一他 | 1989年 | 『赤畑遺跡発掘調査報告書』第142集 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター        |
| 光井文行他 | 1990年 | 『長根Ⅰ遺跡発掘調査報告書』第146集 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター       |
| 斎藤邦雄  | 1993年 | 「岩手県にみられる後北式土器と在地弥生土器について」『岩手考古学』第5号          |
| 日下和寿  | 2000年 | 「岩手県における弥生後期の土器編年」『東日本弥生時代後期の土器編年』東日本埋蔵文化財研究会 |
| 小山内透他 | 2004年 | 『島田Ⅱ遺跡第2～4次発掘調査報告書』第450集岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター   |

# 報告書抄録

ふりがな	やぎさわふるたて やぎさわなかた やぎさわこまごめ 1							
書名	八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込 I 遺跡							
副書名	市道岸ノ前ラントノ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	67							
編著者名	長谷川真							
編集機関	岩手県宮古市教育委員会							
所在地	〒027-8501 岩手県宮古市新川町 2 番 1 号 TEL.0193-62-2111 FAX.0193-63-9119							
発行年月日	2006/3/24							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / "	東経 ° / ' / "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やぎさわふるたて 八木沢古館	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 おおあぎやぎさわ 大字八木沢 あびてらがさわ 第 5 地割字寺ヶ沢、 あざながた 第 6 地割字中田	03202	LG43-0357	39° 36' 53"	141° 56' 41"	第 1 次調査 950628~950823 960301~960327	250	市道岸ノ前 ラントノ沢線 道路改良工事 に伴う 事前調査
						第 2 次調査 970501~970711	300	
						第 3 次調査 980717~980929	75	
やぎさわなかた 八木沢中田遺跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 おおあぎやぎさわ 大字八木沢 あざながた 第 6 地割字中田、 あざらんとのさわ 第 7 地割字ラントノ沢	03202	LG43-0364	39° 36' 48"	141° 56' 24"	第 1 次調査 001026~001122	70	市道岸ノ前 ラントノ沢線 道路改良工事 に伴う 事前調査
						第 2 次調査 010425~010621	250	
やぎさわこまごめ 八木沢駒込 I 遺跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 おおあぎやぎさわ 大字八木沢 あざらんとのさわ 第 7 地割字ラントノ沢、 あぎこまごめ 第 8 地割字駒込	03203	LG43-1206	39° 36' 38"	141° 56' 8"	第 1 次調査 950620~950704	280	市道岸ノ前 ラントノ沢線 道路改良工事 に伴う 事前調査
						第 2 次調査 961018~961212	280	
						第 3 次調査 030408~030519	177	
						試掘調査 020826~021018	183	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
八木沢古館	城館遺跡	縄文時代、弥生時代 中世	落とし穴 2 基 土坑 13 基 溝状遺構 1 基	縄文土器、弥生土器、石鏃				
八木沢中田遺跡	その他の 遺跡	近世	土坑 1 基 ピット 1 基 溝跡 1 条	銭貨（寛永通寶）				
八木沢駒込 I 遺跡	集落	縄文時代、古代	土坑 8 基	縄文土器、弥生土器、石鏃、石製品 鉄滓、銭貨				



宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

- |   |   |
|---|---|
| 1 1979 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』                       | 36 1992 『細越Ⅰ遺跡・芋野Ⅵ遺跡―農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書―』                          |
| 2 1980 『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』                        | 37 1992 『崎山遺跡群Ⅵ―平成3年度発掘調査概報―』   |
| 3 1983 『宮古市遺跡分布調査報告書Ⅰ』                        | 38 1993 『萩沢Ⅱ遺跡―平成4年度発掘調査報告書―』   |
| 4 1984 『宮古市遺跡分布調査報告書Ⅱ』                        | 39 1993 『早稲枒Ⅵ遺跡―第1次・第2次発掘調査報告書―』                                      |
| 5 1984 『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』                  | 40 1993 『崎山遺跡群Ⅶ―平成4年度発掘調査概報―』   |
| 6 1985 『宮古市遺跡分布調査報告書Ⅲ』                        | 41 1994 『崎山遺跡群Ⅷ―平成5年度発掘調査概報―』   |
| 7 1985 『金浜館跡発掘調査報告書』                          | 42 1995 『赤前Ⅰ牛子沢遺跡―平成4年度発掘調査報告書―』                                      |
| 8 1986 『宮古市遺跡分布調査報告書Ⅳ』                        | 43 1995 『磯鷲館山遺跡発掘調査報告書』   |
| 9 1986 『宮古市遺跡分布図―昭和60年度版―』                    | 44 1995 『崎山貝塚―範囲確認調査報告書―』   |
| 10 1986 『中谷地・島田遺跡調査報告書』                       | 45 1995 『佐沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・塚ノ神遺跡―市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』                  |
| 11 1987 『崎山貝塚・トロノ木Ⅳ遺跡調査報告書』                   | 46 1995 『花原市遺跡―平成4年度発掘調査報告書―』   |
| 12 1987 『寒風・早稲枒Ⅳ遺跡調査報告書』                      | 47 1995 『宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲枒Ⅱ遺跡・崎山貝塚』                                   |
| 13 1987 『崎山遺跡群Ⅰ―昭和60年度発掘調査概報―』                | 48 1996 『大付遺跡―平成5年・6年度発掘調査報告書―』                                       |
| 14 1988 『青笹Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群(堀合館)―昭和62年度発掘調査報告書―』 | 49 1997 『花原市遺跡―平成8年度発掘調査報告書―』   |
| 15 1988 『崎山遺跡群Ⅱ―昭和62年度発掘調査概報―』                | 50 1997 『白石遺跡―第6次発掘調査報告書―』  |
| 16 1989 『千鶏遺跡―昭和62年度発掘調査報告書―』                 | 51 1998 『赤畑・天神山・山口館―北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書―』                         |
| 17 1989 『トロノ木Ⅰ遺跡―第1～7次発掘調査報告書―』               | 52 1998 『藤加遺跡―平成9年度発掘調査報告書―』  |
| 18 1989 『崎山遺跡群Ⅲ―昭和63年度発掘調査概報―』                | 53 1999 『赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小堀内Ⅲ遺跡―水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』 |
| 19 1989 『高根遺跡―昭和63年度発掘調査報告書―』                 | 54 1999 『千鶏Ⅳ遺跡―水産課千鶏地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』                      |
| 20 1989 『狐崎Ⅵ遺跡―昭和63年度発掘調査報告書―』                | 55 1999 『崎山貝塚―第12次・13次内容確認調査概報』                                       |
| 21 1989 『崎山トロノ木Ⅳ遺跡―昭和63年度調査報告書―』              | 56 2000 『木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡―特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』        |
| 22 1990 『狐崎遺跡―平成元年度発掘調査報告書―』                  | 57 2002 『山口館跡―北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』                             |
| 23 1990 『崎山遺跡群Ⅳ―平成元年度発掘調査概報―』                 | 58 2002 『小沢Ⅵ大上遺跡―市内遺跡発掘調査報告書Ⅱ―』                                       |
| 24 1990 『磯鷲館山遺跡―昭和63年度発掘調査報告書―』               | 59 2003 『大又沢Ⅱ遺跡―東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書―』                            |
| 25 1990 『銀ヶ崎館山貝塚―平成元年度発掘調査報告書―』               | 60 2003 『上根井沢Ⅰ遺跡・沼里遺跡―市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ―』                                  |
| 26 1991 『崎山遺跡群Ⅴ―平成2年度発掘調査概報―』                 | 61 2003 『早稲枒Ⅱ遺跡第6次調査―市内遺跡発掘調査報告書Ⅳ―』                                   |
| 27 1991 『青笹Ⅰ・千徳城遺跡群―平成元年・2年度発掘調査報告書―』         | 62 2003 『下在家Ⅰ遺跡―平成14年度発掘調査報告書―』                                       |
| 28 1990 『熊野町遺跡―昭和63年度発掘調査報告書―』                | 63 2004 『大程Ⅱ遺跡・平浜遺跡―市道関伊崎線改良工事関係発掘調査報告書―』                             |
| 29 1991 『弘川Ⅰ遺跡―平成2年度発掘調査報告書―』                 | 64 2005 『弘川館跡―瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書―』                                      |
| 30 1992 『金浜Ⅰ遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成2年度)発掘調査報告書』    |   |
| 31 1992 『重茂館遺跡群―第1次調査報告書―』                    |   |
| 32 1992 『黒森町Ⅰ遺跡―平成2年度発掘調査報告書―』                |   |
| 33 1992 『高根遺跡―平成3年度発掘調査報告書―』                  |   |
| 34 1992 『經沢遺跡群―平成2年度発掘調査報告書―』                 |   |
| 35 1992 『大付遺跡―平成3年度発掘調査報告書―』                  |   |

宮古市埋蔵文化財調査報告書 67

やぎさわふるたて やぎさわなかた やぎさわこまごめⅠ  
八木沢古館・八木沢中田遺跡・八木沢駒込Ⅰ遺跡

―市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書―  
2006, 3

平成18年3月24日発行

発行 岩手県宮古市教育委員会  
〒027-8501 宮古市新川町2番1号  
TEL. 0193-62-2111

印刷 ショウジ印刷株式会社  
〒027-0084 宮古市末広町4番10号  
TEL. 0193-62-1326





